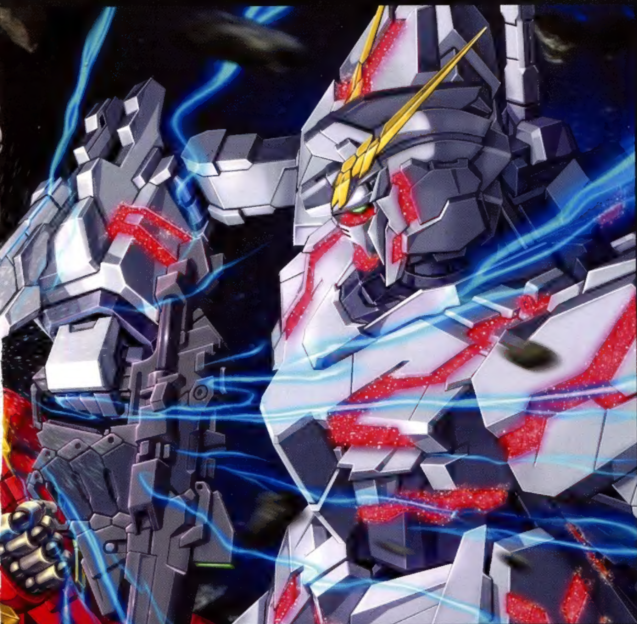
機動戦士ガンダムUC

［ユニコーン］

MOBILE SUIT GUNDAM UNICORN

DATA COLLECTION

電撃データコレクション



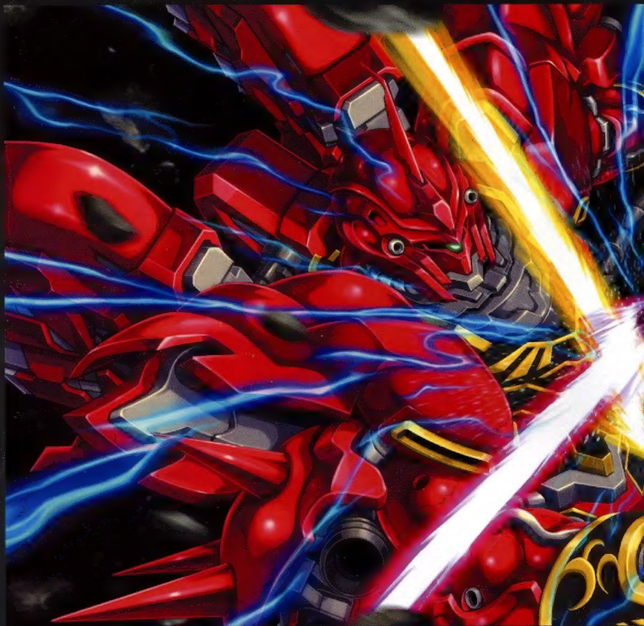
一角獣(ユニコーン)の胎動

『ラプラスの箱』を巡る争いと
バナージ・リンクスの旅立ち

人類が宇宙に進出して100年の時を迎えようとしていた宇宙世紀0096年――地球圏は停滞期に移りつつあった。その世界で日々を過ごしていた少年バナージ・リンクスは、〈インダストリアル7〉で謎の少女オードリー・バーンと出会う。その邂逅と時を同じくして動き出す『ラプラスの箱』を巡る争い。戦火の中、バナージは為すべきことを探し、ユニコーンガンダムに辿りつく。『箱』の鍵となる純白のMSに込められた想いを受け継ぎ、そのコックピットに座るバナージ。そして、真の姿を現したてん〝可能性の獣〟を前にして、オードリーは呟く――。

「ガンダム……」

ユニコーンガンダムで戦ったバナージは、地球連邦軍ロンド・ベル隊の強襲揚陸艦《ネェル・アーガマ》に収容され、〈インダストリアル7〉で保護されたオードリーと再会する。だが、息つく間もなくネオ・ジオン残党軍『袖付き』の襲撃を受ける。それを率いたのは真紅のMS、シナンジュを駆る仮面の男――フル・フロンタル。「シャア・アズナブルの再来」に圧倒される中で、ジオン公国の遺児ミネバ・ラオ・ザビという正体を明らかにしたオードリーを守るた



め、バナージはフロンタルに挑んだ。

「また敵となるか、ガンダム！」

だが、奮戦及ばずバナージは敗れ、資源衛星〈パラオ〉でフロンタルと対面する。

一方、《ネェル・アーガマ》ではバナージとユニコーンガンダムの奪還が企図され、オードリーは戦いを止めるためにリディ・マーセナスと地球に降りる決意を固める。〈パラオ〉攻略戦の混乱に乗じて脱出を図り、オードリーたちを見送るバナージ。だが、マリーダ・クルスとの対決の中でユニコーンガンダムはNT-Dを発動させ、『箱』の鍵としての姿を現し始める。そして、バナージは人を傷つけることを恐れ、『箱』の行方を追う流れに困惑する。それでも、大人たちに背中を押され、旧首相官邸〈ラプラス〉の捜索に加わるバナージ。しかし、NT-Dの発動を誘うフロンタルの攻撃によって、ダグザ・マックールが命を落とす。

「お前は私の希望――託したぞ、バナージ！」

ダグザの死に逆上し、フロンタルを執拗に追うバナージ。だが、バナージが放ったビームはシナンジュを庇ったギルボア・サントの機体を直撃する。〈パラオ〉で縁を持ったギルボアを殺してしまった現実に呆然とするバナージを乗せて、ユニコーンガンダムは重力の井戸――地球へと落下していくのだった。

illustration : K2 SHOUKAI

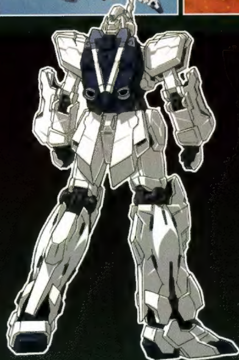
ユニコーンガンダム［ユニコーンモード］

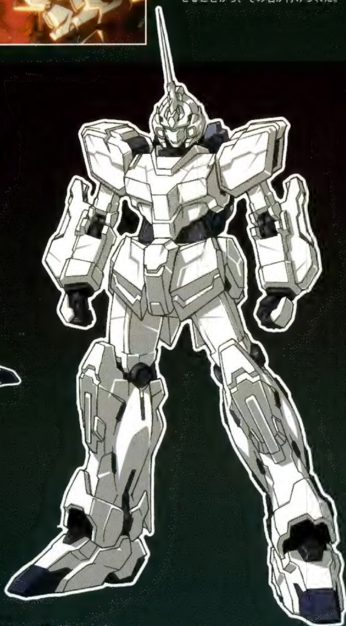
UNICORN GUNDAM (UNICORN MODE)

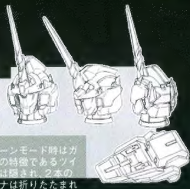




純白で統一された姿と頭部に伸びる1本角を持つ姿は、神話上の生物である一角獣＝ユニコーンを彷彿とさせることから、その名が付けられた。







ユニコーンモード時はガンダムの特徴であるツインアイは隠され、2本のアンテナは折りたたまれて角のような形態となっている。

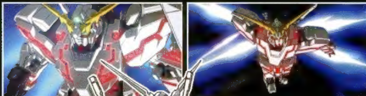
宇宙世紀0100年に向けて、地球連邦軍再編計画のひとつとして動き出した『UC計画』。そのフラグシップ機として開発された機体がRX-0ユニコーンガンダムであり、ユニコーンモードはその通常形態を指す。本機は、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社に開発が委託され、全身のムーバブルフレームをサイコフレームで形成した実験機として開発が進められた。また、ニュータイプとの戦闘時に発動する特殊オペレーションシステム「NT-D」が搭載されている。開発の指揮にあたったビスト財団の当主であるカーディアス・ビストにより、特定の条件を満たすと『ラプラスの箱』への道を示す「La+プログラム」が組み込まれ、『箱』を開けるための鍵としての役割を持つ機体である。

FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
RX-0 / UNICORN GUNDAM(UNICORN MODE)

全高:19.7m
本体重量:23.7t
全備重量:42.7t
ジェネレーター出力:3480kW
スラスター総推力:142600kg
センサー有効半径:22000m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／ビーム・マグナム／60mmバルカン砲／ハイパー・バズーカ／シールド／ビーム・ガトリングガン

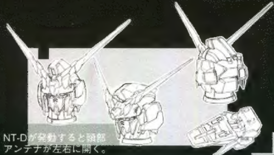
UNICORN GUNDAM (DESTROY MODE)



「NT-D」が発動すると、サイコフレームが露出し赤く発光。他の機体を圧倒するほどの機動性と戦闘力を発揮した。







NT-Dが発動すると頭部アンテナが左右に開く。フェイス部分も変形し、ツインアイが展開する。

ユニコーンガンダム［デストロイモード］

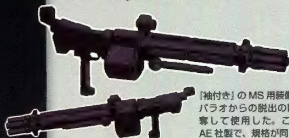
「NT-D」システムを発動したユニコーンガンダムの姿。「NT-D」は、ニュータイプパイロットの感応波を察知すると自動的に発動する。つまり、ニュータイプを駆逐するために、リミッターが解除された状態となる。サイコフレームが延伸されることで、装甲各部が展開してサイコフレームが露出し、頭部のアンテナが展開することで「ガンダム」としての本来の姿を見せる。全身の内部骨格にパイロットの感応波に反応するサイコフレームが採用されているため、パイロットの思考を機体にダイレクトに反応させるが、パイロット自身にも大きな負荷を掛けてしまう。そのため、限界稼働時間は5分が限度とされていた。また、サイコフィールドを発生させることで敵の機体やサイコミュ兵器を操縦不能にすることも可能である。

FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
RX-0 / UNICORN GUNDAM(DESTROY MODE)

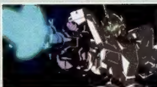
全高:21.7m
本体重量:23.7t
全備重量:42.7t
ジェネレーター出力:計測不能
スラスター総推力:計測不能
センサー有効半径:計測不能

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／ビーム・トンファー／ビーム・マグナム／60mmバルカン砲／ハイパー・バズーカ／シールド／ビーム・ガトリングガン

■ Beam Gatling Gun

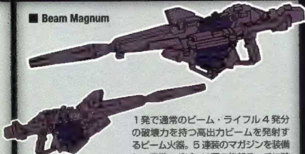


『袖付き』のMS用装備だが、パラオからの脱出の際に強奪して使用した。これは、AE社製で、規格が同じだったため。



2つのビーム・マシンガンは銃床部で接続させることが可能で、前腕部に直接取り付けられる。

■ Beam Magnum



1発で通常のビーム・ライフル4発分の破壊力を持つ高出力ビームを発射するビーム火器。5連装のマガジンを装備し、予備マガジンは腰の後部ラッチに装着する。



掠っただけでMSに大ダメージを与えるが、1発でエネルギー・パックをひとつ消費する。

■ Hyper Bazooka

連邦軍系MSが装備する実体弾系の火器。携行しやすいよう、砲身が伸縮式となっている。



▲砲弾



通常弾のほか、散弾など、数種類の砲弾を使用可能。バズーカ本体は背部にマウントされた。



◀マガジン接続部

■ Shield

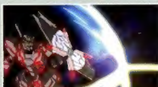
機体の形態に合わせて変形するサイコフレーム内蔵の専用シールド。デストロイモード時には、サイコフレームが「X字形」に露出する。



▲デストロイモード時



▲ユニコーンモード時



シールドの中央部にはIフィールド発生装置が内蔵されており、ビーム攻撃に対しても高い防御力を発揮する。

■ Beam Saber / Beam Tonfa

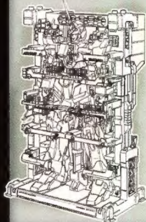
近接戦闘用の武装で、前腕部に2本とバックパックに2本の計4本を装備している。バックパックのそれはデストロイモード時に展開する方式となっている。





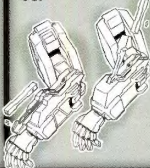
デストロイモードでは腕部のビーム・サーベルを展開し、ビーム・トンファーとして使用される。

■専用ゲージ

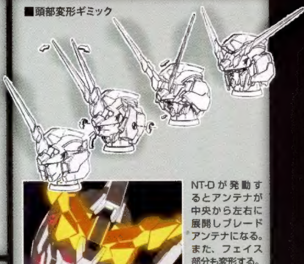


■ Arm

前腕部にはビーム・サーベルを収納。基部が前方に倒れる様に可動してビーム・トンファーとなる。



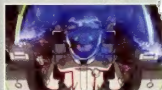
■頭部変形ギミック



NT-Dが発動するとアンテナが中央から左右に展開しブレードアンテナになる。また、フェイス部分も変形する。

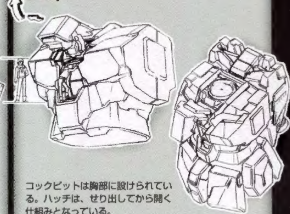
■ Cockpit

コックピットも機体の状態によって形状が変化するシステムが採用されている。



NT-Dが発動すると、シートがパイロットの全体を覆い、感応波を受信しやすい形状に変わる。

■ Body



コックピットは胸部に設けられている。ハッチは、せり出してから開く仕組みとなっている。









バナージ・リンクス
BANAGHER LINKS

〈インダストリアル7〉のアナハイム工専に通う少年。オードリー（ミネバ）と出会ったことがきっかけとなり、父が開発したユニコーンガンダムに乗り込むこととなる。



カーディアス・ビスト
CARDEAS VIST

ビスト財団の二代目当主で、ユニコーンガンダムに「La＋プログラム」を搭載した人物。実の息子であるバナージにユニコーンガンダムを託す。

リゼル（隊長機）

ReZEL (COMMANDER TYPE)



同一部隊のリゼルだが、装備する武装によって攻撃時のポジションが異なる。隊長機は全体の状況を見つつ長距離支援攻撃を担当した。

グリプス戦役時に実戦投入され、高い戦果を誇った可変MS、MSZ-006 Zガンダム。地球連邦軍では、その技術を継承すべく様々なアプローチを行った。その結果、本格的な可変MSとして完成したのがリゼルである。リゼルは、主力機であるジェガンとの連携を前提に開発された〝汎用機〟であるため、ミッションに応じて装備を変更することが可能となっている。ネェル・アーガマに搭載されていたMS小隊隊長のノーム・バシリコック少佐の乗るリゼルは、視認識別しやすいようセンサーの色がグリーンに、胸部と脚部のカラーリングがダークグレーに塗装され、翼状のパーツがついたパックパックを装備していた。

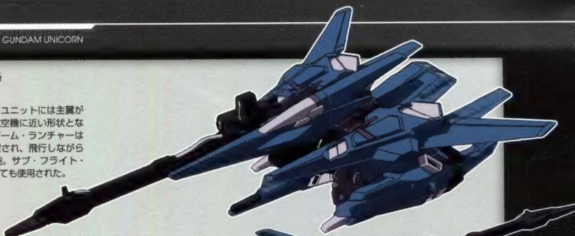
E.F.S.F. MASS-PRODUCED TRANSFORMABLE MOBILE SUIT
RGZ-95C / ReZEL(COMMANDER TYPE)

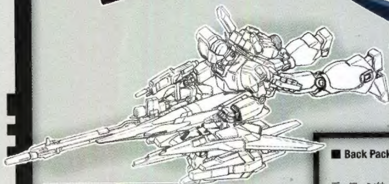
全高:20.5m
本体重量:28.1t
全備重量:62.8t
ジェネレーター出力:2220kW
スラスター総推力:85400kg
センサー有効半径:14920m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／メガ・ビーム・ランチャー／グレネード・ランチャー／60mmバルカン砲／ビーム・キャノン／シールド

■ WR Mode

バックパックユニットには主翼が配置され、航空機に近い形状となる。メガ・ビーム・ランチャーは機首横に配置され、飛行しながらの攻撃も可能。サブ・フライト・システムとしても使用された。







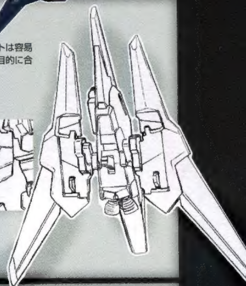


■ Back Pack Unit

ディフェンサーユニットは容易に着脱が可能で、運用目的に合わせて換装できた。

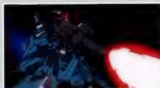


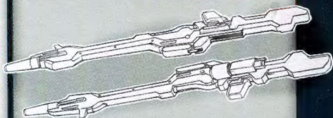
▲ユニット接続部



■ Mega Beam Launcher

ハイパー・メガ・ランチャーのコンセプトを受け継ぐ長距離攻撃用武装。効果力を活かしてアウトレンジからの火力支援を行う。





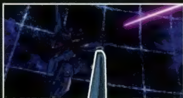




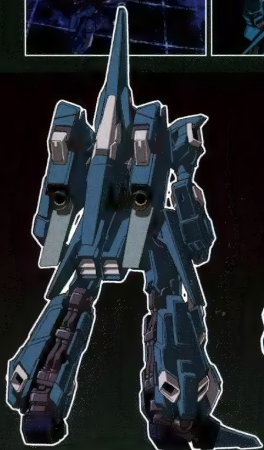
ノーム・バシリコック

NORM BASILICOCK

ネェル・アーガマのMS小隊の隊長。最年少パイロットのリディを気に掛けていたが、フル・フロンタルの乗るシナンジュとの戦闘時に危機に陥ったリディを援護した際に撃墜されてしまう。




バックパックユニットや武装も状況に合わせて換装が可能であるため、隊長機と一般機はカラーリング以外の違いはない。






ブレードアンテナやデュアルアイは持たない。ベースとなったZガンダムを簡略化したような頭部形状となっている。

ネェル・アーガマに配備されていた一般型のリゼル。簡易式の変形機構に加え、主力機のジェガンとアクチュエーターや内装電子機器などの基本部品を共通化することで、生産コストを抑えている。また、リミッターを設けることで出力特性の不安定さを抑え、さらに新型OSのサポートによって、経験が浅いパイロットでもある程度のシミュレーションや訓練で、一定の性能を発揮できるように調整されている。一般機は、発光するセンサー類がレッドとなり、胸部や脚部がダークブルーで塗装されている。ネェル・アーガマには、ジェガンと連携して運用するため、複数機が配備されていた。

E.F.S.F. MASS-PRODUCED TRANSFORMABLE MOBILE SUIT
RGZ-95 / ReZEL

全高:20.5m
本体重量:25.8t
全備重量:57.6t
ジェネレーター出力:2220kW
スラスター総推力:81500kg
センサー有効半径:14920m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル/ロング・ビーム・サーベル/ビーム・ライフル/グレネード・ランチャー/60mmバルカン砲/ビーム・キャノン/シールド

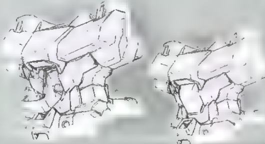
■ WR Mode

メタスの簡易的な変形機構を採用。そのため、変形後の形状はメタスのMA形態に近い。サブ・フライト・システムとしての運用も想定されていた。



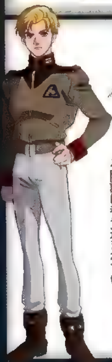
■変形シークエンス





■ Body

コックピットハッチは、胸部の特殊な形状で、ハッチ自体が下がる機構が採用されている。



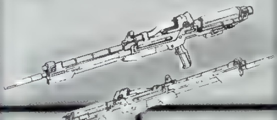


リディ・マーセナス
RIDDHE MARCENAS

名門政治家一族の子息だが、家の束縛を嫌い軍に志願。ネェル・アーガマにリゼルのパイロットとして配属された。そこで、ミネバ・ラオ・ザビと出会い、『ラプラスの箱』を巡る陰謀に巻き込まれていく。

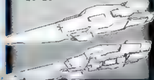
■ Beam Rifle

主兵装であるビーム・ライフルは長砲身のモデル。銃口からビーム刃を展開し、ビーム・サーベルとしても使用できる。



■ Shield

ウェイブライダー形態時に機銃代わりに使用可能なビーム・キャノンを内蔵している。



■ Beam saber

左右の前腕部に各２本ずつ内蔵されており、使用時に射出される。



ジェガンD型

JEGAN (TYPE:D)

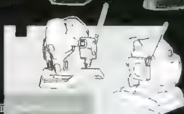




地球連邦軍の主力機として運用され続けており、高い汎用性から
バリエーション機も生み出された。







左側面
を装備
は変更
部に関しては、これまで
のジェガンと比べて大き
な変更は見られない。

E.F.S.F. MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
RGM-89D / JEGAN [type:D]

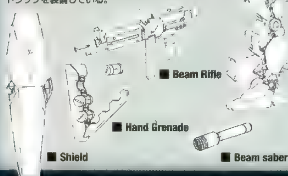
全高:19.0m
本体重量:21.3t
全備重量:47.3t
ジェネレーター出力:1870 kW
スラスター総推力:62000 kg
センサー有効半径:16800 m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／バルカン・ポッド・システム／ハンド・グレネード／シールド

ジム・シリーズに代わる、連邦軍の主力MS。安定した性能と高い生産性、さらに近代化改修に対応できる拡張性を持った機体として多くのバリエーションが存在する。ジェガンD型は、特務仕様機であるRGM-89Sスタークジェガンへの換装を前提としたマイナーチェンジが施された機体で、肩部形状やフロントアーマーに増加装備を装着するための改良がなされている。

Weapons

兵装は、ビーム・ライフルやシールド、ビーム・サーベルといったスタンダードな構成。左腰部に3発のハンド・グレネードを格納した、グレネードラックを装備している。







ジェガンD型のバリエーションのひとつ。長距離支援に特化した性能を付与されているが、格闘戦にも対応する汎用性を備える。





STARK JEGAN



頭部に
甲に合
分にも
ている。バルカンやセンサー類は、通常タイプと基本的には変わらない。

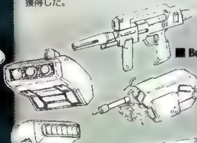
E.F.S.F. ANTI-SHIP ASSAULT MOBILE SUIT
RGM-89S / STARK JEGAN

全高:19.2m
本体重量:28.4t／全備重量:6[illegible]
ジェネレーター出力:1870kW
スラスター総推力:76600kg
センサー有効半径:16800m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／バルカン・ポッド・システム／グレネード・ランチャー／3連装ミサイル・ポッド／ハイパー・バズーカ

Weapons

肩部に備えた３連装ミサイルポッドに加え、専用のハイパー・バズーカを装備する。これらの装備により、長距離支援攻撃に特化した性能を獲得した。





ジェガンD型に追加装備を施した強化仕様機。『シャアの反乱』後、地球連邦軍内では軍縮の機運が高まっており、新型機開発よりも既存機の改修による軍事費の縮小を図ろうとした。スタークジェガンは、そうした流れの中で生まれたバリエーション機のひとつで、増加装甲とスラスター、マウント式の武装を追加することで、基本性能の向上が図られている。

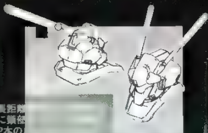
スタークジェガン

プロトスタークジェガン




ネェル・アーガマに補充された機体はパラオ攻略戦に投入され、遠距離からのミサイル攻撃を実施した。



長距離
に額部
2本の
追加され、頭頂部などの形状も大きく変更されている。

STARK JEGAN (PROTOTYPE)

E.F.S.F. ANTI-SHIP ASSAULT MOBILE SUIT
RGM-89S / PROTOTYPE STARK JEGAN

全高:19.2m
本体重量:29.1t／全備重量:69.8t
ジェネレーター出力:1870 kW
スラスター総推力:78500 kg
センサー有効半径:20700 m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材＋一部ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／60mmバルカン砲／ハンド・グレネード／大型対艦ミサイル／ハイパー・バズーカ／マシン・キャノン

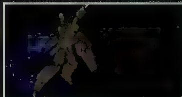
対艦攻撃機として開発された機体で、少数が生産された。初期型のジェガンをベースとしており、4基の大型対艦ミサイルに加え、装甲やスラスターが増設された。本機で得られたデータがD型とスタークジェガンの開発に利用されている。機体はデータ収集後に博物館に保管されていたが、後にネェル・アーガマに配備され、実戦に投入された。

Weapons

肩部に装備した4基の大型対艦ミサイルが最大の特徴。ビーム・ライフルやビーム・サーベルを使用することで、通常の戦闘任務に就くこともできる。なお、複座式のため胸部形状が他のジェガンと異なっている。

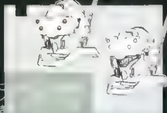


■ Large Antiship Missile
■ Double Seat Canopy




諜報や破壊工作を主任務とするエコーズだが、MSを相手とする任務もあるため、専用機が配備されたと思われる。



頭部に…補センサー…れた結…大きく変わっているが、カメラ部分の色はレッドに変更されている。

E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
RGM-89De / JEGAN (ECOAS TYPE)

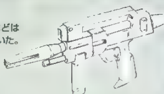
全高：19.0m
本体重量：22.[illegible]
全備重量：49.5t
ジェネレーター出力：1870kW
スラスター総推力：62000kg
センサー有効半径：20160m

装甲材質：チタン合金セラミック複合材
武装：ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／ハンド・グレネード／シールド／バズーカ

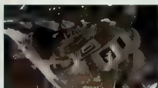
ジェガンD型をベースにしたバリエーション機で、特殊部隊エコーズが使用した。頭部にはバイザー式の追加センサー、胸部には増加装甲が取り付けられたことで、索敵能力と耐弾性能が大幅に向上している。エコーズでの使用にあたり、ロトと同じくダークブラウンで塗装されている。ネェル・アーガマではユニコーンガンダムの護衛や観測機として使用された。

Weapons

特殊部隊専用機ではあるが、武装などはジェガンD型と同じものを使用していた。



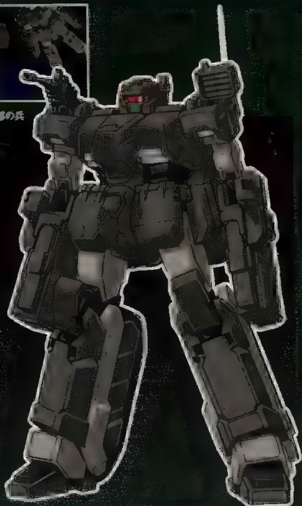
■ Beam Rifle



胸部に装甲を増設したことで搭乗員のサバイバビリティが向上した点も、本機の大きな特徴と言える。




3名(車長／操縦士／通信士)の乗員によって運用され、さらに後部の兵員室に8名の兵士を乗せて運ぶことができた。

E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
D-50C / LOTO

MS時全高:12.2m
戦車時全長:9.66m／[illegible]
本体重量:16.8t
ジェネレーター出力:980kW
スラスター総推力:32400kg
センサー有効半径:8600m

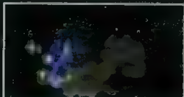
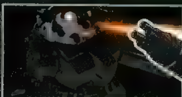
装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:[illegible]
ミサイル・コンテナ

海軍戦略研究所（サナリィ）が開発した特殊任務用MS。反連邦組織によるテロ活動などへの対応をはじめ、任務に際して部隊員を輸送するために、小型MSからタンク形態への変形機能を有している。任務に応じて肩部や胸部に装備した火器の換装も可能で、兵員輸送タイプは右肩にマシンキャノン、左肩にサーチライトを装備。通信機能が高く、現場では指揮通信車としても活躍した。

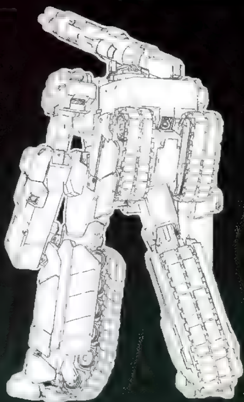
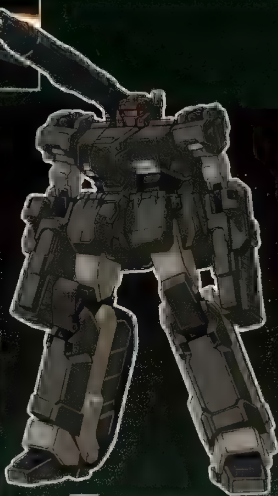
■ Tank Mode

車高は３ｍほどのため、敵からの被発見率も低い。兵員は後部ハッチから乗降した。



マシンキャノンはMSに対しても効果を発揮した。スラスターを利用し、移動しながらの射撃もこなした。

E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
D-50C / LOTO

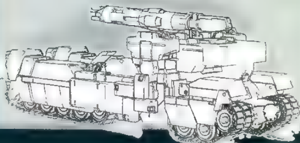
MS時全高:12.2m
戦車時全長:9.66m/戦車時幅:5.78m
本体重量:16.8t
ジェネレーター出力:980kW
スラスター総推力:32400kg
センサー有効半径:8800m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・バーナー/メガ・マシン・キャノン/ミサイル・コンテナ

ロトの装備バリエーションのひとつ。中距離戦闘における高い連射性能を持つマシンキャノンを装備する。本兵装の装備により対MS戦なども可能となった。ロトはMS形態に変形することで、タンク形態では移動不可能な不整地などにも展開することができ、小惑星表面などでの観測や偵察、破壊活動などの特殊任務を行った。

Mega Machine Cannon

右肩に1基のみを装備。ビームを高速で連続射撃できるため、移動する敵機などへの攻撃に適していた。

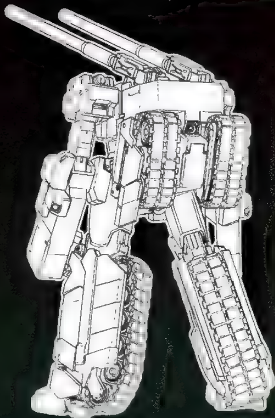
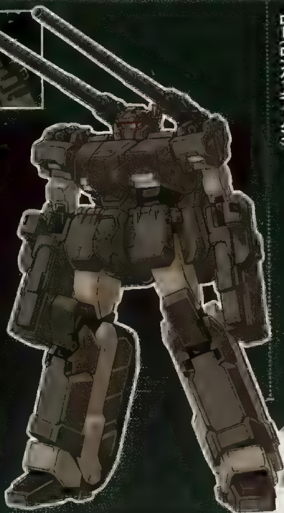



ロト(ロング・キャノン)

LOTO (Long Cannon)




宇宙空間での機動性は低かったが、艦船の船体や小惑星の表面などからフレキシブルな対空砲撃を行う砲台としても役立った。

E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
D-50C / LOTO

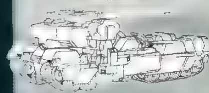
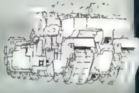
MS時全高:12.2m
戦車時全長:9.65m
戦車時全幅:5.78m
本体重量:16.8t
ジェネレーター出力:980kW
スラスター総推力:32400kg
センサー有効半径:5800m
装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・バーナー/ロング・キャノン/ミサイル・コンテナ

特殊部隊エコーズが使用するロトの武装バリエーションのひとつで、肩部に2連装ロング・キャノンを装備したタイプ。長砲身の連装砲によって、長距離支援射撃などの役目を担っており、マシンキャノン装備型と共に対MS戦で活躍した。サナリィは、ロトの開発を契機にMSのダウンサイジング化を進め、後の宇宙世紀のMS規格開発に大きな影響を与えた。

■ Long Cannon

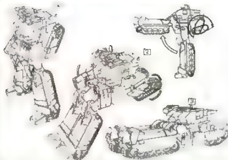
2連装を装備することで、戦車と形容される姿となった。



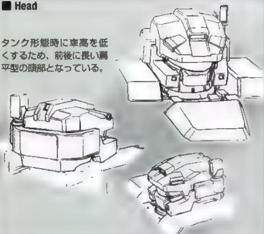
■ Transform Sequence

脚部が前方に展開すると同時に、バックパックからキャタピラが接地。腕部が折り畳まれ、タンク形態への変形が完了する。



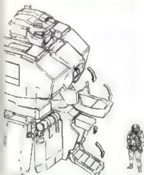
■ Head

タンク形態時に車高を低くするため、前後に長い扁平型の頭部となっている。



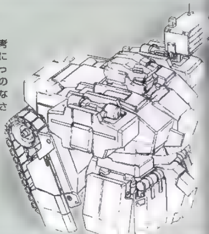
■ Cockpit

胸部は操縦を担当するクルー用のハッチがある。腰部には兵員庫のハッチが配置される。

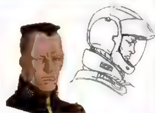


■ Body

タンク形態を考慮して、前後に長い形状となっており、武装の交換が可能なラッチが設置されている。





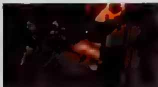


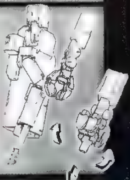
タグザ・マックール
DAGUZA MACKLE

ネェル・アーガマに着任した特殊部隊エコーズの920部隊の司令官。良識的な見解を内に秘めながらも、任務を重視する職業軍人。自らもロトに搭乗し前線で指揮を執った。

■ Sub Arm

腕部には、ビーム・バーナーを装備した簡易マニピュレーターを持つ。

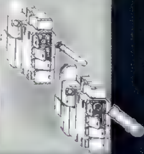




■ Weapon

腕部武装は、用途に応じて各種ミサイルを装備したタイプに交換可能。

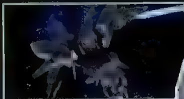




デルタプラス

DELTA PLUS

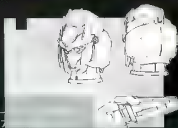




可変MSとしての性能は高く、WR形態では、ユニコーンガンダムを乗せての戦闘も行っている。







ブレー
アルフ
ベースとなったZガンダムを簡略化したような頭部形状となっている。

E.F.S.F. TRANSFORMABLE MOBILE SUIT PROTOTYPE
MSN-001A1 / DELTA PLUS

全高：19.6m
本体重量：27.2t
全備重量：60.8t
ジェネレーター出力：2360kW
スラスター総推力：92400kg
センサー有効半径：16200m

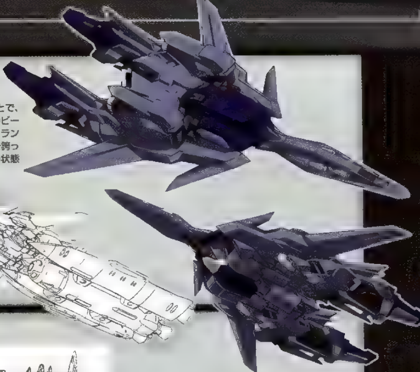
装甲材質：ガンダリウム合金
武装：60mmバルカン砲／ビーム・
ビーム・キャノン／グレネード・
ビーム・サーベル／シールド

可変MSとして設計されながらも、ムーバブルフレームの強度不足から変形機能をオミットして再設計されたMSN-00100百式。その問題点を改善と同時にZガンダムの技術も導入して再設計した試作機が、このMSN-001A1デルタプラスである。当初のコンセプト通りにウェイブライダーへの変形機構を有し、単独での大気圏に突入と重力下での飛行が可能であった。実戦に耐え得る能力を持つ万能型の機体だが、グリプス戦役時とは状況が変わってしまったため、部隊編成に組み込み難いという問題もあった。そのため、単独運用されるネェル・アーガマに補充機体として配備された。以降はリディ・マーセナスが搭乗し、パラオ攻略戦をはじめ地上での戦闘に参加した。

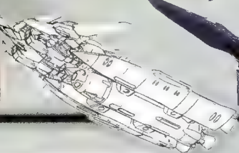
DELTA PLUS

■ WR Mode

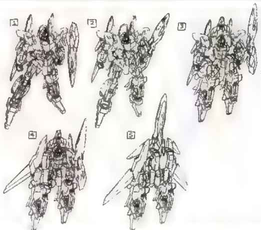
Zガンダムに近い複雑な変形機構を採用することで、航空機に近い形状となっている。シールド先端のビーム・キャノンやビーム・ライフル、グレネード・ランチャーも使用可能で、MS形態と遜色ない攻撃力を誇った。また、シャクルズとの合体機構も備え、その状態では長距離航行が可能であった。







■ Transform Sequence

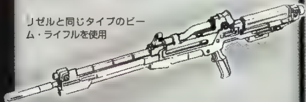


コックピットと胸部のパーツが上部に展開し、腕部が前方、脚部の膝から下が上部に移動する。その後、背部のバインダーが合体し、シールドが機首部を構成して、変形が完了。

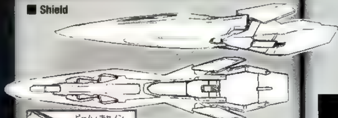


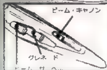
■ Beam Rifle

リゼルと同じタイプのビーム・ライフルを使用



■ Shield

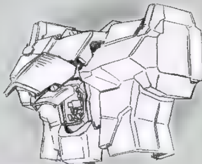




センサーを内蔵しており、変形用サブユニットとしての機能も有していた。

■ Cockpit

ハッチは、外側と内側の二層構造となっている。コックピット内部は全天周囲モニターとリニアシートを採用した通常の連邦軍仕様である。





デルタプラス



NAHEL ARGAMA CLASS SPACE ASSAULT CRUISER
NAHEL ARGAMA

全長	306m
武装	ハイパー・メガ粒子砲 2連装メガ粒子砲×4 単装メガ粒子砲×2 対空機銃×28 サブ・メガ粒子砲×2 VLS×3

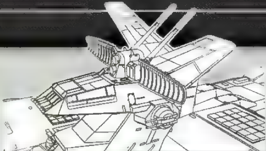


リゼルやジェガンD型、デルタプラスなど、新旧様々なMSを艦載MSとしていた。

ロンド・ベル所属の強襲用宇宙巡洋艦。同部隊の設立直後は旗艦だったが、カイラム級の就役に伴いその座を退いている。就役以降、近代化改修が繰り返された結果、MS運用能力が拡大したほか、武装も強化されている。同系艦が建造されなかったこともあり、艦隊編制に組み込まれることはなく、単艦で特殊任務に投入されることがほとんどである。『ラプラスの箱』を巡る争乱でも、〈インダストリアル7〉への強襲や『袖付き』の拠点であるパラオ攻略戦などに従事している。地球低軌道に進出し、ガランシェールを引き上げたのちは、味方であるはずの連邦宇宙軍からも攻撃を受けるが、これを振り切り〈インダストリアル7〉での最終決戦に臨んでいる。

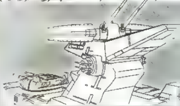
NAHEL ARGAMA

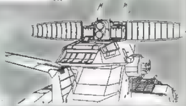
Bridge



両側面に副砲を備えるほか、レーダーの位置がブリッジ上部に変更されている。戦闘時にブリッジ内部を保護するためシャッターを下ろす。

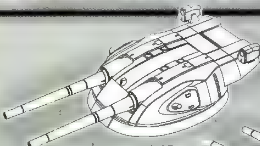


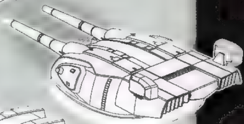




主砲・副砲

主砲は艦の上下に各2基ずつ、計4門を装備する。連邦軍艦艇の標準的なモデルのようだ。副砲を含め、艦体各所にメガ粒子砲を備える。

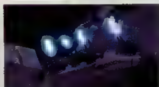




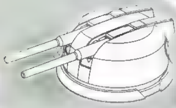
▲▶ 主砲

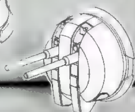


艦首側は改装前から、艦尾側の砲は建造当初は単装砲だったが、2連装に改修された。



各部に28基を備える副砲は連射性能が高く、弾幕を展開するなどの運用がなされた。

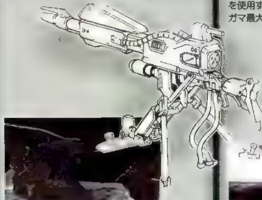




▲▶ 副砲

Mega Bazooka Launcher

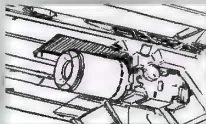
甲板上に設置されたMS携行式の大型メガ粒子砲。ジェガン（コンロイ機）が発射管制を務めた。



艦から動力供給を受けられたため、連射が可能となった。

ハイパー・メガ粒子砲

艦隊下部に装備された可能で、使用時には艦の全動力を使用するが、ネェル・アーガマ最大の火力を誇る。





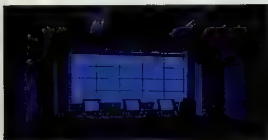




パラオ攻略戦や「袖付き」艦隊への砲撃に使用された。こうした重装化は、単艦で運用されるネェル・アーガマに必要不可欠だった。

ネェル・アーガマ

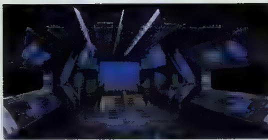
■モニタールーム





外部との通信に加え、各所のカメラなどを用いて艦内の状況を知ることも可能。

■Bridge





外周に沿ってオペレーターの席が設けられている。奥には艦長や副長の席が配置される。

■医務室





ベッドが２床と個室がある。精密検査を可能な設備を有していた。マリーダの検査もここで行われた。

■艦長室

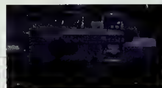




艦長の私室兼執務室。上級士官が集まってのミーティングなどにも使用された。

■下部デッキ





サイドデッキの下側にあるデッキ。ネェル・アーガマには５つのデッキと５つのカタパルトを備える。

■レクリエーションルーム





天井が高く、３つの遊具を備え、壁面には自然の風景が映し出される。シートはマジックテープが設けられ、体を固定できる。

ネェル・アーガマのクルー

ネェル・アーガマのクルーは、艦長のオットー・ミタス以下のクルーで運用されていた。『ラプラスの箱』を巡る争乱の中で、味方にも狙われる事態となりながらも自分たちの任務を全うした。





◀オットー・ミタス

ネェル・アーガマの艦長で、階級は大佐。当初は頼りない面も見せたが、争乱を通じて的確な指揮を執るようになった。



◀ミリアム・ボーリンエア

地球連邦軍の中佐で、ネェル・アーガマの副長。冷静沈着な女性で、オットーを補佐した。



▼ミヒロ・オイワッケン

ネェル・アーガマの女性士官で、通信手を務める。リディに好意を抱いていたようだ。



エコーズも乗艦するなど、ネェル・アーガマ内は寄り合い所帯のような状態となっていた。

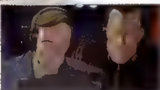


ジョナ・ギブニー▶

ネェル・アーガマの整備長で、専任兵曹。テイザーの発射と操作をサポートした。



機関長のシドーや、通信長のボラード、航海長のヘルムなどが配属されていた。





RX-0の開発において、装甲材質部門に所属していたAEのアーロンも乗艦していた。



◀ハサン

グリプス戦役時からネェル・アーガマに乗艦している軍医。マリーダを強化人間と見抜いた。

ミネバ・ラオ・ザビ（オードリー・バーン）
MINEVA LAO ZABI / AUDREY BURNE



ザビ家の遺児で、ジオン公国の正統な後継者。『袖付き』に身を寄せていたが、『箱』の譲渡を阻止するため〈インダストリアル7〉に赴く。バナージの出会った後、自らの進むべき道を見出し、〈メガラニカ〉より『箱』の真実を地球圏全域に向けた演説で明らかにする。



▲タクヤ・イレイ

ネェル・アーガマに避難していたアナハイム工専の学生。後にフルアーマー・ユニコーンガンダムのアイデアを提案する。

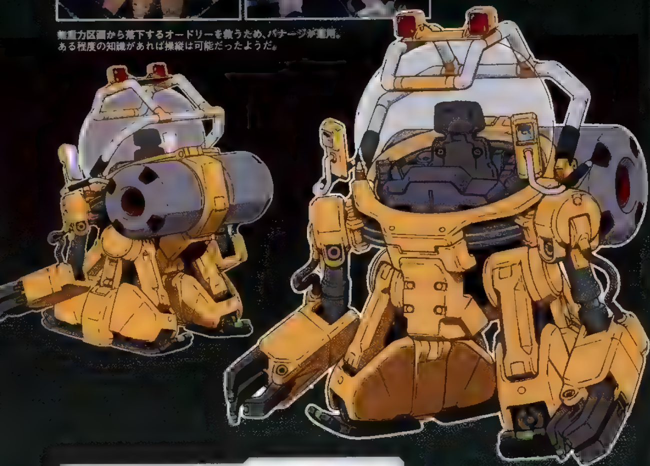


ミコット・バーチ▶

タクヤと同じく、ネェル・アーガマに避難していた。多数の友人を失ったこともあり、戦いを嫌悪していた。

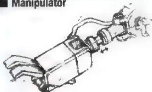



無重力区画から落下するオードリーを救うため、バナージが運用。
ある程度の知識があれば操縦は可能だったようだ。



TOROHACHI

■ Manipulator



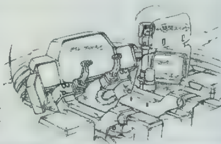
3本のクローを備える。精密作業よりも資材の運搬などに用いる仕様だった。肩関節の可動範囲も広かった。

■ Leg



接地面積の大きな脚部。裏にはスラスターを備え、コロニー内外での機動性を支えた。

■ Cockpit



2本のコントロール・スティックとペダルを備える。エアバックも備え、安全性も高かった。

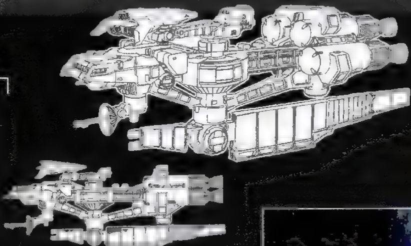
PUTI MOBILE SUIT
TOLRO-800

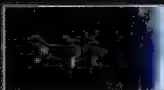
全高:3m
本体重量:―
全備重量:―
ジェネレーター出力:―
スラスター総推力:―
センサー有効半径:―

トルロ社が開発したプチモビルスーツ（プチモビ）で、U.C.0096における最新機種。既存のプチモビと同じくコロニー内外での作業用機器として用いられ、建造途中であった〈インダストリアル7〉にも多数が配備されていた。MSに比べ簡素な構造だが、マニピュレーターやスラスターを備えるなど、作業用MSとして高い汎用性を備えていた。

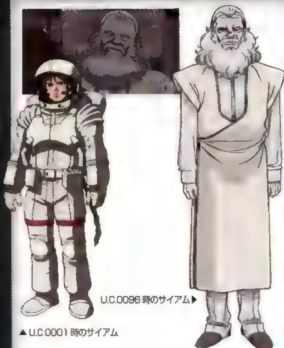
サラミス級宇宙警備艇

宇宙世紀初期に配備されていた警備艇。ブリッジと4基のロケットエンジン、それを繋ぐフレームで構成される。全体上部には戦闘機を保留するためのクレーンを、下部には太陽電池パネル、ブリッジ下部にはレーザー砲をそれぞれ搭載する。





改暦セレモニーが行われた首相官邸<ラプラス>の周辺にも配備されていた。



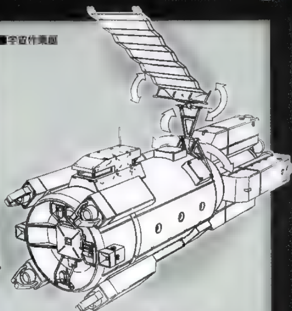
U.C.0096 時のサイアム▶

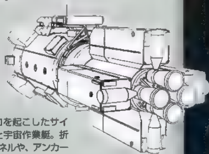
▲U.C.0001 時のサイアム

サイアム・ビスト
SYAM VIST

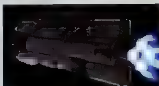
ビスト財団を興した人物で、宗主を務める。冷凍睡眠などを繰り返し、U.C.0096でも存命していた。偶然から『ラプラスの箱』を手にしたことで、連邦軍から便宜を引き出し、財団の権勢を拡大させていった。元は別の名だったが、ビスト家に婿入りしたことでビスト姓を名乗った。

■宇宙作業艇





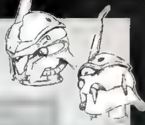
改暦セレモニーでテロを起こしたサイアムらが使用していた宇宙作業艇。折り畳み式の太陽電池パネルや、アンカーなどを備える。



赤い機体色とフレキシブル・スラスターによる高度な機動性は、『赤い彗星の再来』を印象付けた。

シナンジュ

SINANJU



ガンダ
追加装
レードアンテナを配置することで、ジオン系の意匠に偽装されている。

NEO ZEON MOBILE SUIT CUSTOMIZED FOR NEWTYPE
MSN-06S / SINANJU

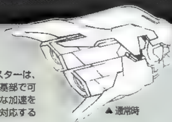
AE（アナハイム・エレクトロニクス）社が、サイコフレームの限界性能とデータ収集を目的として開発した機体。そのため、パイロットの搭乗も想定していなかったと言われる。さらに「NT-D」の実験機としての側面も持っていたと言われ、本機で得られたデータを基にRX-0 ユニコーンガンダムが開発された。しかし、U.C.0094グラナダからフォン・ブラウンの試験場への移送途中に『袖付き』に強奪される（偽装強奪だったとも言われる）。その後、『袖付き』において、本機は装甲形状や装備を改修され、フル・フロンタルの乗機として運用されることとなった。

全高:22.6m
本体重量:25.2t
全備重量:56.9t
ジェネレーター出力:3240kW
スラスター総推力:128600kg
センサー有効半径:23600m

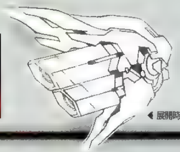
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲／ビーム・ライフル／ロケット・バズーカ／グレネード・ランチャー／ビーム・サーベル／ビーム・アックス／ビーム・ナギナタ／シールド

■フレキシブル･スラスター

背部に配置されたフレキシブル・スラスターは、どんな姿勢でも高出力が維持できるよう基部で可動。最大出力時は、本体が伸長し驚異的な加速を可能とする。その際の推進剤の消費にも対応するためプロペラントタンクも装備している。


▲通常時

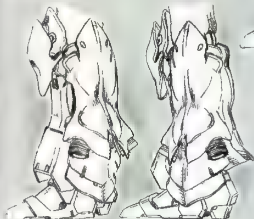



◀展開時

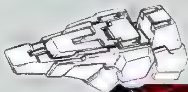


■ Leg

脚部の腰部側面にもフレキシブル・スラスターを搭載。側面のフレキシブ・スラスター部分は後方に向けて可動し、背部のフレキシブル・スラスターと連動することで高い機動性を発揮する。





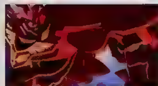




■頭部(破壊状態)

ダグザの攻撃によってマスク部が破壊された頭部。メインカメラのように見えるモノアイの横には赤いセンサーが確認でき、従来はデュアルアイを持つ機体だったことが判る。

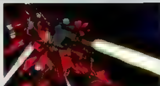




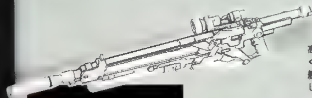


■ Beam Rifle

シナンジュ専用装備として開発されたロングバレルタイプのビーム・ライフル。高出力のビームを連続して射出できる。オプション装備として、銃身の下部には追加装備でグレネード・ランチャー、上部のサイトセンサー部分にはロケット・バズーカを取り付けることができる。



長砲身タイプのため、ビームの減衰率が低く、遠距離からの狙撃も可能であった。



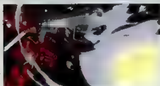


高出力ゆえに威力も高く、MSだけではなく、艦艇などにも効果を発揮した。

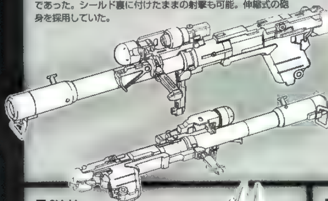
▲グレネード·ランチャー

■ Rocket Bazooka

シナンジュ専用の実体弾兵装。腰部やシールドの裏に装着して携行する。ビーム・ライフルへの取り付けも可能な多機能兵装であった。シールド裏に付けたままの射撃も可能。伸縮式の砲身を採用していた。



ビーム攪乱膜を展開したゼネラル・レビルに対して使用。その威力を見せ付けた。



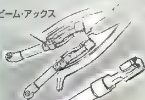


グレネード・ランチャーの代わりにビーム・ライフル下部に取り付けることが可能だった。

■ Shield

ネオ・ジオンの紋章をモチーフにしたような、象徴的で装飾的な形状をしている。裏面にはグレネード・ランチャーとビーム・アックスが装備されている。

▼ビーム·アックス



▲グレネード·ランチャー





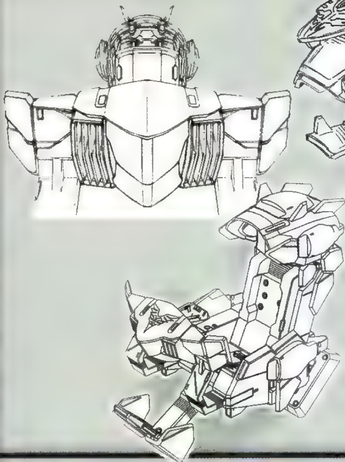
■ Beam Saber

両腕の下腕の装甲内部に装備されている。装甲部分が上方に展開し、内蔵されているビーム・サーベル本体を取り出して使用する。



■ Cockpit

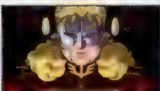
サイコフレームを搭載しているため、シートやコンソールはサイコミュ用のパーツが取り付けられた特殊形状となっている。コンソール部分にもネオ・ジオンのマークが施されている。



コックピットハッチは後から『袖付き』の装飾なども加えられているため、多重構造となっている。ハッチは上下に展開する形式を採用。







MSに搭乗する際もノーマル・スーツを着用しなかった。自らを「器」と規定し、スペースノイドの想いの体現者と語った。

フル・フロンタル

FULL FRONTAL

ネオ・ジオン残党軍『袖付き』の首魁で、「赤い彗星の再来」と呼ばれ、仮面を着けた謎の人物。高いカリスマ性を誇り、残党勢力をまとめ上げている。高いMS操縦技術を持ち、その素顔や声もシャア・アズナブルに酷似している。





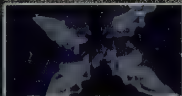


クシャトリヤ

KSHATRIYA







「袖付き」のガランシェール隊に配備され、単機で地球連邦軍MS部隊を圧倒する戦闘力を発揮した。



ネオ・ジオン残党軍が開発した、ニュータイプ用MS。第一次ネオ・ジオン戦争に投入されたNZ-000クイン・マンサの性能をそのままに小型化することをコンセプトとしており、4枚のフレキシブル・バインダーに推進機と武装、ファンネルコンテナを集約、コックピット周辺にサイコフレームを配置することでサイコミュ機器の省スペース化にも成功し、機体の小型化を果たした。ジオン系技術から発展したニュータイプ用MSのひとつの到達点となった。完成度の高い機体でありながら、リソースの限られる『袖付き』には再生産はおろか、破損時の修復さえも難しいMSとなってしまっている。また、火器管制システムなども複雑なため、強化人間であるマリーダ・クルスにしか扱うことができなかった。

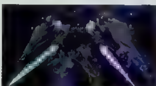
NEO ZEON MOBILE SUIT CUSTOMIZED FOR NEWTYPE
NZ-666 / KSHATRIYA

全高:22.3m
本体重量:29.7t
全備重量:74.02t
ジェネレーター出力:16540kW
スラスター総推力:197800kg
センサー有効半径:18500m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ファンネル／メガ粒子砲／ビーム・ガン／マシン・キャノン／Iフィールド・ジェネレーター／ビーム・サーベル

■ Beam saber

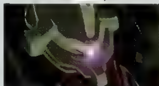
ビーム・サーベルは、下腕の手首の内側に配置されている。使用時は、ビーム・サーベルが射出され、マニピュレーターでそれをキャッチした後にビーム刃が展開される。


■ Head Parts

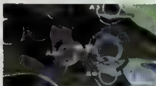
大型のトサカ状の角飾りが特徴。ジオン系MSのデザインを踏襲しており、形状的にはMS-14Aゲルググに似ている。頭部も機体同様、通常のMSに比べるとやや大型となっている。





■ Funnel Container

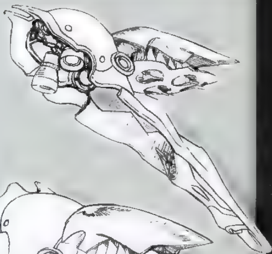
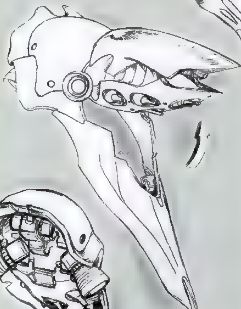
ファンネルは、バインダーの中央部分に収納されている。バインダー1枚あたり6基、全部で24基を装備する。バインダーの中央部分が展開することで、ファンネルが放出される。

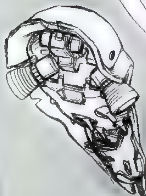


ファンネル自体は、AMX-004キュベレイと同じものを使用。ジェネレーターは搭載しておらず、ビームを発射した後は再チャージする必要があった。

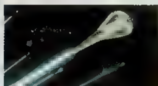


広範囲にファンネルを展開しての、オールレンジ攻撃を主な攻撃法とする。これは従来のニュータイプ専用機が採る戦闘方法である。



ファンネル▶

KSHATRIYA
クシャトリヤ

Binder

上部には推進用のスラスターが配置され、本体と繋ぐアームが可動することで、推進方向を任意に変更可能。これにより極めて高度な機動性を獲得した。また、バインダーにはIフィールド・ジェネレーターが内蔵されており、高い耐ビーム防御力を有していた。先端部にはサブ・マニピュレーターを搭載している。

先端部分には簡易マニピュレーターを持つサブアームを装備。ビーム・サーベル程度なら使用することができる。



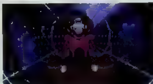
バインダーの側面にはメガ粒子砲を装備。1枚あたり2基、計8基を有しており、バインダーの角度を変えることで広範囲を攻撃可能。

Cockpit

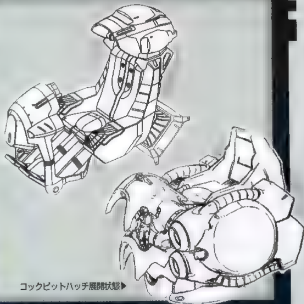
クシャトリヤのコックピットは、「袖付き」の主力機であるAMS-129 ギラ・ズールと共通する部分が多い。しかし、ヘッドレストを中心にサイコミュ関連の機器を搭載しているため、大型化している。またエアバッグも備える。



コックピットハッチは装甲が上に跳ね上がる型式。また、コックピットハッチの左右にはマシン・キャノンやメガ粒子砲を装備する。



通常の全天周モニターとリニアシートを採用しているが、NT専用機のためコックピット周辺にはサイコフレームが使用されていた。



コックピットハッチ展開状態▶

■格納状態





4枚のバインダーを折り畳むことで、機体を包むような状態となる。この状態でガランシェールに格納される。また、戦闘中に同様の形にバインダーを折り畳むことで、機体全体をガードすることができる。











▲普段着



▲コート姿



▲ノーマル・スーツ



▲軍服

マリーダ・クルス
MARIDA CRUZ

第一次ネオ・ジオン戦争の際に、クローン技術を使って生み出された強化人間、「プルシリーズ」の生き残り。戦後、ジンネマンに保護され、彼のことを「マスター」と呼んで付き従う。ニュータイプ用MSであるクシャトリヤを使いこなせる『袖付き』でも数少ないパイロットである。





『袖付き』の主力MS。多彩なオプションにより様々な戦局に対応する運用柔軟性が、最大の特徴と言える。





GEARA ZULU



頭部
言え
クのような形状が外見上の特徴となっている。隊長機はブレードアンテナを備える。

ネオ・ジオン残党軍『袖付き』の主力MS。当初はシャアが率いるネオ・ジオンの次期主力としてAE（アナハイム・エレクトロニクス）社が開発を進めていたが、『シャアの反乱』の終結に伴い、計画は縮小を余儀なくされる。しかし、『袖付き』の蜂起に伴い、生産が本格化。組織の規模から、新規各機としては開発されず、結果的にギラ・ドーガの発展強化型として完成する。それでもこれまでに培ったノウハウや技術更新などにより、生産性や整備性が設計当初よりも改善されており、高い運用性を持つ機体となっている。また、『袖付き』での運用にあたっては、マーキングやエングレービングなどが施されたほか、搭乗者の階級や部隊に応じて頭部のデザインやショルダーアーマーの形状が異なるなど、様々なタイプが確認されている。

NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMS-129 / GEARA ZULU

全高:20.0m
本体重量:21.8t
全備重量:55.2t
ジェネレーター出力:2470kW
スラスター総推力:62100kg
センサー有効半径:18200m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・マシンガン/シュツルム・ファウスト/ハンド・グレネード/ビーム・ホーク/シールド

■ Beam MachineGun



▲狙撃用スコープ装着タイプ



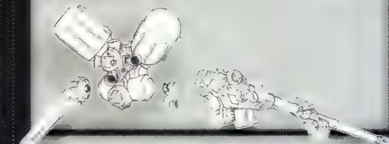
▲グレネード・ランチャー装着タイプ

■ Sniper Rifle

■ Sturm Faust

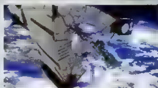


■ Lange Bruno Gun

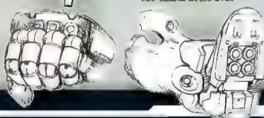


■ Hand / Leg

長距離からの偵察や索敵などを行うための有線式の監視カメラが手甲部分に内蔵されている。ミノフスキー粒子散布下では、目視戦闘が必要なため標準装備されていた。足裏には姿勢制御用バーニアが配置されている。

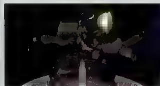


姿勢制御用バーニアのほかに、オプションのバックパックを装備することで、高い機動性を発揮した。



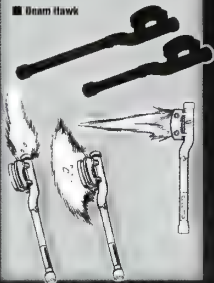
Weapons / Parts

ビーム・マシンガンを主兵装とした各種武装も一部が新規装備となっているが、ベースとなっているギラ・ドーガと同系統となっている。装備も用途に応じて多数のバリエーションが存在する。



予備マガジンやシュツルム・ファウストなど、外装に武装を取り付けて出撃する運用方法もギラ・ドーガに近いものとなっている。

■ Beam Hawk



■ Hand Grenade



■ Shield



GEARA ZULU

ギラ・ズール

■ GEARA ZULU (ANGELO SAUPER USE)

親衛隊の隊長を務めるアンジェロの専用機。彼のパーソナルカラーであるパープルで塗装されている。また、シナンジュとの連携を前提にしているため、機動性の向上を図った大型プロペラントタンクとスタビライザーが取り付けられたバックパックを装備する。なお、アンジェロ機はほかのギラ・ズールとは全高以外のスペックが異なっており、本体重量：27.3t ／全備重量：61.4t ／ジェネレーター出力：2870Kw ／スラスター総推力：77625kg ／センサー有効半径：19200 mとなる。









■ GEARA ZULU (GUARDS TYPE)

アンジェロが率いるフロンタル親衛隊隊員の乗る機体。肩部や大腿部の装甲が、一般機から変更されている。チューンナップもなされており、一般機よりも性能が向上している。



Weapons

ランゲ・ブルーノ砲・改やビーム・ショット・ライフルなど、大口径砲を装備。これもフロンタルが乗るシナンジュの火力支援を行うことを目的とした装備である。





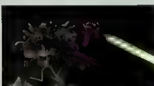


■ GERA ZULU (Variation)

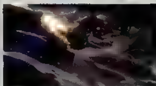
ギラ・ズールは装備の変更などによって、いくつかのバリエーションが存在している。ネオ・ジオン軍を離れてネェル・アーガマに協力したガランシェール隊所属の機体は、識別のため大腿部にオレンジ色のライン、頭部に部隊マークが加えられている。



▲ネェル・アーガマ協力時 ガランシェール隊所属機（親衛隊から鹵獲）　▲ネェル・アーガマ協力時 ガランシェール隊所属一般機



親衛隊機は両肩にスパイクが装備されたほか、パイロットごとに装備が異なっていた。



キュアロン機は、多数のシュツルム・ファウストに加え、スナイパー・ライフルを装備していた。



<インダストリアル7>宙域での戦闘では、ジェガン用のシールドを装備した機体も確認されている。



▲フロンタル親衛隊キュアロン機　▲ガランシェール隊ギルボア・サント機



アンジェロ・ザウパーが親衛隊隊長を務めた。MS操縦技術に加え、フロンタルへの忠誠心も高い者が選ばれた。



バナージに対しては敵意を剥き出しにして接した。

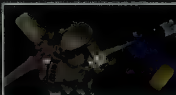
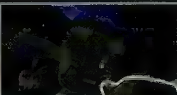
フロンタル親衛隊
FRONTAL Guards

フル・フロンタルに忠誠を誓うアンジェロ・ザウパーが隊長を務める精鋭部隊。『袖付き』内から、若くて戦闘成績の優秀な人材が集められ、組織されている。軍内部でも優遇がなされており、アンジェロの乗るパープルのギラ・ズールを筆頭に、搭乗する機体も独自のカスタマイズが施されていた。





正確な人数は不明。ネェル・アーガマでの会見時にはアンジェロをはじめ、複数の親衛隊隊員がフロンタルと共に乗艦している。

約100機が生産されたと言われるギラ・ドーガの残存機の一部が"袖付き"で使用されていた。




GEARA DOGA (THE SLEEVES)

NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMS-119 / GEARA DOGA(THE SLEEVES)

全高:[illegible]
本体重量:23.0t
全備重量:50.8t
ジェネレーター出力:2160kW
スラスター総推力:54000kg
センサー有効半径:16400m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・マシンガン／グレネード・ランチャー／シュツルム・ファウスト／ビーム・ソード・アックス／シールド

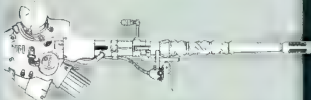
「シャアの反乱」時にネオ・ジオンの主力を担った汎用MS。開発はAE（アナハイム・エレクトロニクス）社が担当した。本機最大の特徴であるジオン的なデザインと汎用性の高さは、後継機とも言える次期主力MSのAMS-129ギラ・ズールに継承された。しかし、ギラ・ズールを完全な主力として採用できるほどの工業力がなかったため、比較的新しい機体で信頼度も高く、ギラ・ズールと連動運用しやすいギラ・ドーガを、装備を強化し使用していた。

■ ギラ・ドーガ重装型

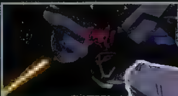
ギラ・ドーガにランゲ・ブルーノ砲を装備された重装仕様。長距離砲撃支援を主任務とする。



■ Lange Bruno Gun



実体弾式の大型の火砲。バックパックに冷却剤タンクとプロペラント・タンクなどを備える。

パラオには数機が配備されていたと言われる。そのうちの一機はユニコーンガンダムと交戦し、撃破された。




NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMX-009 / DREISSEN(THE SLEEVES)

全高:22.0m
本体重量:35.7t
全備重量:67.9t
ジェネレーター出力:2380kW
スラスター総推力:107500kg
センサー有効半径:13100m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:3連装ビーム・[illegible]ト・バズ、ヒート・サーベル[illegible]ード

Weapons

第一次ネオ・ジオン戦争時に装備していたビーム・ランサーは持たず、3連装ビーム·キャノンの他、ジャイアント·バズ、ヒート・サーベル、トライ・ブレードを使用していた。

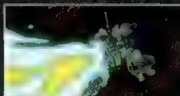
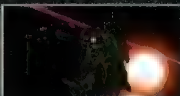

■ Giant Bazooka


■ Heat saber


■ Try Blade

第一次ネオ・ジオン戦争時に開発された量産MS。一年戦争時に活躍したMS-09ドムの発展系で、重装甲と高い機動性を両立させ、兵士からの信頼も高かった。そのため、『袖付き』でも兵器不足を補うために使用されていた。『袖付き』仕様は塗装を変更し、エングレーピングが施され、パラオ防衛の任に就いていた。パラオ防衛では、ジャイアント・バズを装備した機体が確認されている。

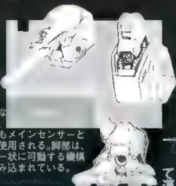
DREISSEN (THE SLEEVES)
ドライセン(袖付き)

パラオ防衛線で複数機が確認されている。変形機構やハイパー・ナックル・バスターを駆使し、連邦軍MS部隊と交戦した。

GAZA D (THE SLEEVES)





大きな
イが、
時でもメインセンサーとして使用される。脚部は、クロー状に可動する機構が組み込まれている。

ネオ・ジオン軍初の主力可変MSであるAMX-003 ガザCの発展型。第一次ネオ・ジオン戦争に向けてガザCの脆弱な機体構造を改良することで、格闘性能などをアップし、可変MSとしての完成度を向上させている。ガザCに代わる主力MSとして活躍した。発展的改良が重ねられた信頼度の高さから、『袖付き』では主戦力として運用されている。

NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMX-006 / GAZA D(THE SLEEVES)

全高:17.0m(MS時)
全長:16.1m(MA時)
本体重量:28.7t
全備重量:68.4t
ジェネレーター出力:2140kW
スラスター総推力:98200kg
センサー有効半径:10800m

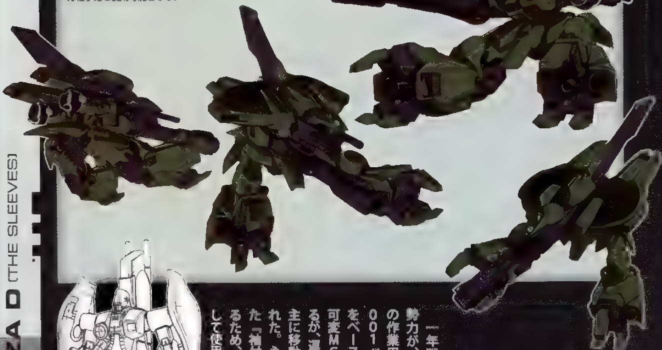
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ナックル・バスター／ビーム・ガン／メガ粒子砲(MA時のみ)／ミサイル・ランチャー／ビーム・サーベル

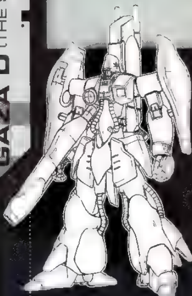
GAZA D (THE SLEEVES)

ガザD（袖付き）

■ MA Mode

ハイパー・ナックル・バスターとビーム・ガンが前方に向けて固定される。脚部がクロー状に展開し、内部のメガ粒子砲も使用可能となる。



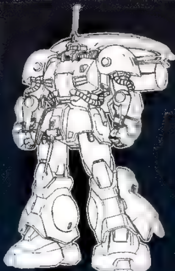


一年戦争後に逃亡したジオン残党勢力が、小惑星アクシズの施設拡充の作業用MSとして開発したAMX-001ガザA、AMX-002ガザBをベースとして、戦闘用に発展させた可変MS。MA形態へ変形機構を有するが、運動性や機動性、格闘性能は低く、主に移動砲台として砲撃支援に使用された。ネオ・ジオン残党が合流していた『袖付き』では、MS戦力を拡充するため、残存するガザCも塗装を変更して使用していた。

NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMX-003 / GAZA C(THE SLEEVES)

全高:18.3m(MS時)
本体重量:40.8t
全備重量:72.5t
ジェネレーター出力:1720kW
スラスター総推力:79200kg
センサー有効半径:10600m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ナックル・バスター／ビーム・ガン／ビーム・サーベル

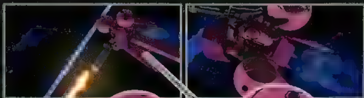


RMS-106ハイザックをベースに、ミノフスキー粒子散布環境下の電子戦や早期警戒、偵察を目的として開発された機体。もともとは地球連邦軍の機体だが、グリプス戦争後にネオ・ジオン軍に亡命したティターンズ残党によってもたらされ、『袖付き』でも使用されており資源衛星パラオにもグレーの塗装と袖付きの装飾が施された機体が配備され、索敵任務を行う姿目撃されている。

NEO ZEON MOBILE SUIT RECONNAISSANCE TYPE
RMS-119 / EWAC ZACK(THE SLEEVES)

全高:19.2m
本体重量:41.6t
全備重量:73.5t
ジェネレーター出力:1430kW
スラスター総推力:64500kg
センサー有効半径:26000m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ザク・マシンガン改／ビーム・サーベル／シールド



パラオ防衛線で複数機が確認されている。変形機構やハイパー・ナックル・バスターを駆使し、連邦軍MS部隊と交戦した。

ドラッツェ



DRA-C

NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
MS-21C / DRA-C(THE SLEEVES)

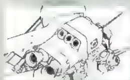
全高:29.8m
本体重量:23.9t
全備重量:49.0t
ジェネレーター出力:596kW
スラスター総推力:117500kg
センサー有効半径:10900m

装甲材質:超硬スチール合金
武装:ガトリング・ガン/ビーム・サーベル

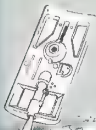
デラーズ・フリートが開発した機体で、UC.0083に勃発したデラーズ紛争時に投入された。MS-06F2ザクF2型の上半身にガトル戦闘爆撃機のプロペラントタンク兼スラスターを組み合わせた機体で、MSとしての性能は決して高くなかった。デラーズ紛争以降も残存機は改良を重ねて使用され続け、『袖付き』では機体をパープルに塗装し、右腕にはビーム・ガトリングガンを装備した機体を偵察・哨戒機として使用していた。

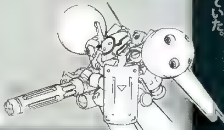
Weapons

右腕にはビーム・ガトリングガンを装備。ガザシリーズのセンサーを転用することで、射撃性能の向上を果たした。両肩には球状のスラスターポッドを装着すること機動性を補っていた。



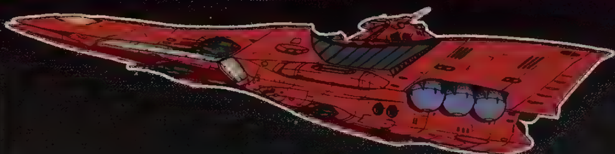
▲腕部、スタビライザー取り付け基部





REWLOOLA







NEO ZEON REWLOOLA

全長:250m

武装:2連装メガ粒子主砲×5
2連装メガ粒子副砲×2
ミサイル・ランチャー
3連装対空機銃×20

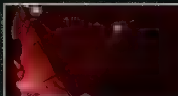
『シャアの反乱』時にネオ・ジオン軍が運用した大型戦艦。旗艦でありシャア・アズナブルの座乗艦であった。高い火力とMS運用能力を備えた高性能艦艇。『シャアの反乱』時に撃沈を免れ戦線を離脱。その後、改修などがされることなく『袖付き』の旗艦となり、フル・フロンタルの座乗艦として運用され続けていた。

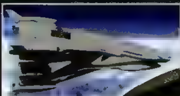




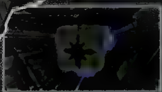
ヒル・ドーソン

レウルーラの艦長を務める『袖付き』の士官で、階級は大佐。旗艦の艦長として、フロンタルの指示に従って艦の指揮を執った。





武装を持たないため、MSやMS用武装を用いた連動運用をすることで、対空攻撃などを行った。



GARENCIERES

NEO ZEON
GARENCIERES

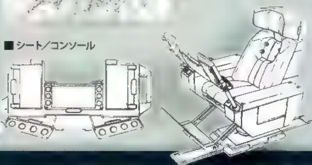
全長：146m

『袖付き』が使用していた偽装貨物船。宇宙と地球を往還する輸送艦として設計されており、単独での大気圏突入能力や重力下での飛行能力を有し、地上では船体を立てた状態で垂直離着陸も可能。民間船に偽装しているため、武装は持たないが、船体後部の貨物ハンガーには、クシャトリヤとギラ・ズール3体を搭載機として格納している。

■ 格納庫／MSクリップ



■ シート／コンソール








サボア▶
ギラ・ズールに搭乗した若手パイロット。<インダストリアル7>での戦闘で、連邦軍と交戦、命を落とした。

◀トムラ
ガランシェール隊の整備担当。明るい性格の持ち主で、若いがMS整備に関してはかなりの腕を持つ。

◀ベッソン
ガランシェール隊では、ギラ・ズールのパイロットを務める。

▲アレク
ガランシェール隊の予備クルー。ギルボアの死後は代わりに操舵手を務めた。






◀ギルボア・サント
ガランシェール隊の操舵手兼ギラ・ズールのパイロット。ジンネマンともつき合いは長く、彼からの信頼も厚い、良心的な人物。パラオに家族がいる。

フラスト・コール▶
ガランシェール隊の航海士で、ジンネマンとの付き合いも長く、ガランシェール隊のナンバー2であった。


一年戦争に従軍した経験を持つ者が多く、特にジンネマンはバナージに[redacted]を与えた。




スベロア・ジンネマン▶
ガランシェール隊の隊長。一年戦争に参戦していた叩き上げの軍人で、部下からの信頼も厚い。一年戦争後に妻子を地球連邦軍に殺害され、それ以降、心に闇を抱えている。

ガランシェール隊

フル・フロンタルの命令で、〈インダストリアル7〉で『ラプラスの箱』を受領する任務を受けた『袖付き』の実行部隊。一年戦争時にはジオン公国軍に所属していたスベロア・ジンネマンを隊長として、艦の運航を担うクルーをはじめ、マリーダなどMSパイロットも所属していた。



トリントンの激闘

重力の井戸の底で繰り広げられる様々な信念のぶつかり合い

「ラプラスの箱」を巡る争いは、やがて地上にも戦火を広げていった。首相官邸〈ラプラス〉における戦闘ののち、ユニコーンガンダムを回収した『袖付き』の偽装貨物船〈ガランシェール〉が地球に降下したのに呼応して、地球連邦政府の首都ダカールを襲撃するジオン残党軍。一方、リディの父ローナン・マーセナスの下を訪れたオードリーは、『箱』を巡る地球連邦政府とビスト財団の駆け引きに巻き込まれていく。そして、リディは『箱』に関わるマーセナス家の真実を知ったことで自らが進むべき道に迷う。

同じ頃、〈ガランシェール〉に回収されたバナージは、ショックから立ち直れずにいた。そのバナージを、〈ガランシェール〉の船長スベロア・ジンネマンはアフリカの砂漠に連れ出す。道中、ままならない感情を吐き出すバナージに対し、それを呑み込んででも歩き続けろと言い放つジンネマン。その背中に、戦争で愛する家族を奪われた男の葛藤を垣間見たバナージは、自分にできることを探し始めるのだった。

やがて、ユニコーンガンダムが示した『箱』へと至る座標――トリントンを目指し、状況は動き出す。『箱』の手がかりを



遣う『袖付き』に乗じ、各地の同志を糾合してトリントン攻撃という乾坤一擲の賭けに出るジオン残党軍。一方、リディは苦悩を抱えたまま戦線に復帰し、《ラー・カイラム》に配属されてトリントンに向かった。事の推移を《ガランシェール》から見守ったバナージは、MAシャンブロを駆るジオン残党軍のパイロット、ロニ・ガーベイが無差別攻撃を行う光景に慄然とする。戦争が生んだ怨念が引き起こした惨劇と、感情を殺してそれを座視するジンネマンに、人としての素直な哀しみと憤りをぶつけるバナージ。そして、暴走するロニを止めるため、バナージは《ガランシェール》を後にする。

「バナージ・リンクス、ユニコーンガンダム、行きます！」

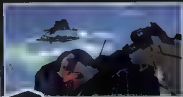
シャンブロの前に立ちはだかったバナージは、怨みに囚われたロニを呪縛から解き放とうとした。だが、仲間の死がロニの心を閉ざし、怨念に染まった存在へと変える。それを止めるにはロニの命を絶つしかないと断ずるリディと、彼女を撃てないバナージ。相反する思いの果てに、リディはロニに止めを刺し、バナージは彼女を救えなかった失意に崩れ落ちる。そして、ふたりの頭上に漆黒のMSが舞い降りるのだった。

「黒い……」

「ユニコーン……！」

Illustration : TOMOTAKE KINOSHITA

ジェスタ

エースパイロットチーム「トライスター」によって運用され、ロンド・ベルMS部隊の戦力として活躍した。

JESTA





ジェ
ヤセ
ている。また、丸みを帯びた形状の装甲も特徴と言える。

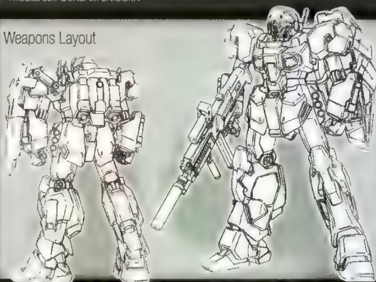
E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
RGM-96X / JESTA

『UC計画』において、RX-0ユニコーンガンダムと共に開発されたRGM-89ジェガンの上位機種。ユニコーンガンダムがデストロイモードを発動した際に、本来の目的であるニュータイプとの戦闘に専念させるために、周囲の敵戦力を排除する「護衛」が主な役割であったが、その開発目的は軍内部でも秘匿されていた。そうした理由からジェガンをベースにしながらも、より高性能化が図られており、エースパイロット向けの機体であったとも言える。ユニコーンガンダムが制式配備されなかったため、ジェスタは、ロンド・ベルの旗艦であるラー・カイラムに評価試験機として配備。ロンド・ベルのエースパイロットの3人組「トライスター」が搭乗した。

全高:19.3m
本体重量:24.8t
全備重量:57.2t
ジェネレーター出力:2710kw
スラスター総推力:89000kg
センサー有効半径:14200m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材＋一部ガンダリウム合金
武装:バルカン・ポッド・システム／ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／ハンド・グレネード／シールド

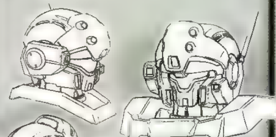
Weapons Layout



専用の小型シールドは、可動式アームに接続され左側に配置。左腕にはビーム・ライフルの予備エネルギーパックを、右腕にはビーム・サーベルを、腰部にはハンドグレネードを装備している。



■ Vulcan Pod System



バルカン・ポッドは、ジェガンとは逆となる右側頭部に配置される。

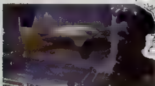
■ Beam Sabel



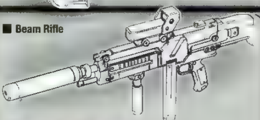
ビーム・サーベルは、左上腕部に1本のみ配置。基部から起き上がったものを引き抜いて使用する。

■ Body

コックピットハッチは、上下展開式を採用している。



■ Beam Rifle





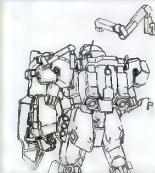
銃口部分に加速・偏向装置が取り付けられた、専用のビーム・ライフル。

■ Shield

小型で特殊な形状の専用シールド。4基の小型ミサイルが格納されている。







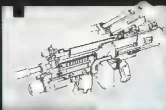
シールドは可動式のアームによって保持されている。

ジェスタ・キャノン

JESTA CANNON




ワッツ・ステップニー中尉が搭乗し、通常タイプのジェスタ2機をサポートする形で、火力支援を担い、トライスターの一角として活躍した。



ビーム・ライフルには、照準器とグレネードランチャーが追加された。

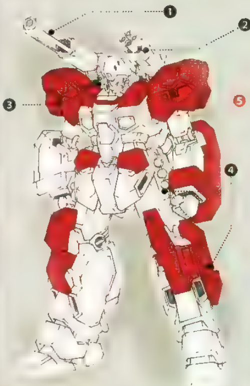
『UC計画』において、RX-0ユニコーンガンダムの随伴機として開発されたジェスタのバリエーション機。ジェスタは、ベースとなったRGM-89ジェガンと同様に、高い拡張性が特徴で、専用オプションの装着によって様々な任務に対応できた。本機はそうしたバリエーションのうちのひとつであり、中距離での援護砲撃を行うための火力支援用の増加装備が施された。さらに、機体各部には追加装甲が配置され、携行火器はグレネード・ランチャーを追加した強化型を装備する。こうした装備により、中距離支援型を思わせる名称以上の機能向上が図られている。さらに火器管制用の電子装備もバージョンアップされており、ジェスタの強化型とも言える機体となった。

E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
RGM-96X / JESTA CANNON

全高:19.3m
本体重量:[illegible]
全備重量:75.4t
ジェネレーター出力:2710kw
スラスター総推力:89030kg
センサー有効半径:14200

装甲材質:チタン合金セラミック複合材＋一部ガンダリウム合金
武装:バルカン・ポッド・システム／ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／グレネード・ランチャー／ハンド・グレネード／ビーム・キャノン／4連マルチ・ランチャー

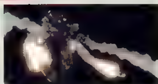
Weapons Layout



右肩にはビーム・キャノン、左肩には４連マルチランチャー、脚部にはハンド・グレネードが追加で配置。シールドも左腕部に固定型のものが配置されている。

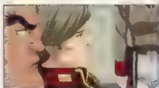


ビーム・キャノンは単装型だが、大出力ビームを連続で発射することができる。



多目的かつ対MS攻撃用の４連装マルチランチャー。戦況に応じた特殊弾を発射可能だ。

❶ ビーム・キャノン
❷ 4連マルチ・ランチャー
❸ バルカン・ポッド・システム
❹ ハンド・グレネード
❺ 増加装甲







◀ナイジェル・ギャレット

◀ダリル・マッギネス

◀ワッツ・ステップニー





トライスター

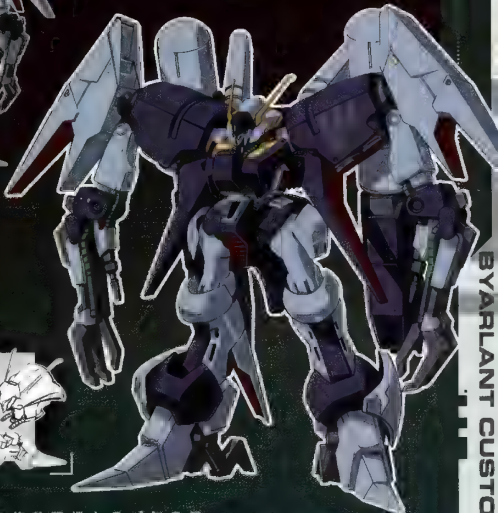
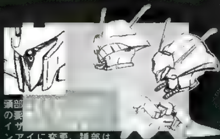
ロンド・ベルのエースパイロット―ナイジェル・ギャレット大尉、ダリル・マッギネス中尉、ワッツ・ステップニー中尉　の3人で構成されるMS小隊。3機での連携攻撃を得意とし、多くの訓練記録を塗り替え、『UC計画』のテストパイロットとなる予定だった。ナイジェル大尉が隊長を務めた。




トリントン基地襲撃事件での活躍が知られる。基地内に侵入した複数の敵機を単機で迎撃した。

バイアラン・カスタム

BYARLANT CUSTOM

頭部… の要… イサ… ンアイに変更。腰部はNRX-055バウンド・ドッグと同型に改められた。

グリプス戦役時にティターンズが開発した試作MS、RX-160バイアランの改修機。非変形かつ単独での大気圏内飛行を目指した原型機のコンセプトを継承し、既存技術のみでさらなる空中機動性を獲得している。トリントン基地で2機が改修され、うち1号機がU.C.0096にジオン残党軍と交戦。旧世代機が相手とはいえ、多数の敵機を撃破している。この1号機は改修部分の検証用に過ぎず、5指タイプのマニピュレーターとビーム・キャノン内蔵型ムーバブル・バインダー、シールド兼用の胸部エアロ・アーマーなどを備えた2号機こそが完成形であると言われている。因みに2号機は襲撃事件の際、援護射撃を行った直後に起動エラーでフリーズしたと言われる。

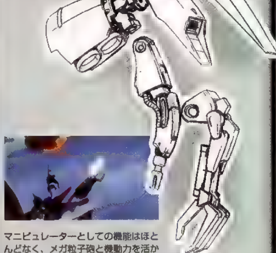
E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
RX-160 / BYARLANT CUSTOM

全高:20.6m
本体重量:38.9t
全備重量:60.3t
ジェネレーター出力:1840kw
スラスター総推力:96300kg
センサー有効半径:11200m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:グロー・アーム/[illegible]
ビーム・サーベル

■ Arm

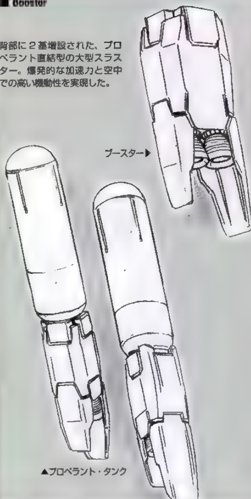
脆弱だった原型機の腕部は、RX-110 ガブスレイの脚部フレームを流用し剛性を向上させている。



マニピュレーターとしての機能はほとんどなく、メガ粒子砲と機動力を活かしたトリッキーな攻撃を得意とした。

■ Booster

背部に2基増設された、プロペラント直結型の大型スラスター。爆発的な加速力と空中での高い機動性を実現した。



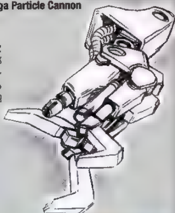
■ RX-160 S-2 / BYARLANT CUSTOM 02



バイアラン・カスタムに改良を加えた機体。背面にビーム・キャノン内蔵のムーバブル・バインダーを装備したほか、腕部も5本指タイプのマニピュレーターに換装している。また空気抵抗の軽減を目的としたエアロ・アーマーやオプションとして大型ブースターが用意されるなど、ORX-005 ギャプランに近い特性を獲得している。なお、本機はラー・カイラムに配備され、リディ・マーセナスが搭乗したとも言われる。

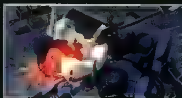
■ Crowe Arm / Mega Particle Cannon

原型機と同じく携行火器は持たないが、腕部クロー・アームにビーム・サーベルとしても使用できるメガ粒子砲を装備。

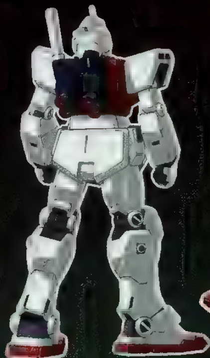
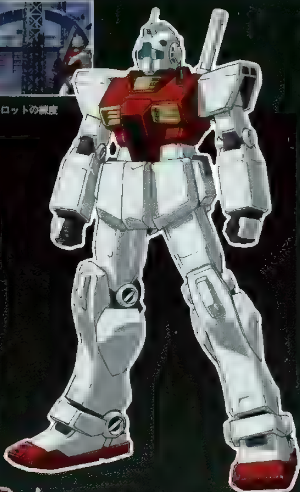




腕部のメガ粒子砲は連射性能に秀でており、高い機動性を活かした戦法で敵機を翻弄した。




トリントン基地におけるジオン残党軍との交戦が知られる。パイロットの練度の問題からか、撃破される機体も多かった。

GM II

E.F.S.F. MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
RGM-179 / GM II

全高:18.1m
本体重量:40.5t
全備重量:58.7t
ジェネレーター出力:1518kw
スラスター総推力:62000kg
センサー有効半径:8800m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・サーベル/ビーム・ライフル
60mmバルカン砲/シールド

一年戦争の名機RGM-79ジムの後継機で、ジムに近代化改修を施した機体と新規生産分の2タイプが存在する。装甲強度を除けばRX-78-2ガンダム以上の性能を誇ったものの、MS技術の急速な進歩にはついて行けず、グリプス戦役時代にはすでに陳腐化していた。その大半はほどなく退役したが、運用性の高さから、トリントン基地のような僻地ではU.C.0096時点でも現役で使用されていた。

■ Back



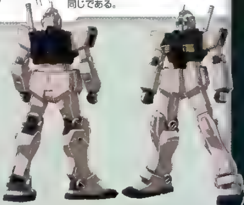
ランドセルを外した状態の背部。標準装備以外のランドセルは確認されていない。

■ Upper body



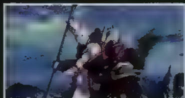
左肩部に増設されたセンサーユニットを除けば、外観はジムとほとんど同じである。

■ Dessert color

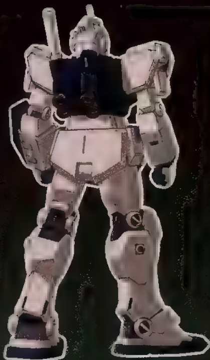
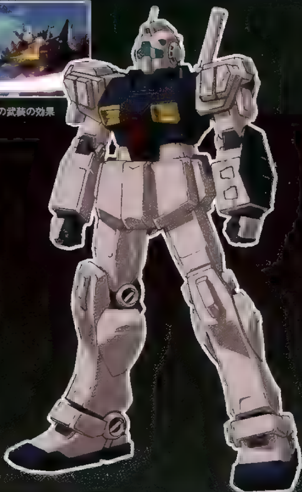


トリントン基地の配備機とされるカラーバリエーション。同基地においてこのカラーは他機種しか確認されていないが、ジムIIでも存在した可能性はある。

トリントンの港湾基地に配備されていた機体は、ハープーン・ガンを装備していた。




OSの変更に伴いツイン・ビーム・スピアといった特殊な近接戦用の武装の効果的な使用が可能となった。

GM II SEMI STRIKER

ジムII・セミストライカー

■ Twin Beam Spear

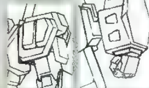
ジム・ストライカー用に開発された接近戦兵装。2本のビーム・サーベルを90度まで折れ曲がるソケットに装着したもの。



突きや斬撃など、幅広い攻撃が可能。懐に入られると対応が困難となった。

■ Defense Arms

増加装甲は肩部がジム・ストライカー、左前腕部がフルアーマーガンダムと同型。前者はオリジナルと異なり爆発反応装甲ではないが、後者はガンダリウム合金製である。

E.F.S.F. ANTI-SHIP ASSAULT MOBILE SUIT
RMS-179 / GM II SEMI STRIKER

全高:18.1m
本体重量:43.5t
全備重量:57.5t
ジェネレーター出力:1518kw
スラスター総推力:62000kg
センサー有効半径:8800m

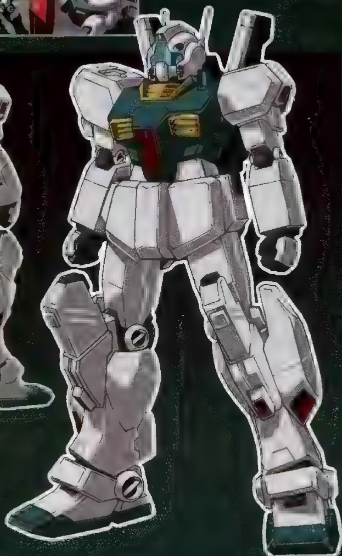
装甲材質:チタン合金セラミック複合材+一部ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル/ツイン・ビーム・スピア/60mmバルカン砲/小型シールド

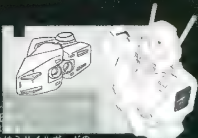
トリントン基地に配備されていたジムIIに増加装甲を装着した現地改修機。既存機体用の補充パーツを再利用したに過ぎないため、独自の型式番号は与えられていないが、両肩の装甲と使用武装がRGM-79FPジム・ストライカーと同型であるためか、現地ではジムII・セミストライカーの愛称で呼ばれていた。改修はOSにも及んでおり、一定の近接戦闘モーションに特化したものに書き換えられている。



U.C.0096においても各地で運用されていた。ダカール、トリントン基地配備機は、ジオン残党軍との交戦が確認されている。







セン…は既…とは…窪みはミサイルポッドのハードポイント。足底部はジムIIと同型。

RMS-179ジムIIの後継機。第一次ネオ・ジオン戦争期にカラバとAE（アナハイム・エレクトロニクス）社が共同で開発し、のちに地球連邦軍の主力機となった。一部の装甲にガンダリウム合金が使用され、ランドセルをはじめとする全パーツの3割強をRX-178ガンダムMk-IIと共通化。センサー系と推力も強化されるなど、原型機のマイナーチェンジに過ぎなかったジムIIとは比較にならないほど本格的な性能向上が図られている。高性能機でもあるにもかかわらず、わずか数年でRGM-89ジェガンに主力機の座を譲ることとなった。しかし、中・遠距離支援も視野に入れたミサイル発射機用ハードポイントを設けていたことが幸いし、支援機として永く用いられた。

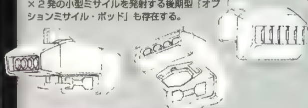
E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
RGM-86R / GM III

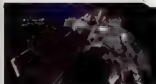
全高：18.0m
本体重量：38.6t
全備重量：56.2t
ジェネレーター出力：1580kw
スラスター総推力：81200kg
センサー有効半径：10900m

装甲材質：チタン合金セラミック複合材＋ガンダリウム合金
武装：ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／60mmバルカン砲／大型ミサイル・ランチャー／ミサイル・ポッド／シールド

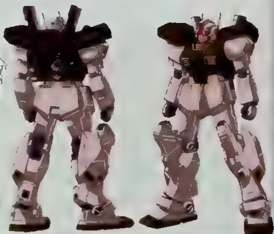
■ Missile Pod

肩部に装備され４×４発の中型ミサイルを発射する、通称「ノーマルミサイル・ポッド」。15×２発の小型ミサイルを発射する後期型「オプションミサイル・ポッド」も存在する。



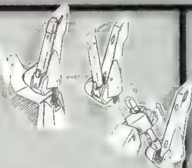


肩部だけでなく、腰部両側面にも２連大型ミサイルランチャーを装備可能。



■ Beam Saber

サーベル本体とそれを収納するランドセルは、RX-178 ガンダムMk-Ⅱと同型。これ以外にも全パーツの30%程度が同機と共通している。

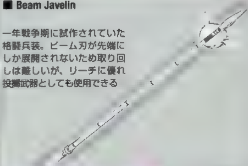




格闘兵器としては標準的な武装。攻撃力の高く、ほぼすべての主力機に装備されていた。

■ Beam Javelin

一年戦争期に試作されていた格闘兵装。ビーム刃が先端にしか展開されないため取り回しは難しいが、リーチに優れ投擲武器としても使用できる





ダカールに配備されていた機体が使用。敵機MSとの格闘戦に用いている。

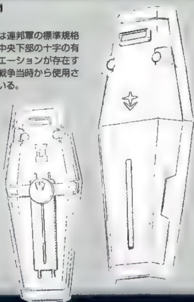
■ Dessert color

トリントン基地配備機に見られるカラーバリエーション。他機種でダークブルーの部分が本機のみオリーブグリーンとなっている。



■ Shield

シールドは連邦軍の標準規格タイプ。中央下部の十字の有無でバリエーションが存在する。一年戦争当時から使用され続けている。



アクア・ジム




潜水艦をはじめ、空母にも配備されていたが、ジオン残党軍の攻撃に為す術もなく撃破された。



AQUA GM

E.F.F. MASS-PRODUCED AMPHIBIOUS MOBILE SUIT
RAG-79 / AQUA GM

全高:18.0m
本体重量:49.5t
全備重量:64.3t
ジェネレーター出力:1280kW
スラスター総推力:89500kg
センサー有効半径:――

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・ピック/ハンドランチャー/ハープーン・ガン/ミサイルランチャー
[illegible]

ジオン公国軍の水陸両用MSに対抗すべく、一年戦争当時の地球連邦軍が開発した水中用MS。RGM-79ジムをベースにランドセルと肩部にハイドロジェットを装備し、水中用の武装を携行する。しかし、開発期間が短か過ぎたこともあり「場当たり的な改修」と評判は悪かった。UC0096においてもトリントン湾岸基地や潜水艦部隊に配備されていたが、ジオン残党軍の攻撃で撃破されている。

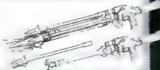
■ Missile Launcher

対艦攻撃用の大型ミサイル2発に加え、より小型なミサイルとランチャーも備えた専用兵装。



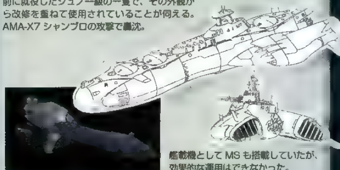
■ Harpoon Gun

水中型ガンダム用に開発された装備。先端の指向性爆弾が散装甲を貫通後に爆発するため、水中でも威力の減衰が少ない。



■運用船

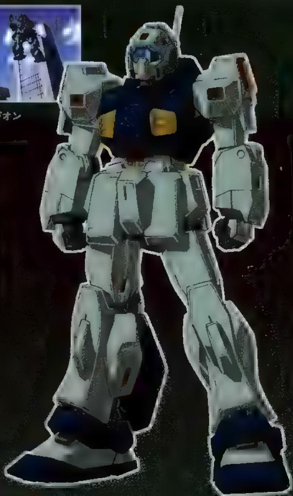
ダカール潜水隊に所属する潜水艦。一年戦争以前に就役したジュノー級の一隻で、その外観から改修を重ねて使用されていることが伺える。AMA-X7 シャンブロの攻撃で轟沈。



艦載機として MS も搭載していたが、効果的な運用はできなかった。




ダカールにも配備されており、ジム・マシンガンを装備した機体がジオン残党軍と交戦している。

E.F.F. MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
MSA-003 / NEMO

全高:18.5m
本体重量:[illegible]
全備重量:55.6t
ジェネレーター出力:1620 kW
スラスター総推力:72800 kg
センサー有効半径:10020m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル/ビーム・ライフル/60mmバルカン砲/シールド/[illegible]イフル

グリプス戦役でのエゥーゴとカラバの主力MS。設計・開発はAE(アナハイム・エレクトロニクス)社が担当した。ジム系初のムーバブル・フレームとガンダリウム合金、名機RGM-79SPジム・スナイパーIIと同メーカー製のFCSとスラスターを採用。コスト以上の性能を誇り、戦後も連邦軍所属機として配備され続けたが、UC0096においては性能の低下は否めず、ベテランパイロットの技量によって性能差を補っていた。

170mm Cannon Gun




MS用の大型携行火器。一年戦争で地球連邦軍が用いた180mmキャノン砲の後継兵装と思われる。長距離・支援用の火器で、両腕で保持して使用する。

Desert Color

トリントン基地配備機のカラー。一年戦争期に配備されていたRGM-79C ジム改の塗装を踏襲している。




NEMO
ネモ

ガンキャノン・ディテクター




トリントン基地配備機は、ビーム・キャノンによる対空攻撃などを行っている。




GUN CANNON DT

E.F.F. MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
MSA-005K / GUN CANNON DT

全高：18.5m
本体重量：[illegible]
全備重量：54.8t
ジェネレーター出力：[illegible]
スラスター総推力：[illegible]
センサー有効半径：[illegible]

装甲材質：ガンダリウム合金
武装：ビーム・キャノン／ビーム・ライフル／ビーム・ガン／60mmバルカン砲

グリプス戦役時、カラバの要請で（アナハイム・エレクトロニクス）社が開発したMS。ゲリラ戦に適した[illegible]戦用機で、MSA-005メタスのムーバブル・フレームを転用することで、安定した射撃姿勢を取ることができた。「ガンキャノン」の名はカラバのリーダーのひとりである、ハヤト・コバヤシの一年戦争時の愛機に因んでいる。UC0096には、トリントン基地に複数の機体が配備されていた。

■ Sole Parts

足は爪先が大きく折れ曲がり、立膝での射撃姿勢を安定させる。これ以外にも射撃安定用の機候を有する。



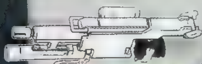
■ Head Parts

「ガンキャノン」と名付けられているが、頭部の形状からメタスの系譜にあることがわかる。



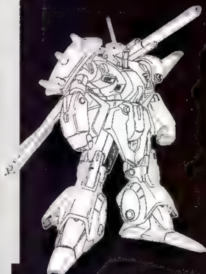
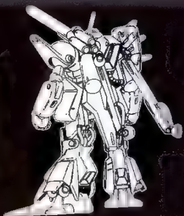
■ Beam Rifle

生産数は極めて少ない機体だが、グレネード・ランチャーを備えた専用ビーム・ライフルも開発された。




■ Beam Cannon

背部に2門のビーム・キャノンを装備。立膝や両脚を前に投げ出した射撃姿勢では、股間部フレームで機体を支えることも可能

MSA-004K / NEMO III

[illegible]
本体重量:45.4t
全備重量:56.1t
ジェネレーター出力:1620kw
スラスター総推力:68600kg
センサー有効半径:12050m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／60mmバルカン砲／ビーム・キャノン



開発コストの配分に起因するMSA-003ネモの火力不足を解消すべく、ビーム・キャノンを搭載した改修機。エゥーゴのブレックス・フォーラ准将暗殺による混乱でグリプス戦役の末期の開発となり、戦後はトリントン基地にも配備された。

RGZ-91 / Re-GZ

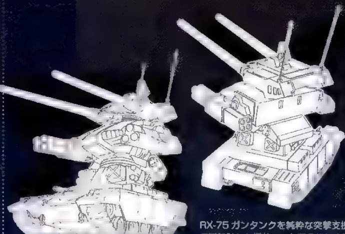
全高:20.5m
本体重量:24.7t
全備重量:55.2t
ジェネレーター出力:2550kw
スラスター総推力:67600kg
センサー有効半径:18900m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／2連装グレネード・ランチャー／[illegible]バルカン砲／シールド






MSZ-006 Zガンダムの量産試作機。バイオセンサーこそ搭載しているが、WR形態からMSへの変形時にバック・ウェポン・システムを破棄が必須という運用性の低さが災いし、ラー・カイラムに数機が配備されるに留まった。



RMV-1 / GUN TANK II

全高:15.2m
本体重量:98.4t
全備重量:——
ジェネレーター出力:——
スラスター総推力:——
センサー有効半径:——

装甲材質:——
武装:120mmライフル砲／ロケット・ポッド／3連装ミサイル・ランチャー／60mmバルカン砲



RX-75ガンタンクを純粋な突撃支援用装甲車輌として再設計した機体。一年戦争後に少数が生産され、基地防衛などに使用された。U.C.0096のトリントン基地への配備も確認されている。

ラー・カイラム

RA CAILUM




大気圏内外での高度な運用性は、独自の警察権を持つロンド・ベル隊にとって極めて有効に働いた。

艦橋
部に戦闘ブリッジを備える。主砲となる連装メガ粒子砲は、艦体前部に3基、後部に1基を搭載。

UC0096における地球連邦軍外郭部隊ロンド・ベル隊の旗艦で、ラー・カイラム級巡洋艦のネームシップ。地球連邦軍艦艇の集大成として、艦体前部はサラミス級、後部はアレキサンドリア級、カタパルト配置はアーガマ級、砲の配置をマゼラン級に倣い、ホワイトベース級と同様に単独での大気圏突入も可能。さらには新型のミノフスキー・クラフトの搭載実験艦にも選ばれた結果、砲撃戦・対MS防空戦・搭載MSの運用性・戦略機動性のすべてに秀でた超高性能艦として完成した。バーミンガム級と同じく通常ブリッジに加え戦闘ブリッジを備え、後者は脱出ポッドとしても機能するなど、クルーの生存性に対する配慮も行き届いている。

RA CAILUM

全長：457m
武装：2連装メガ粒子砲×4
ミサイル・ランチャー
対空機銃×14

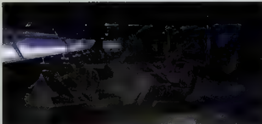
■ブリーフィングルーム

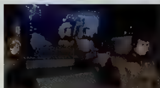




作戦の開始前に、MSパイロットやクルーがミーティングを行うための部屋。

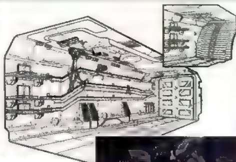
■ Bridge





戦闘ブリッジ。キャプテンシート後方には、作戦状況を確認できる大型スクリーンがある。

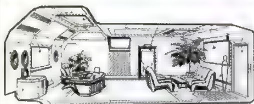
■後部MSデッキ

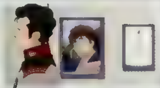




艦体後部の着艦専用MSデッキ。1G／0Gの双方に対応した整備機構が整えられている。

■艦長室





部屋の壁にはかつてのクルー、アムロ・レイのポートレイトが飾ってある。





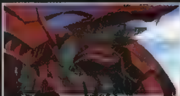
ブライトはラー・カイラムに回収されたバナージに、行くべき道を示した。メランは艦長の意を汲み、彼を支えた。

ラー・カイラム クルー
RA CAILUM CREW

進宙以来、ラー・カイラムの艦長はロンド・ベル隊司令ブライト・ノア大佐が務めている。一年戦争でホワイトベースの艦長となって以来、常にガンダムのパイロットたちと戦い抜いてきた歴戦の将官であり、連邦上層部すら出し抜く知略と胆力も兼ね備えている。副長のメラン中佐は冷静沈着なブライトの右腕でU.C.0093の『シャアの反乱』ではアクシズに潜入したブライトに代わって艦を守り抜いた。



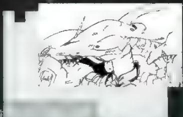




大型メガ粒子砲とリフレクター・ビットにより、拠点攻略に加え、対MS戦も可能であった。

シャンブロ

SHAMBLO



機首 子砲を内蔵。パーツが上下に展開して兵装が露出する。

地球のジオン公国残党軍がダカールとトリントンの襲撃に用いた、水陸両用の試作MA。「ハマーンの遺産」と称された第一次ネオ・ジオン戦争期の基礎設計を基に、6年の歳月を費やして完成した。大口径メガ粒子砲と戦艦すら轟沈せしめる巨大なアイアン・ネイルをはじめ、ビームを反射するリフレクター・ビットを多数搭載。これを機体の周囲に展開することで、極めて高度な攻防力を発揮する。その代償として、サイコミュで制御されるリフレクター・ビットをはじめとする機体コントロールは複雑を極めたが、『袖付き』の援助と技術支援によりコックピット周辺にサイコフレームが追加された結果、ニュータイプ・パイロット1名での操縦も可能となった。

NEO ZEON PROTOTYPE AMPHIBIOUS MOBILE ARMO
AMA-X7 / SHAMBLO

全高:77.8m(水中巡航形態)
31.8m(陸上戦闘形態)
本体重量:196.8t
全備重量:283.9t
ジェネレーター出力:21460kW
スラスター総推力:228480kg
センサー有効半径:12800m(陸上)
240000m(ソナー/水中)

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:リフレクター・ビット/拡散メガ粒子砲
大口径メガ粒子砲/大型アイアン・ネイル

■陸上戦闘形態



巨体のため、機動性は低い。しかし、周囲に展開したリフレクター・ビットで、攻防力の低下は見られなかった。



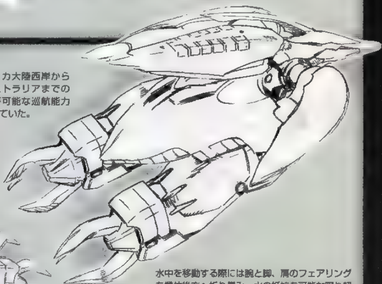
陸上では巨大な脚部と、そこから伸びる腕部を展開し、戦闘形態を取る。

■水中巡航形態



アフリカ大陸西岸からオーストラリアまでの移動が可能な巡航能力を有していた。



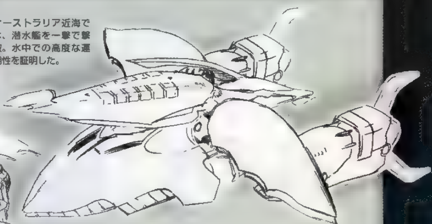


水中を移動する際には腕と脚、肩のフェアリングを機体後方へ折り畳み、水の抵抗を可能な限り軽減。これにより、巨体でありながら高い速力を発揮する。

■水中巡戦闘態

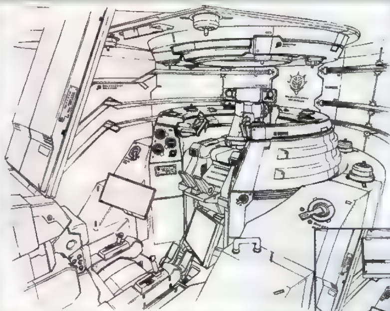


オーストラリア近海では、潜水艦を一撃で撃破。水中での高度な運用性を証明した。

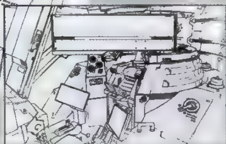


水中戦では、両腕のみを前方に展開。この形態での主兵装となるアイアン・ネイルは、艦艇を貫通するほどの威力を発揮する。

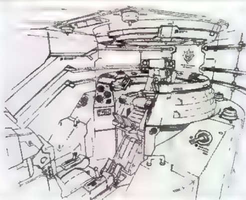
■ Cockpit



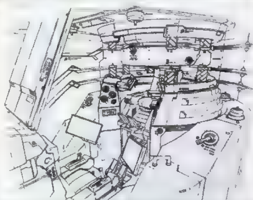
単座化の代償として操縦者の精神に高い負荷がかかることとなった。この問題を解決するためロニ・ガーベイの亡父マハディの指示で、パイロットと向かい合わせのモニタリング・シートを設置。だが実戦で使われることはなかった。



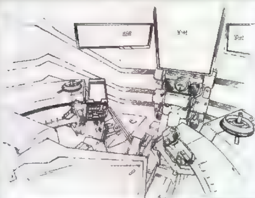
▼モニタなし状態



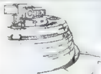
▼リング下降状態



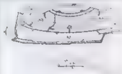
サイコフレーム製コックピットは搭乗者の感応波と連動してサイコミュ能力を向上させる。ロニが連邦軍への恨みと怒りを露わにした際には天井のリングが下がり、シートの周囲からシリンダー状の構造物が展開した。



◀前方



▲後部



▲リング

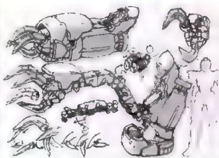
コックピット内の各部。全天周モニターではなく、円筒の内部にシートを据えたような構造は、本機独特のものと言える。

■大口径メガ粒子砲



機首に内蔵されたメガ粒子砲は、上下左右の装甲が展開することで露出。頸部に当たる部位があることからある程度の射界を持つ。

■ Arm

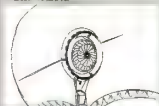


大型クローを備えた先端部と、フレキシブルに動く長いアームで構成された腕部。脚部の前面に格納され、必要に応じて展開するシステムとなっている。

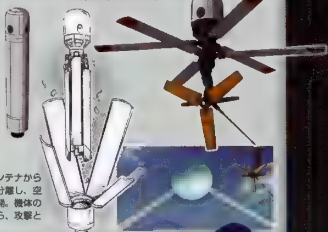
■リフレクター・ビット／拡散メガ粒子砲

リフレクター・ビットは敵からのビームを跳ね返す一方、本体両肩にある拡散メガ粒子砲のビームを反射して、多数の目標を同時に攻撃。攻防一体の兵装として機能する。

▼拡散メガ粒子砲



▼リフレクター・ビッド



各ビットは背部コンテナから射出後にケースを分離し、空中でプロペラを展開。機体の周辺に滞空しながら、攻撃と防御を担う。



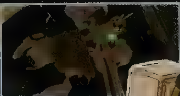


トリントン襲撃時にバナージの呼び掛けに正気を取り戻すが、ヨンム・カークスの死で暴走、悲劇的な最期を遂げた。

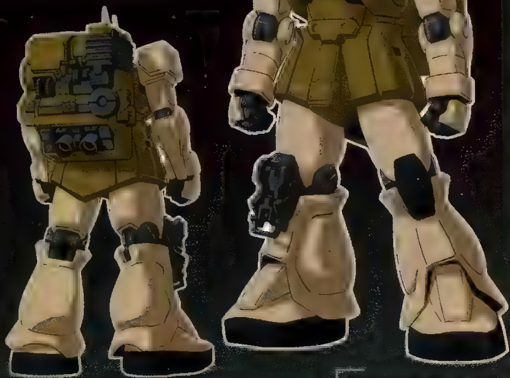
ロニ・ガーベイ
LONI GARVEY

ジオン残党軍の少尉でニュータイプのパイロット。一年戦争の直後に投降も許さず両親を嬲り殺しにした、地球連邦軍への復讐の誓いを果たすために生きてきた。父マハディの遺産とも言うべきシャンブロでトリントン襲撃作戦に加わった際、マハディの怨念によって機体が暴走し、市街地を無差別に攻撃。制止するバナージの声に己が人生の哀しさを悟るが、リディの放ったビーム・マグナムに散った。



トリントン基地襲撃作戦では、上空からの支援を担った。戦闘の終盤、ファット・アンクルから降下したが、敵の迎撃を受けた。



ZAKU I SNIPER TYPE

PRINCIPALITY OF ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT SNIPER USE
MS-05L / ZAKU I SNIPER TYPE

全高:17.5m
本体重量:67.9t
全備重量:
ジェネレーター出力:899kw(+700kw)
スラスター総推力:8400kg
センサー有効半径:10900m

装甲材質:超硬スチール合金
武装:ビーム・スナイパー・ライフル
バルカン砲

MS-05ザクⅠの長距離狙撃型。サブ・ジェネレーターを搭載した大型ランドセルを装備することで、ロングレンジ・ビーム・ライフルの運用を可能としている。頭部は超望遠レンズを持つMS-06Eザク強行偵察型のものに自衛用のバルカン砲を加え、右膝には射撃時の低重心姿勢を安定させる格納式ニー・パッドを装備。一年戦争開戦時すでに旧式化していたザクⅠは、この改修によって戦列への復帰を果たした。

■ Beam Sniper Rifle

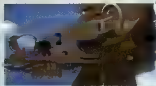
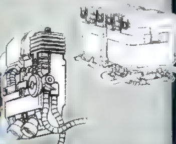
MS-14C ゲルググ・キャノンの技術を転用して開発され、高い威力と射程を誇る。だが当時の MS では内蔵ジェネレータのみで運用できず、冷却性にも問題があった。



高出力のため、砲身は一射ごとの交換が必要となった。

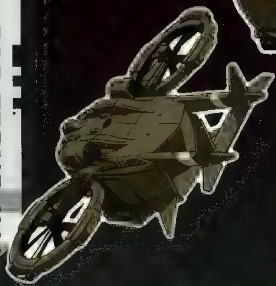
■ Back Pack / Sub Tank

サブ・ジェネレーターを搭載したバックパックは、主兵装の運用に不可欠。冷却タンクはオプションであった。




ジオン残党軍にとっては貴重な輸送手段であった。鈍重そうな外見だが、運動性も高かったようだ。


FAT UNCLE CUSTOM

一年戦争以来、ジオン公国軍とその残党に用いられている超大型輸送機。MS3機または重MS2機を直立状態で積載できる。エンジンごとローターを折り畳めば省スペース化が可能など、運用面に優れる。前面が左右に開き、後部はスロープ式、左側面スライド式など、ハッチの位置とタイプには数種のバリエーションが存在。




ヨンム・カークス
YONEM KIRKS

ニューギニアに潜伏するジオン残党軍部隊のリーダー。熟練のMSパイロットで、MS-05Lザク I・スナイパータイプでの狙撃を得意とする。ロニの父親代わりだが、連邦軍への憎悪に囚われた彼女を案じていた。

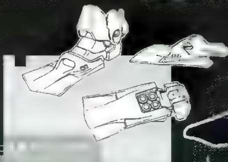
ゼー・ズール

ZEE ZULU

5本指式のマニピュレーターに加え、ビーム・マシンガンを主兵装とするなど、高い汎用性を特徴とする。







足に
装備
フィンに小型のハイドロジェット推進器が装備されている。

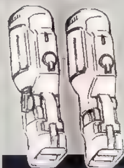
NEO ZEON MASS-PRODUCED AMPHIBIOUS MOBILE SUIT
AMS-129M / ZEE ZULU

「袖付き」が開発した水陸両用MS。主力機であるAMS-129ギラ・ズールの基本フレームに、各種水中用装備を加えた改修機である。背部のハイドロジェット推進器に加え、首周りのバラスト・タンク、胸部のベスト状着水装置、足のフィンなど、従来の水陸両用機よりも洗練された装備と汎用性を持つ。一方で腕部には、ジオン系水陸両用MSの伝統であるアイアン・ネイルも外付け式で装備。水中と陸上の双方において、優れた格闘能力を発揮する。U.C.0096には地球のジオン残党軍に2機が供与され、AMA-X7シャンブロと共にトリントン基地を襲撃。基地に甚大な被害をもたらしたが、RX-160S バイアラン・カスタムに撃破された。

全高:20.3m
本体重量:28.9t
全備重量:42.6t
ジェネレーター出力:2470kW
スラスター総推力:――
センサー有効半径:18200m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:アイアン・ネイル/ヒート・ナイフ/ビーム・マシンガン/グレネード・ランチャー

■ハイドロジェット推進器



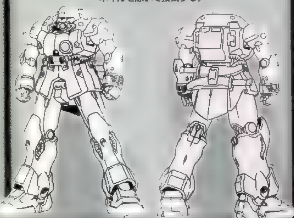
背部に装着された水中での主推進器。MSM-07 ズゴックと同じく左右が独立した2基構成で、上陸後にはパージされる。



水中用装備をオプション化することで、上陸後のデッドウエイト化を回避できた。

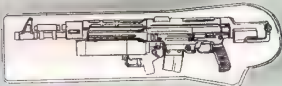
■除装状態

腹部のタンクと足のフィン、背部のハイドロジェット推進器とガンケース、アイアン・ネイルは任意にパージ可能。上陸後はアイアン・ネイルを除いて投棄する。



■ Gun Case / Beam Machinegun

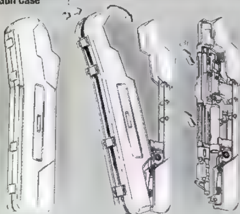
携行火器としては専用のビーム・マシンガンを装備。上陸後に使用されることが多いが、ビーム収束率を上げて偏向射撃モードに切り替えれば、水中での使用にも耐え得る。





ビーム・マシンガンにはグレネードも装着される。こうした装備により、汎用機に匹敵する汎用性を発揮する。

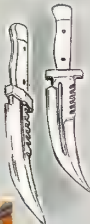
■ Gun Case

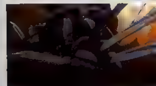


水中潜行時にビーム・マシンガンを収納。上陸後にケースを地面に立てるとカバーが展開し、銃本体を取り出せる。

■ Heat Knife

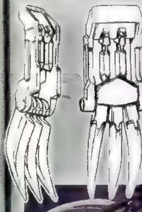
加熱したブレードで敵の装甲を溶断する、ヒート系格闘兵装の小型版。腰部背面にマウントされた「鞘」に2本が収納されている。





リーチは短いが、熟練パイロットは本兵装と使用し、近接格闘戦を制した。

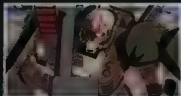
■ Iron Nail



両腕部に装着される格闘戦用オプション兵装。手に持ったヒート・ナイフと合わせての使用も可能だった。非使用時には爪が180度回転し、上向きに収納。



アイアン・ネイルそのものも高い格闘性能を有していたが、ヒート・ナイフとの組み合わせで、既存の水陸両用MSのように使用できた。




トリントン基地襲撃に各地から参戦したジオン残党軍が運用している。U.C.0096当時では旧式機だったが、基地守備隊に打撃を与えた。




DESERT ZAKU

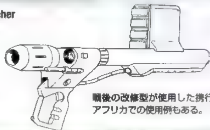
MS-06D / DESERT ZAKU

全高:18.5m
本体重量:44.7t
全備重量:69.5t
ジェネレーター出力:1440kw
スラスター総推力:8400kg
センサー有効半径:8800m

装甲材質:超硬スチール合金
武装:ヒート・ホーク／ザク・マシンガン／ロケット・ランチャー／ハンド・グレネード／[illegible]

一年戦争でジオン公国軍が開発した砂漠戦用機、MS-06Dザク・デザートタイプの改修型。MS-06J陸戦型ザクIIを強化し、軽量化と防塵処理を施した原型機を、戦後のジオン残党軍がさらに改良。装甲の整理、出力の向上、コックピットのリニア・シート化に加え、砂上走行用のジェットスキーによって機動力も向上している。戦後のアフリカやトリントン基地襲撃作戦での使用が知られる。

■ Missile Launcher



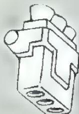
戦後の改修型が使用した携行兵装。アフリカでの使用例もある。

■ Back Pack

砂漠の高熱に備えて大型ラジエーターを装備した原型機のそれに、プロペラントタンクのマウントラッチを追加。



■ Triple Missile Pod



左腕部のオプション兵装で、一年戦争当時の原型機も使用した。ラッツリバー社製の兵器である。




山腹に擱座したペガサス級を拠点としていたジオン残党も保有。腰部にはビッグ・ガンを装備する。




MS-06K / ZAKU CANNON

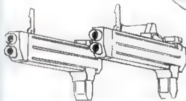
全高:17.7m
本体重量:[illegible]
全備重量:83.2t
ジェネレーター出力:970kW
スラスター総推力:83200kg
センサー有効半径:4400m

装甲材質:超硬スチール合金
武装:ヒート・ホーク/180mmキャノン/[illegible]マシンガン/スモーク・ディスチャージャー/ビッグ・ガン/ザク・バズーカ/シールド

ジオン公国軍が開発したキャノン砲装備型MS。当初はMS-06J陸戦型ザクIIの対空迎撃仕様として設計されたが開発は難航。地球連邦軍のRX-77ガンキャノンを参考に、中距離支援機として完成を見た。頭部の全周式モノアイや脚部増設スラスターをはじめ、各部の仕様も改められている。戦後に接収された機体は地球連邦軍に使用され、ジオン残党軍もトリントン基地襲撃に用いた。

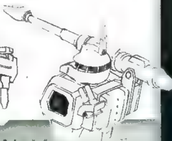
■ Big Gun

多連装ロケット弾ポッド。対複数戦闘を前提に開発されたオプション兵装で、腰部背面にマウントされる。



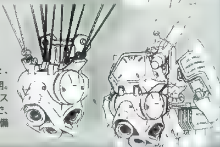
■ 180mm Cannon

ランドセルの右肩部と一体化した主兵装。左側には2連スモーク・ディスチャージャーを装備している。



■ Parachute

トリントン襲撃時、ド・ダイ改からの降下で使用。落下速度減衰用のスラスターを備えたユニットで、ランドセルの上から装備する。






東南アジアに潜伏すると思われるジオン残党軍が編成し、トリントン基地襲撃に呼応して出撃している。




ZAKU MARINER

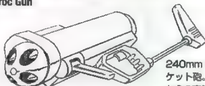
NEO ZEON MASS-PRODUCED AMPHIBIOUS MOBILE SUIT
RMS-192M / ZAKU MARINER

全高:17.5m
本体重量:48.8t
全備重量:68.3t
ジェネレーター出力:1440kw
スラスター総推力:8800kg
センサー有効半径:4600m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:サブロック・ガン／サブロック・ランチャー／マグネット・ハーケン

MS-06ザクIIを改設計した水陸両用MS。一年戦争後に地球連邦軍によって接収・改良されたが、ネオ・ジオンに奪還されたという数奇な運命を辿った。完全新規設計ではなくザクIIをベースとしたため、水中での運動性には限界があったが、連邦軍での改修により水中用装備が半アタッチメント化され運用性は向上。ジオン残党軍にも装備しており、トリントン基地襲撃にも投入された。

■ **Subroc Gun**



240mm口径の水中用ロケット砲。ジオン公国軍時代からの専用兵装である。

■ **Magnet Haken**



連邦軍が追加した曳航用装備で、左腕部に搭載される。

■ **Subroc Launcher**



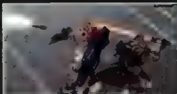
肩部に搭載されたミサイル・ランチャー。3連装で上部に向けて発射される。

■ **Head Parts**



ロッドアンテナを持つ頭部は一般型で、ブレードアンテナ装備の指揮官機、偵察用シュノーケルカメラを装備した機体も存在。






トリントン基地襲撃には、西アジア地区から参加した機体が確認されている。ホバーによる一撃離脱戦法で基地守備隊を撃破していった。




DOM TROPEN

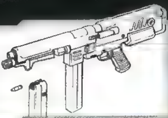
MS-09F / TROP　DOM TROPEN

全高:18.5m
本体重量:44.8t
全備重量:79.0t
ジェネレーター出力:1196kw
スラスター総推力:47200kg
センサー有効半径:5820m

装甲材質:超硬スチール合金
武装:ヒート・サーベル／MMP-80マシンガン／ハンド・グレネード

熱帯地域で運用するためMS-09ドムを改修したバリエーション機。熱核ジェットホバー機能を持つ足にダストフィルターが追加され、特に砂漠戦への適応力が高い。胸部拡散ビーム砲を廃してさらなる重装甲を施し、携行兵装や予備弾薬用のマウントラッチを多数備える。一年戦争末期の開発なため戦時中の運用例は少なく、戦後におけるジオン残党軍の運用例が多数確認されている。

■ MMP-80 Machine Gun



口径90mmの実体弾兵装。口径を小さくすることで初速の向上を果たすと同時に、威力を保ったまま高い速射性と命中精度、携行性を実現した。

■ Hand Grenade



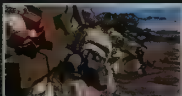

MS用の投擲武器。ロケット推進により、投擲後もある程度の飛行能力を有していた。

■ Heat Saber

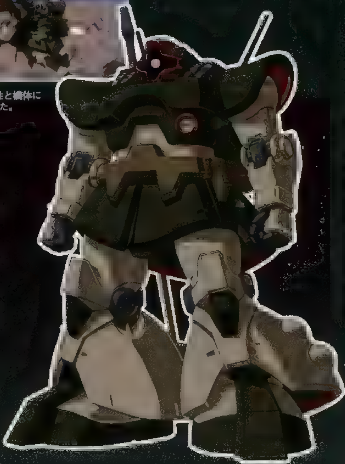


ドム系MS共通の格闘兵器。赤熱化するロッド状の刃で敵を溶断する。

ドム・トローペン




U.C.0090年代にはすでに旧式機であったが、高い機動性と機体に精通したパイロットの組み合わせで、一定の戦果を挙げた。

DWADGE

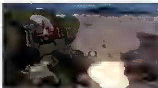
MS-09G / DWADGE

全高:18.0m
本体重量:43.5t
全備重量:81.7t
ジェネレーター出力:1440kw
スラスター総推力:128500kg
センサー有効半径:8800m

装甲材質:チタン合金+一部ガンダリウム合金
武装:ヒート・サーベル/ヒート・トマホーク/ザク・マシンガン/ハンド・グレネード/バルカン砲

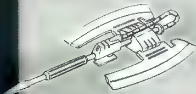
一年戦争におけるMS-09ドムシリーズの最終生産型。熱核ジェットエンジンの強化と脚部に内蔵したプロペラント・タンクによって、優れた加速性能を発揮する。最終生産型に相応しい性能を持つ反面、生産機数はわずか88機と言われ、戦時中に確認された例は極めて少ない。戦後はジオン残党軍の手で近代化改修が成され、17年後のトリントン襲撃作戦でそのポテンシャルを見せつけた。

■ Zaku Machine Gun



120mm口径のMS用機関砲で、型式番号はM-120A1。ザクをはじめとしてジオン公国軍MSが使用した。多数のバリエーションが存在する。

■ Heat Tomahawk



赤熱化したブレードで対象を溶断するヒート系兵装。通常は片刃だが、トリントン基地を襲撃したジオン残党勢力のドワッジは両刃タイプを使用した。

■ Heat Saber



トリントン基地を襲撃した本機のパイロットは格闘戦に秀で、両刃のヒート・ホークとドム系標準装備のヒート・サーベルを使いこなした。





ゲルググのバリエーションの中でも極めて珍しい重力下仕様機。専用装備に加え、大口径実体弾兵器を備える点が特徴。





DESERT GELGOOG

デザート・ゲルググ

■ Armed Buster



原型機の腕部補助ジェット推進器はオミットされ、左腕部にのみ折り畳み式の実弾兵装アームド・バスターを装備。



■ Beam Naginata



ゲルググ・シリーズの標準装備。ビーム・サーベルと同じで、発振器の両端からビーム刃を形成することも可能だが、熟練パイロットでなければ使いこなすのは難しかった。

■ Rocket Buster



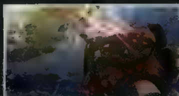
ジオン残党軍によるトリントン基地襲撃作戦に参加した機体は、ロケット・ブースターを装備していた。ブースターを用いて脅威的なジャンプ力を発揮した。

MS-14D / DESERT GELGOOG

全高:19.8m
本体重量:43.7t
全備重量:——
ジェネレーター出力:——
スラスター総推力:——
センサー有効半径:——

装甲材質:超鋼スチール合金
武装:ビーム・サーベル/ビーム・ナギナタ/ビーム・ライフル/アームド・バスター

ジオン公国軍の名機、MS-14Aゲルググの砂漠戦仕様。専用ランドセルに砂中潜行用スコープを装備し、ゲリラ戦や隠密行動を得意とする。ただし地球での配備数が少ないゲルググの派生型だけに、一年戦争における運用例はアフリカ戦線に配備された試作機のみと言われている。戦後はジオン残党軍に使用され、ビーム兵器が運用可能なこともあって、U.C.0090年代にも現役で運用されていた。




一年戦争時に使用された機体とは機体色が変更されている。堅牢な装甲も特徴で、小口径のビーム兵器では致命的なダメージは受けなかった。




Z'GOK

PRINCIPALITY OF ZEON MASS-PRODUCED AMPHIBIOUS MOBILE SUIT
MSM-07 Z'GOK

全高:18.4m
本体重量:65.1t
全備重量:96.4t
ジェネレーター出力:2480kw
スラスター総推力:83000kg
センサー有効半径:5200m

装甲材質:超鋼スチール合金
武装:アイアン・ネイル
240mmロケット・ランチャー
メガ粒子砲

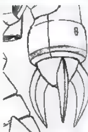
一年戦争時にジオン公国のMIP社が開発した水陸両用MS。開発こそ他の水陸両用MSに遅れたものの、ビーム兵器の開発に一日の長がある同社製の収束型メガ粒子砲や、水冷／空冷併用型ラジエーターの搭載などにより、当時の水陸両用機としては最も完成度の高い機体となった。反面、操縦には癖があったが、高い信頼性から後のジオン残党軍にも使用され続け、UC0096のトリントン基地襲撃にも参戦している。

■ Mega Particle Cannon

アイアン・ネイルの中央に内蔵。先行機であるMSM-03 ゴッグの拡散メガ粒子砲と比して、数倍の威力を誇る。



■ Iron Nail



ズゴックを象徴する格闘兵装。赤熱化などの機構は持たないが、機体の出力と運動性も相まって、MSの胴体すら貫く驚異的な破壊力を発揮する。

■ 240mm Rocket Launcher

頭頂部に6基を内蔵。地上での使用だけでなく、浅深度でなら水中からの発射も可能で、対空火器としても用いられた。





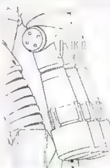


ダカール襲撃作戦では、腕部の3連装ロケット・ランチャーを打撃兵器として使用し複数の敵MSを撃破している。



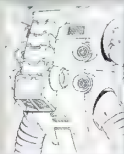

■ Triple Rocket Launcher

肘から先を火器とした固定武装。従来の3大口径砲ではなく、連射性能の高い小口径ロケット砲を発射するタイプに換装されている。

■ Mega Particle Cannon

胴体前面に4基搭載。グリプス戦役時の機体であるMSA-003ネモの装甲を貫通するほどの威力を誇った。

PRINCIPALITY OF ZEON SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
MSM-04G / JUAGGU

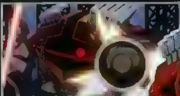
全高:[illegible]
本体重量:137.3t
全備重量:198.7t
ジェネレーター出力:[illegible]
スラスター総推力:[illegible]
センサー有効半径:——

装甲材質:超硬スチール合金
武装:3連装ロケット・ランチャー
ビーム砲

ジオン公国軍がジャブロー攻略を目的に開発したMSで、他のアッグ・アッグガイシリーズとの連携を想定していた。水陸両用MSではあるが水中での機動性は低く、高火力と重装甲を活かした上陸後の砲撃支援を担当した。しかし、ジャブロー攻略作戦に間に合わず極少数の生産に留まったが、数少ない現存機は戦後にジオン残党軍によるダカール襲撃作戦などに投入されている。

ゾゴック

ZOGOK

旧式機でありながら、極めて高い格闘性能を発揮。限られた武装で多大な戦果を挙げた。



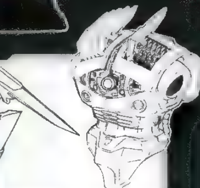

PRINCIPALITY OF ZEON SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
MSM-08 / ZOGOK

全高:18.2m
本体重量:72.4t
全備重量:107.3t
ジェネレーター出力:1688kw
スラスター総推力:97400kg
センサー有効半径:——

装甲材質:超硬スチール合金
武装:ヒート・ソード/ブーメラン・カッター/アーム・パンチ/ジャイアント・バズ/シュツルム・ファウスト

ジオン公国軍が開発したMSM-07ズゴックの派生試作機。ロッド・アームを伸縮させ、4本指のマニピュレーターを叩きつける「アーム・パンチ」を主な攻撃方法とし、高度な格闘性能を発揮した。開発の遅延からジャブロー攻略戦への投入は間に合わなかったが、17年後のU.C.0096にジオン残党軍がトリントン基地襲撃に投入、基地守備隊のMSを次々と撃破していった。

■ Boomerang Cutter





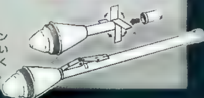
他に類を見ないユニークな兵装。頭頂部に左右5枚ずつ装備された金属の刃物を射出し、敵の装甲を切り裂く。

■ Heat Sword



ジオン公国軍MSの代表的な格闘兵装。トリントン襲撃で本機が用いたのは、MS-07 グフ系が装備するものと同タイプのようだ。

■ Sturm Faust



単発式の使い捨てロケット・ランチャー。ジオン公国軍MSに広く用いられた。命中精度は低いが威力は高く直撃すればMSでも撃破可能だった。




トリントン基地襲撃作戦では、サブ・フライト・システムを用いた空挺作戦を実施している。

EFREET SCHNEID




PRINCIPALITY OF ZEON PROTOTYPE MOBILE SUIT
MS-08TX/S / EFREET SCHNEID

全高：17.2m
本体重量：52.4t
全備重量：84.4t
ジェネレーター出力：2202kW
スラスター総推力：77000kg
センサー有効半径：12200m
装甲材質：超硬スチール合金＋一部ガンダリウム合金

[illegible]

ジオン公国軍の白兵専用試作MSで、MS-08TX イフリートの改修機。主として特務部隊に配備されていたイフリートだが、一年戦争後もジオン残党軍の手で仕様変更と近代化改修が繰り返され、原型機の2倍に匹敵するジェネレーター出力を有したほか、装甲の一部にガンダリウム合金が使用されるなど、極めて高い総合性能を獲得。この結果、本機の開発コンセプトである対MS白兵戦性能をより向上させた。

■ Giant Bazooka

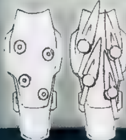
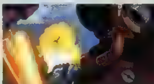


360mm 口径の対 MS ロケット・ランチャー。MS-09 ドムの標準装備だが、その大火力により多くの機種に用いられた。

■ Heat Dart



密着しての格闘戦や投擲に用いるクナイ型のヒート兵器。両肩のアーマーをはじめ、機体各所に計14本を装備する。

イフリート・シュナイド




ジオン残党軍が連邦軍の制式配備を入手できた経緯は不明。ティターンズ残党からの供与とも考えられる。



MARASAI

NEO ZEON ATTACK USE MOBILE SUIT
RMS-108 / MARASAI

全高：17.5m
本体重量：33.1t
全備重量：59.4t
ジェネレーター出力：1790kw
スラスター総推力：74600kg
センサー有効半径：10900m

装甲材質：ガンダリウム合金
武装：ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／90mmバルカン砲／[illegible]フェダーイン・ライフル

グリプス戦役時、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社の旧ジオン公国系技術者が開発した機体。第二世代MSの標準仕様と優れた操縦性を併せ持つ。当初はエゥーゴに供給される予定だったが、政治的取引によってティターンズの主力機となり、基本性能の高さから地球連邦軍にも制式採用された。ジオン残党軍でも運用されており、UC.0096のトリントン基地襲撃作戦などで確認されている。

■ **Fedayeen Rifle**




トリントン基地襲撃作戦でジオン残党軍の鹵獲機体が使用した、高出力ビーム砲。本来はRX-110 ガブスレイの標準装備である。

■ 海ヘビ

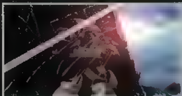
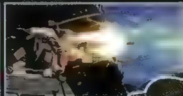


RX-139 ハンブラビの携行兵装。敵MSに巻き付けた後に高圧電流を流し、電子機器とパイロットにダメージを与える。




GALLUSS-K

ガルスK

ビッグ・ガンや3連ミサイル・ポッドなど、他機種用の兵装で火力を増強。基地襲撃時の砲撃支援を行った。



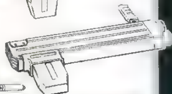

AMX-101K / GALLUSS-K

全高:19.5m
本体重量:52.7t
全備重量:78.3t
ジェネレーター出力:2840kw
スラスター総推力:121900kg
センサー有効半径:11200m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・キャノン/3連ミサイル・ポッド/ビッグ・ガン/ジャイアント・バズ

第一次ネオ・ジオン戦争でネオ・ジオンが開発・投入した地球侵攻用MS、AMX-101ガルスJの改修機で、左肩部にビーム・キャノンを装備した砲戦仕様。固定武装のフィンガーランチャーと連装ミサイルポッドは廃され、通常のマニピュレーターに換装されている。トリントン基地を襲撃したジオン残党軍の機体は、他機種用の装備で火力を増強していた。

■ Big Gun

MS-06K ザク・キャノン用の多連装ロケット弾ポッド。通常は左右一対で腰部背面にマウントされるが、トリントン基地を襲撃した本機は右のみを腕部に装備。

■ Triple Missile Pod

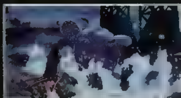


ラッツリバー社製の外付け火器。ディザート・ザクと同様、左腕部にのみ装備する。

■ Beam Cannon



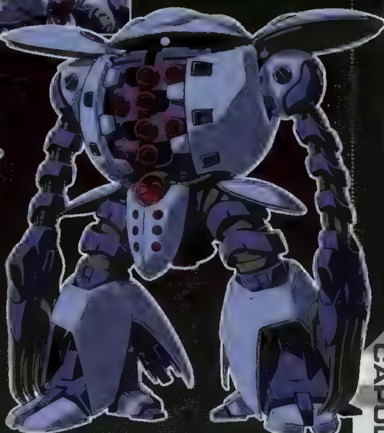
肩部のビーム・キャノンは、AMX-008ガ・ゾウムのハイパー・ナックル・バスターを流用したもの。





ガンダリウム合金製の二重装甲を持つなど、防御面でも秀でていた。





NEO ZEON MASS-PRODUCED AMPHIBIOUS MOBILE SUIT
AMX-109 / CAPULE

全高:16.5m
本体重量:35.7t
全備重量:57.5t
ジェネレーター出力:3660kw
スラスター総推力:6800kg
センサー有効半径:12300m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:アイアン・ネイル/レーザー・ビーム/ソニック・ブラスト/ミサイル

第一次ネオ・ジオン戦争期にアクシズで開発された、水陸両用試作MS。MSM-03ゴッグの設計を発展させた機体で水中潜航時に手足を格納するなど、より水中での運用に特化した機構を備える。海洋での試験データを持たなかった当初こそ信頼性を疑われていたが、後年ジオン残党軍がトリントン襲撃に使用した際にはその実力を存分に発揮している。

■ Iron Nail



ジオン系水陸両用 MS の特徴である格闘兵装。5 本の爪がゴッグの系譜であることを物語る。

■ Laser Beam



頭頂部にある複数のバルジからは、格納式のレーザー砲が展開。

■巡航形態



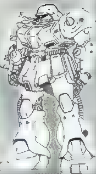
水中潜行時には手足が引き込まれ、胴体と頭部の装甲が閉じる。ほぼ球形となることで水の抵抗を軽減する。



■ MS-06FZ ザクII改

一年戦争におけるザクIIの最終生産型。基本性能が大幅に強化されたほか、使用部品の統一規格化によって整備性と生産性も向上した。





■ MS-06D ザク・デザートタイプ

一年戦争中に開発されたMS-06 ザクIIの砂漠戦仕様機。この機体を戦後に改修したのが、同じ型式番号を持つディザート・ザクである。





■ MS-07C-3 グフ重装型

両手にフィンガー・バルカンを装備したC-1型をベースに、火力と装甲をさらに強化。トリントン基地襲撃には、道に迷って参戦できなかった。

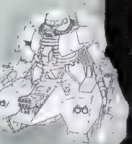




■ MS-06V-6 グリーンマカク

ザクの上半身とマゼラ・アタックの車体を組み合わせた作業用MS、ザクタンクの派生機。密林などでの障害物撤去用にアームが強化されている。





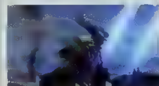
■残党軍の運用機

ジオン残党勢力はMS以外にもファット・アンクルなど、一年戦争時の機体を運用していた。



■ AMX-101 ガルスJ

ガルスKの原型機となる、ネオ・ジオンの白兵戦用MS。トリントンを襲撃した機体は、マラサイ用のビーム・ライフルを装備している。

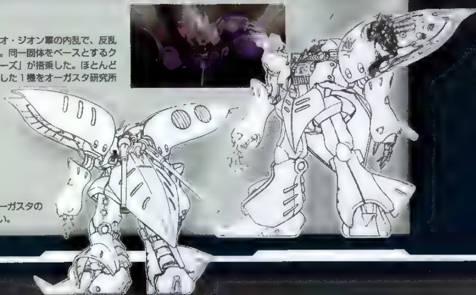




■ AMX-004 量産型キュベレイ

第一次ネオ・ジオン戦争におけるネオ・ジオン軍の内乱で、反乱勢力が使用したニュータイプ用MS。同一固体をベースとするクローン・ニュータイプ「プル・シリーズ」が搭乗した。ほとんどは撃墜されたが、地球連邦軍が破損した1機をオーガスタ研究所に保管していた。





キュベレイ独特の頭部をはじめ、オーガスタの機体は破損したまま修復されていない。



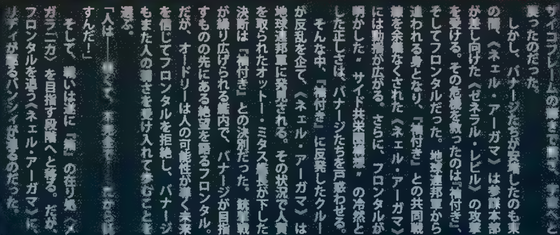
若者たちの決断

超高々度の空に交錯する想い
——そして戦場は再び宇宙へ

黒いユニコーンガンダム——バンシィの出現は、バナージを苦境に追い込んだ。バンシィの攻撃を受けて身柄を拘束されたバナージは、〈ラー・カイラム〉で囚われの身となる。バンシィのパイロットがマリーダと知ってショックを受けながらも、争いを拡大させないために『箱』への新たな座標を秘匿するバナージ。一方、参謀本部とビスト財団に不信感を抱いたロンド・ベル隊司令ブライト・ノアは、〈ガルダ〉に移送されたミネバの救出を〈ガランシェール〉に手引きし、バナージに道を指し示す。

「絶望を退ける勇気を持て、君が——ガンダムのパイロット……ニュータイプであるなら」

〈ガランシェール〉が〈ガルダ〉を強襲した隙を突き、バナージは囲みを突破する。その混乱の中で交錯するバナージとオードリー、マリーダ、リディの想い。そして、オードリーが自らの信念を貫いて空に身を投げたとき、バナージはユニコーンガンダムの力を引き出して彼女を救った。さらに、ジンネマンと共にマリーダをバンシィの呪縛から解放したバナージは、迎えに来た〈ネェル・アーガマ〉と〈ガランシェール〉を



サイコフレームの共振で飛んで、宇宙へと戻ったのだった。

しかし、バナージたちが収容したのも束の間、〈ネェル・アーガマ〉は参謀本部が差し向けた〈ゼネラル・レビル〉の攻撃を受ける。その危機を救ったのは『袖付き』、そしてフロンタルだった。地球連邦軍から追われる身となり、『袖付き』との共同戦線を余儀なくされた〈ネェル・アーガマ〉には動揺が広がる。さらに、フロンタルが明かした〝サイド共栄圏構想〟の冷然とした正しさは、バナージたちを戸惑わせる。

そんな中、『袖付き』に反発したクルーが反乱を企て、〈ネェル・アーガマ〉は地球連邦軍に発見される。その状況で人質を取られたオットー・ミタス艦長が下した決断は『袖付き』との決別だった。銃撃戦が繰り広げられる艦内で、バナージが目指すものの先にある絶望を語るフロンタル。だが、オードリーは人の可能性が導く未来を信じてフロンタルを拒絶し、バナージもまた人の弱さを受け入れて歩むことを選ぶ。

「人は——[illegible]くて、不完全で[illegible]だから[illegible]すんだ!」

そして、戦いは遂に『箱』の在り処〈メガラニカ〉を目指す段階へと移る。だが、フロンタルを追う〈ネェル・アーガマ〉に、リディが駆るバンシィが迫るのだった。

illustration : KONOMU SEKIYAMA

ユニコーンガンダム2号機 バンシィ(ユニコーンモード)

UNICORN GUNDAM 02 (UNICORN MODE)

純白の１号機とは正反対の漆黒のボディカラーを特徴とする２号機バンシィ。『箱』を巡る争乱において、１号機と対峙することとなる。



1号
ドは
状で
は長さの異なる４基のアンテナが連なった形状となっている。

「UC計画」の一環として開発されたRX-0ユニコーンガンダム（1号機）と同時期に製造された2号機。基本設計はほぼ1号機と共通しているが、カラーリングや頭部形状、サイコフレームの発光色などに違いが見られるほか、「La+プログラム」も搭載されていない。また、重力下での運用試験データと1号機のデータを反映したことにより、優れた安定性を有するのも特徴。武装はスタンダードな兵装構成である1号機とは異なり、増加サイコフレーム兵装である2種類のアームド・アーマーを腕部に装備。近・中距離で高い攻撃力を発揮する機体となっていた。パイロットは、マーサ・ビスト・カーバインにより再調整が施された強化人間マリーダ・クルスが務めた。

FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
RX-0 UNICORN GUNDAM 02 BANSHEE(UNICORN MODE)

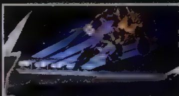
全高:19.7m
本体重量:24.0t
全備重量:46.7t
ジェネレーター出力:3480kW
スラスター総推力:142600kg
センサー有効半径:23500m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／アームド・アーマーBS／アームド・アーマーVN／60mm…

UNICORN GUNDAM 02 (DESTROY MODE)

ユニコーンガンダム2号機 バンシィ(デストロイモード)





ガルダ艦上で1号機と対峙したバンシィは、デストロイモードを発動。1号機のパイロット、バナージ・リンクスに迫った。









額の[illegible]基、そのほか左右に各4対の計9基のアンテナが展開される。1号機と比べて複雑な形状となっている。

1号機に搭載されていたニュータイプ駆逐用のプログラム「NT-D」が搭載されており、バンシィもデストロイモードへの変身が可能となっている。発動時には1号機と同じく全身の装甲がスライドしてサイコフレームが露出するほか、頭部のアンテナもV字型へと変化し、ライオンの鬣を模した形状となった。サイコフレームの発光色は、1号機が赤であるのに対し、本機では金となっているが、特に性能差はない。また、本モード発動時には、増加サイコフレーム兵装である2種のアームド・アーマー（アームド・アーマーVN、アームド・アーマーBS）もその真価を発揮した。

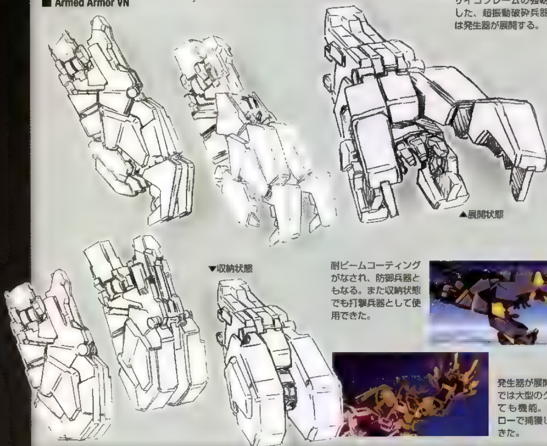
FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
RX-0 UNICORN GUNDAM 02 BANSHEE(DESTROY MODE MODE)

全高:21.7m
本体重量:24.0t
全備重量:46.7t
ジェネレーター出力:計測不能
スラスター総推力:計測不能
センサー有効半径:計測不能

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／[illegible]／
アームド・アーマーBS／アームド・アーマーVN
／60mmバルカン砲

■ **Armed Armor VN**

サイコフレームの強靭性を活かした、超振動破砕兵器。使用時は発生器が展開する。



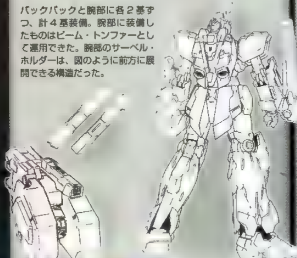
耐ビームコーティングがなされ、防御兵器ともなる。また収納状態でも打撃兵器として使用できた。



発生器が展開した状態では大型のクローとしても機能。対象をクローで捕獲し、粉砕できた。

■ **Beam Saber / Beam Tonfa**

バックパックと腕部に各2基ずつ、計4基装備。腕部に装備したものはビーム・トンファーとして運用できた。腕部のサーベル・ホルダーは、図のように前方に展開できる構造だった。

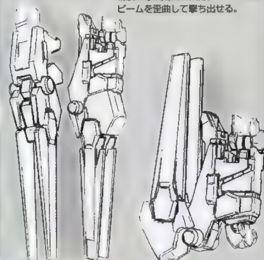




デストロイモード発動時には、背部のサーベル・ホルダーも上部に展開され、スムーズな使用が可能。

■ **Armed Armor BS**

サイコミュと連動した射撃兵器。高精度の予測標準を可能としたほか、ビームを歪曲して撃ち出せる。





パイロットの感応波とビーム偏向器を、サイコミュを介して連動。結果、正確な射撃を実現した。

■ Cockpit



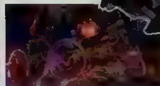
サイコフレームを利用した「インテンション・オートマチック・システム」を採用する。

▲ユニコーンモード

デストロイモードでは、パイロットの感応波を操縦に反映するべく形状が変化する。

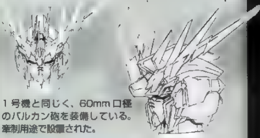


▲デストロイモード



ニュータイプや強化人間の能力を最大限に引き出すことができるシステムだった。

■ 60mm Vulcan Gun

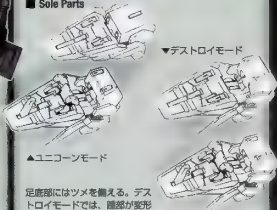


1号機と同じく、60mm口径のバルカン砲を装備している。牽制用途で設置された。



側頭部に2基備えられた射撃兵装で、優れた連射性能を有する実弾兵器だった。

■ Sole Parts



▼デストロイモード

▲ユニコーンモード

足底部にはツメを備える。デストロイモードでは、踵部が変形しているのがわかる。

マリーダとマーサ

MARIDA & MARTHA

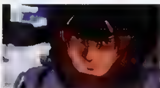
『箱』の保持による既得権益を守ろうとするビスト財団当主代理、マーサ・ビスト・カーバインは、1号機に対抗する戦力としてバンシィを確保する。そのパイロットには、『袖付き』に所属する強化人間で、マーサが再調整を主導したマリーダ・クルスを据えた。マリーダの「マスター」には、マーサの甥であるアルベルトが選ばれた。

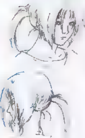


◀マーサ・ビスト・カーバイン

アナハイム・エレクトロニクス社の幹部でもあり、連邦軍をも動かす実力者。







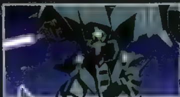


マリーダ・クルス▶

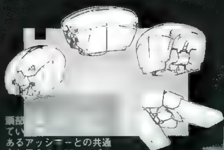
かつては「プル・トゥエルブ」として戦乱に投入されていた強化人間。

アンクシャ

ANKSHA

ガルダ艦上では、ユニコーンガンダムや「袖付き」のギラ・ズールと交戦。高い飛行性能を活かした空中戦で真価を発揮した。



頭部
てい
あるアッシマーとの共通点と言える。60mmバルカン砲を装備している。

グリプス戦役期に投入された可変MA「NRX-044アッシマー」の後継機。アッシマーの特徴であるMA形態での飛行性能を大幅に向上させ、友軍機を搭載しての飛行も可能となった。また、MS形態での戦闘力強化も図られており、ムーバブル・シールド・バインダーへのビーム・ライフル搭載に加え、ビーム・サーベルの装備により格闘戦にも対応している。一方で、連邦軍の主力機であるジェガン系MSとのパーツの共用により、生産性と整備性も向上。これによって生産コストの削減に成功し、複雑な可変機構を持ちながらもコストパフォーマンスに優れる機体として完成した。『袖』を巡る争乱においては、連邦軍の大型輸送機ガルダに複数機が搭載され、直衛を担った。

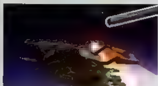
E.F.F. MASS-PRODUCED TRANSFORMABLE MOBILE SUIT
RAS-96 / ANKSHA

全高:22.3m
本体重量:28.3t
全備重量:43.9t
ジェネレーター出力:2200kW
スラスター総推力:79600kg
センサー有効半径:14200m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル/ビーム・ライフル
60mmバルカン砲/
ムーバブル・シールド・バインダー

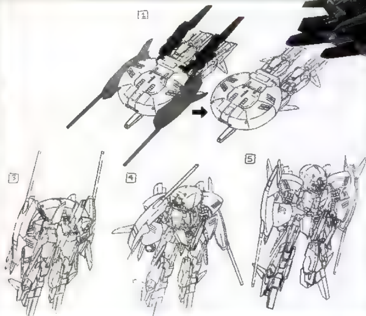
■ MA Mode

円盤型のリフティング・ボディを採用しており、大気圏内での優れた機動性を確保している。機首にはMA形態専用のカメラを装備。

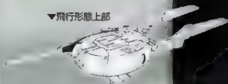


MAの形態での飛行性能は、推力の向上もあって四肢を有する一般的なMSを凌駕した。

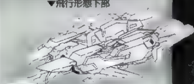
▼変形シークエンス



▼飛行形態上部



▼飛行形態下部

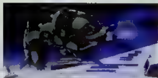


MS形態での上半身が変形し、MA形態での円盤型パーツを形成する。極めて短時間で変形は終了する。

■ Beam Rifle / Movable Shield Binder



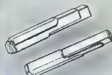
MA形態では両側面にレイアウトされるシールド。先端に備えるビーム・ライフルは、MS形態でも使用ができた。



MS・MA形態という2種の形態を有し、優れた機動性を特徴とする本機にとって攻防の要と言えた。

■ Beam Saber

ビーム・サーベルは膝関節（MA形態ではスタビライザーとして機能）に収納されている。

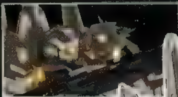




左右それぞれ1本ずつ、計2本を装備。実戦では二刀流で運用されたこともある。

リゼルC型(ゼネラル・レビル配備機)

ReZEL TYPE-C [GR]

ゼネラル・レビル配備機には、推進力の強化などが図られた強化改修機が数多く搭載されており、本仕様もそのうちの1機種であった。



RGZ-95リゼルのバリエーション機で、推力のリミッター上限を排除した強化改修仕様。ウェイブライダーへの変形機構を有しながらも量産化に成功したリゼルは、ロンド・ベルの主力機として運用されることとなった。連邦軍にもリゼルの本格的な配備が開始される中、精鋭部隊用としてC型が実用化。連邦宇宙軍旗艦ゼネラル・レビルにも、専用のカラーリングが施された同タイプが搭載された。また、リゼル用の多彩なバックパックはC型も装備でき、宇宙戦に適した機動用ユニット「ディフェンサーユニット」も使用できた。「箱」を巡る争乱でも、遠距離からの砲撃能力を強化する「ディフェンサーbユニット」を装備したゼネラル・レビル配備機が確認されている。

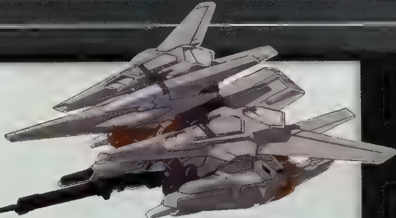
E.F.F. MASS-PRODUCED TRANSFORMABLE MOBILE SUIT
RGZ-95C / ReZEL TYPE-C(GR)

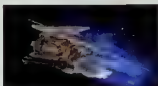
全高:20.5m
本体重量:27.0t
全備重量:60.5t
ジェネレーター出力:2220kW
スラスター総推力:85400kg
センサー有効半径:14920m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル/ロング・ビーム・サーベル/ビーム・ライフル/グレネード・ランチャー/60mmバルカン砲/ビーム・キャノン/シールド

■ WR Mode

優れた機動性を発揮するウェイブライダー形態。リミッターの解除による耐久性の低下を防ぐべく、機体フレームの強化も図られた。





リミッター解除による恩恵は、ウェイブライダー形態での機動性向上に繋がったと言える。

■ Beam Cannon

主に左腕部に装備されているシールド。内側にビーム・キャノンが装備されていた。





威力よりも取り回しを重視した射撃兵器で、敵機の接近などに素早く対応することができた。

■ Beam Rifle



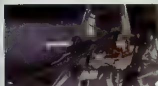
リゼル（一般機）と同仕様のビーム・ライフル。ウェイブライダー形態では機首に装着された。



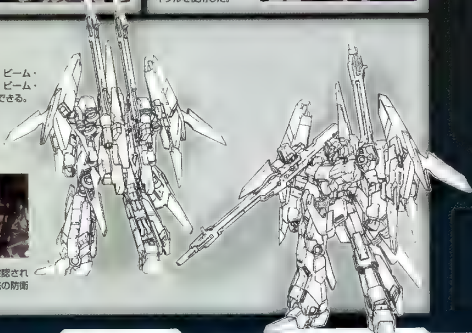
一般機をベースとして改良が施されたため、基本装備としてはビーム・ライフルを使用した。

■ DEFENSER b-UNIT

ジェネレーターの増強により、ビーム・キャノン内蔵シールドとメガ・ビーム・ランチャーを最大2基ずつ装備できる。



ゼネラル・レビル配備機にも確認されており、遠距離からの狙撃や艦の防衛を担った。

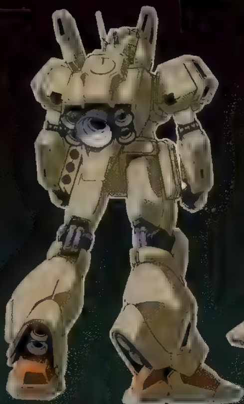


ジェガンA2型（ゼネラル・レビル配備機）

JEGAN TYPE-A2 (GR)




ゼネラル・レビルに配備されていた。改修による性能向上を果たしたが「袖付き」のMSには太刀打ちできなかった。




E.F.S.F. MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
RGM-89A2 / JEGAN TYPE-A2(GR)

全高：19.0m
本体重量：24.2t
全備重量：50.6t
ジェネレーター出力：[illegible]
スラスター総推力：[illegible]
センサー有効半径：16300m

装甲材質：チタン合金セラミック複合材
武装：ビーム・サーベル／ビーム・ライフル
バルカン・ポッド・システム／[illegible]

UC0096、連邦軍の主力機として運用されていたRGM-89ジェガンのバリエーション機。初期型をベースにした性能強化タイプで、バックパックや脚部をはじめ、機体各部に備えられた推進機関の大幅な増強が図られている。また、頭部バルカンはセンサーユニット付きのものに換装されたほか、新たにミサイル・ランチャーを内蔵した専用の大型シールドを装備し、戦闘力も向上した。ライトブラウンカラーの機体が、連邦宇宙軍の旗艦ゼネラル・レビルにリゼルC型などと共に配備され、『箱』を巡る争乱に参加した。

■ Shield

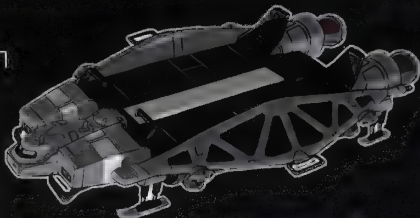
4連ミサイル・ランチャーを左右に2基搭載した大型シールド。上半身を覆うほどのサイズである。

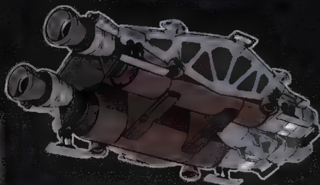




E.F.S.F. SUB FLIGHT SYSTEM TYPE89 BASE JABBER

ゼネラル・レビルに搭載されていた宇宙用SFS（サブ・フライト・システム）。大出力ブースターを搭載しており、MSを2機同時に搭載し、輸送することが可能となっていた。また、MSの搭載数は1機となるものの、機体下部にブースターを増設することができ、航続距離の延長も可能。基本的にMS側から操作する無人機であるが、専用の操縦室も設置されている。



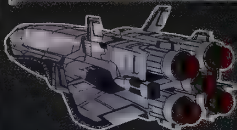


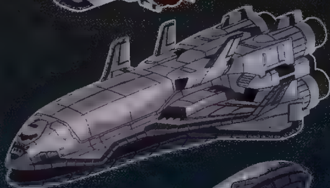


ゼネラル・レビルに搭載された機体は、ジェガンA2型などによって運用された。

E.F.S.F. SHUTTLE

MS1機を機体内部に格納することができるスペースシャトルで、格納部分はバンシィの輸送に合わせた調整が施されていた。発射台を利用して打ち上げられるタイプで、大気圏離脱後、後方に備えられた大型ブースターはパージされる構造となっていた。バンシィとそのパイロットであるリディ・マーセナスを宇宙に送るために使用された。









機首部分にあるコックピットの後ろは、MS1機を搭載できる格納スペースであった。

GARUDA / GENERAL REVIL

E.F.S.F.
GARUDA





連邦軍が運用した超大型輸送機で、ガルダ級に分類される。グリプス戦役期に立案された輸送機による地球防空構想「ガルダ構想」の中から生まれた艦で、全長は317mとそのサイズは史上最大クラス。当初は輸送機としての機能を優先していたが、幾度となく改修が行われた結果、UC0096に運用された際にはメガ粒子砲やミサイルを多数備え、高い戦闘力を有した。



その艦上で、ユニコーンガンダムとバンシィが激しい戦いを繰り広げた。

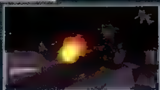


E.F.S.F.
GENERAL REVIL

ドゴス・ギア級の二番艦で、「ジオンに兵なし」の名演説で知られる連邦軍のレビル将軍を艦名とする超大型戦艦。全長630mというサイズに4基のカタパルトを有し、格納庫には最大で48機のMSを収容する能力を持つ。「連邦軍再編計画」を象徴する旗艦として建造され、リゼルC型、ジェガンA2型など高性能機が配備されている点も特徴であった。



ビスト財団が連邦軍に依頼し、ネェル・アーガマの鹵獲または撃沈のために運用された。



「袖付き」の襲撃を受けた際に艦載MSの多くを撃墜され、撤退を強いられた。

KSHATRIYA BESSERUNG





「袖付き」とネェル・アーガマの共闘が終了した後、マリーダが搭乗。当初は「袖付き」に帰順したが、後にネェル・アーガマも支援した。



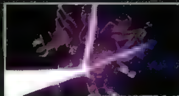
装甲も完全に修復されておらず、内部が剥き出しの状態。モノアイには連邦軍のパーツが使われた。

クシャトリヤ・ベッセルング

「パラオ攻略戦」時に中破したクシャトリヤの臨時補修機。「パラオ攻略戦」後、機体はロンド・ベル所属のネェル・アーガマによって回収されており、格納庫内に放置されていた。だが、「袖付き」とネェル・アーガマが一時的に共闘を図った際、ネェル・アーガマに乗り込んだ「袖付き」兵が機体を発見し、連邦軍のパーツを流用し補修作業が行った。だが、主武装のファンネルは失われていたほか、バインダーやサブ・アームも欠損がある状態で、改修型というにはあまりに不完全であった。

NEO ZEON MOBILE SUIT CUSTOMIZED FOR NEWTYPE
NZ-666 KSHATRIYA BESSERUNG

本体重量：—
全備重量：—
ジェネレーター出力：—
スラスター総推力：—
センサー有効半径：—
武装：—




アンジェロはギラ・ズールから本機に乗り換え、フル・フロンタル搭乗のシナンジュと共にゼネラル・レビル所属機を次々と撃破した。



ROZEN ZULU

NEO ZEON HYBRID PSYCOMMU MOBILE SUIT
YAMS-132 / ROZEN ZULU

全高:2[illegible].5m
本体重量:25.8t
全備重量:72.6t
ジェネレーター出力:4950kW
スラスター総推力:257200kg
センサー有効半径:18200m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材＋一部ガンダリウム合金
武装:インコム／3連装メガ粒子砲／サイコ・ジャマー／メガ粒子砲／Iフィールド・ジェネレーター／シールド

フル・フロンタル親衛隊隊長、アンジェロ・ザウバーの専用機。AMS-129ギラ・ズールの基本フレームをベースに開発されたサイコミュ搭載型の機体で、コックピットの周辺にサイコフレームが使用されている。そのコンセプトは、U.C.0088にネオ・ジオンが投入したサイコミュ搭載機、AMX-103ハンマ・ハンマに近く、アンジェロのような非ニュータイプのパイロットでも両腕に備えられた有線式誘導兵器「インコム」によるオールレンジ攻撃が可能となっている。インコムは先端に3連装のメガ粒子砲とクローを装備しており、片腕につき3基備えられた中継パーツを使うことで、方向転換を可能とし、擬似的なオールレンジ攻撃を可能とした。

■ Heel

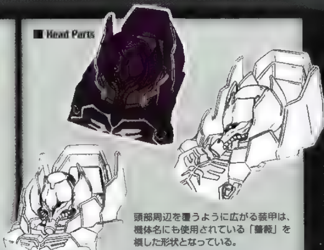
爪先と完全に分離している踵は細長く、ヒールが高くなっている点が構造上の特徴となっている。





特殊な形状の足部だが、接地時の安定性は高かった。歩行性能にも問題はなかったようだ。

■ Head Parts



頭部周辺を覆うように広がる装甲は、機体名にも使用されている「薔薇」を模した形状となっている。



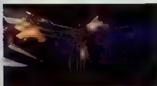
ベース機であるギラ・ズールと基本構造は共通だが、「口」の部分がより前方に突き出ている。

■ Incom Unit

先端部に３連装のメガ粒子砲とクローを搭載した準サイコミュ兵器。中継パーツ（ウェイト）を用いた方向転換が可能となっている。

▼中継パーツ



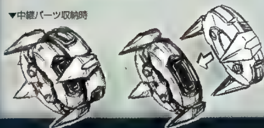


ワイヤーが通された中継パーツが１ユニットに付き３基存在し、その数だけ方向転換ができる。



両腕のインコムを一斉に射出することで、単機で複数の敵を撃破することができた。

▼中継パーツ収納時





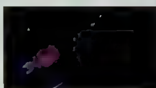
射出しない状態での射撃も可能。クローも備えることから格闘戦にも対応した。

■ Psycho Jammer

対ユニコーンガンダム用に開発された特殊兵器で、サイコミュによって作動する兵器を妨害する機能を持つ。



コンテナ内部に搭載された小型デバイス。薔薇を模した形状で、使用時には花弁状のパーツが展開する。



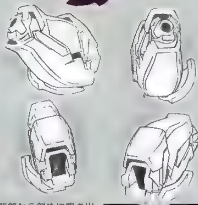


複数基のサイコ・ジャマーから妨害波を発してユニコーンガンダムを包囲し、サイコミュ[illegible]

■ Binder

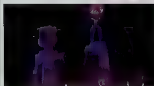


背部に２基搭載されたコンテナ。サイコミュ用の特殊兵装「サイコ・ジャマー」が収納されている。



背部から斜めに突き出るようにしてレイアウトされた。サイコ・ジャマーの運用のために開発された。



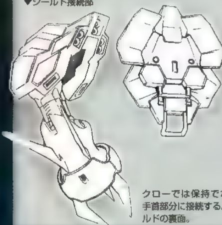


背部コンテナは上下にパーツが展開される構造で、内部からサイコ・ジャマーを射出できた。

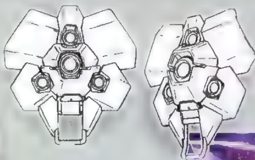
■ Shild

中央部にIフィールド・ジェネレーターを、その周囲に３基のメガ粒子砲を搭載する。メガ粒子砲は拡散照射も可能。

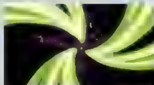
▼シールド接続部



クローでは保持できないため、手首部分に接続する。上はシールドの裏面。



材質はガンダリウム合金で、装甲防御力も高かった。



インコムに内蔵したメガ粒子砲との組み合わせで、極めて高い攻撃力を発揮した。

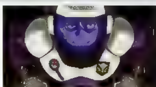
■現地改修仕様

ネェル・アーガマ艦内での戦闘でダメージを負った機体を、現地で緊急補修した状態。失った右インコムの先端にシールドが設置された。

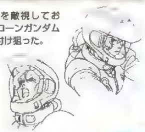




「箱」を巡る最終決戦はこの形態で出撃。シールド付きインコムによるオールレンジ攻撃を見せた。

バナージを敵視しており、ユニコーンガンダムを執拗に付け狙った。

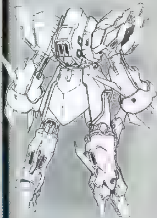


アンジェロ・ザウパー

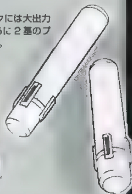
フル・フロンタル親衛隊隊長を務める人物。幼少時に暮らしていた劣悪な環境下から救い出してくれたフロンタルに絶対的な忠誠を誓っている。ニュータイプ能力は持たないものの、パイロットとしては非常に優秀であり、高い空間認識能力が必要とされる準サイコミュ兵器「インコム」を巧みにコントロールした。

■ Propellant Tank

背部中央の本体一体型バックパックには大出力スラスターが搭載されており、さらに2基のプロペラント・タンクを搭載していた。



▲プロペラント・オミット時




▼ジョイントパーツ



コンテナやインコムの装備により機体重量も増加したため、推進剤も大量に必要になった。

虹の彼方に続く道



『箱』を巡る争いの終焉に バナージが示した人の可能性

『箱』を巡る争いが最終局面を迎えた時、地球連邦政府とビスト財団は『箱』そのものの隠滅を図り、コロニーレーザーで、〈メガラニカ〉を破壊しようとした。その危機を知る由もなく、〈ネェル・アーガマ〉は激戦を繰り広げ、バナージもリディと銃火を交える。『箱』の秘密を抱えるマーセナス家の一族として、事の端緒となったビスト家の血を継ぐバナージに強い敵意を向けるリディ。バナージの制止の声もリディには届かず、〈ネェル・アーガマ〉は追い詰められていく。その戦況を打開すべく、リディと相対するマリーダ。だが、ニュータイプを忌避しながら自身もそのニュータイプであることに気付いたリディは、自らの内に流れ込む人の想いに戸惑い、錯乱の中でマリーダの命を奪ってしまう。しかし、マリーダの最期の命の輝きは、人々にそれぞれのメッセージを残すのだった。

マリーダの死から間もなく攻防は収束し、バナージはオードリーと共に〈メガラニカ〉に踏み入る。そこでふたりを待っていたのは、ビスト財団宗主サイアム・ビストと、失われたはずの「真の宇宙世紀憲章」の石碑――『ラプラスの箱』だった。宇宙に進出した新人類の発生を示唆する条文。それ



こそが『箱』の呪いであり、100年前に込められた祈りだったのである。それを託す相手として、ユニコーンガンダムが導く真のニュータイプを待ったサイアム。その眼前に立ったバナージは、戦いの中で触れてきた人の想いを受け止め、自らの望みを語る。

「人を……人の持つ可能性を――それは信じたい！」

だが、フロンタルはバナージの言葉を否定し、『箱』を奪おうとする。自分を取り戻したリディと共に、フロンタルのネオ・ジオングに立ち向かうバナージ。その戦いの先に刻の果ての虚無を突きつけられても、バナージは諦めなかった。そして、フロンタルに人の心の暖かさを示し、彼の歪んだ想念から解き放つのだった。

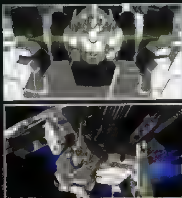
同じ頃、〈メガラニカ〉に向けてコロニーレーザーが発射されようとしていた。バナージはそれをサイコフィールドで防ごうとし、リディもバナージに続く。ふたりの想いはガンダムの力を引き出してコロニーレーザーを受け止め、バナージはその光の中でマリーダの声を聞く。

「この虹の彼方に道は続いている――」

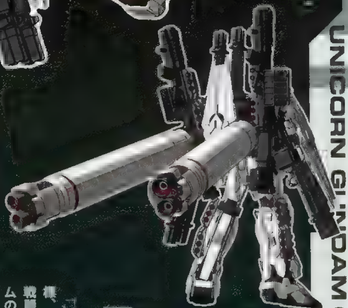
そして、地球圏にオードリーの演説が響く。『箱』の呪いを祈りへと立ち戻らせるために、人の可能性を説く言葉が……。

Illustration : TAKUYA IO

フルアーマー・ユニコーンガンダム[ユニコーンモード] UNICORN GUNDAM (UNICORN MODE)



最終決戦においてネェル・アーガマは、本機を前面に展開し敵部隊の突破を図った。



FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
RX-0 FULL ARMOR UNICORN GUNDAM(UNICORN MODE)

全高:19.7m
本体重量:45.1t
全備重量:76.9t
ジェネレーター出力:3480kW
スラスター総推力:189700kg
センサー有効半径:22000m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル／ビーム・マグナム／60mmバルカン砲／ハイパー・バズーカ／シールド／ビーム・ガトリングガン／グレネード・ランチャー／対艦ミサイル・ランチャー／ハンド・グレネード

「[illegible]プログラム」が示した最終座標、〈インダストリアル7〉宙域での戦闘に投入されたユニコーンガンダムの最終決戦仕様。ネェル・アーガマに残されていた機材を流用して機体各所に武器を増設、攻撃力の増強を図っている。また、背部に94式ベースジャバーのブースター・ユニットを取り付けることで、機体重量の増加による機動力の低下を最小限に抑えている。

本仕様は制式なものではなく、バナージの友人であるタクヤ・イレイのアイデアを元にAE社のアーロン・テルツェフが調整と改修を行ったもので、現地改修機に近い仕様と言える。

UNICORN GUNDAM (DESTROY MODE)



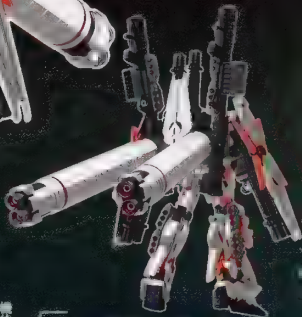


ビーム・マグナムやビーム・サーベルなども装備。それらを駆使して「袖付き」などとの戦闘を繰り広げた。

フルアーマー・ユニコーンガンダム[デストロイモード]

機体各所の武装は、デストロイモードへの変身に干渉しないよう取り付けられている。主兵装は3基のビーム・ガトリングガンで、背部にハイパー・バズーカにはミサイル・ランチャーを、脚部にはハンド・グレネードを装備している。これらの兵装とブースター・ユニットは使用後にパージが可能で、デッドウェイトとなることはない。また、攻撃力だけではなく、3枚シールドを装備することで、防御面での強化も果たしている。

元々の運用法とは異なる状況で戦場に投入されていたユニコーンガンダムだが、これらの装備により、高度な継戦能力を獲得することとなった。



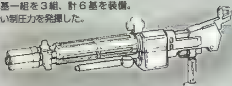
FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
RX-0 FULL ARMOR UNICORN GUNDAM(DESTROY MODE)

全高:21.7m
本体重量:45.1t
全備重量:76.9t
ジェネレーター出力:計測不能
スラスター総推力:計測不能
センサー有効半径:計測不能

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・サーベル/ビーム・トンファー/ビーム・マグナム/60mmバルカン砲/ハイパー・バズーカ/シールド/ビーム・ガトリングガン/グレネード・ランチャー/対艦ミサイル・ランチャー/ハンド・グレネード

■ Beam Gatling Gun

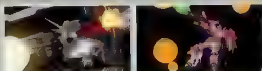
2基一組を3組、計6基を装備。
高い制圧力を発揮した。



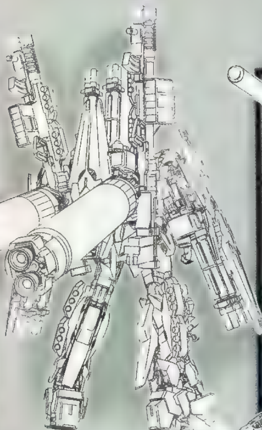
■ Hyper Bazooka

砲身もウェポン・ラックとして利用。
攻撃力の増強を図っている。



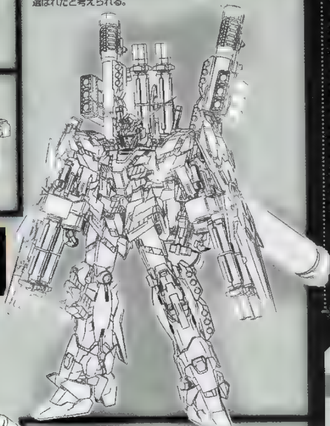


ビーム・ガトリングガンをはじめ、機体各所に備えたミサイルなどによって、単機でも極めて高い制圧力を発揮した。

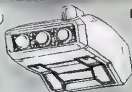


Weapons Layout

背部や腕部、脚部を中心に各種武装が取り付けられている。デストロイモードへの変身時に複雑な形状の変化が見られない部位が選ばれたと考えられる。



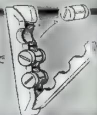
■ Antiship Missile Launcher



スタークジェガン用の武装を流用。ハイパー・バズーカに取り付けて運用した。

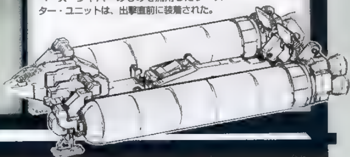
■ Grenade Launcher

ハイパー・バズーカと脚部に装備。投擲ではなく、ミサイルと同じく射出して使用。



■ Base Jabber (Type94)

ベース・ジャバーのものを流用したブースター・ユニットは、出撃直前に装着された。



■ Shield Gatling Gun

シールドの裏にガトリングを装着した兵装。本体とシールドのサイコフレームの共振により、シールド・ファンネルとしても機能した。









3基のシールドが独自に展開し、オールレンジ兵器として運用された。



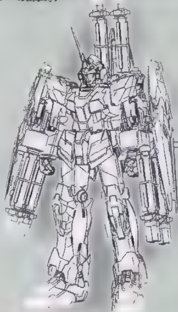


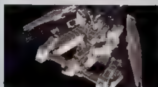


バナージ・リンクス

『ラプラスの箱』を巡る争乱を通じ、バナージは各勢力の人々の想いと哀しみを目の当たりにする。それでも彼は人の可能性を信じ、『箱』の真実と対峙する。そして最後の戦いの中で彼は、ニュータイプという存在にひとつの答えを見出すのだった。

<メガラニカ>への出撃時▶





一連の戦闘でハイパー・バズーカなどは使用しており、限られた装備で<メガラニカ>に突入した。

バンシィ・ノルン（ユニコーンモード）

BANSHEE NORN [UNICORN MODE]



地球からシャトルで宇宙へと打ち上げられた。ネェル・アーガマ追撃戦ではユニコーンガンダムと刃を交えた。

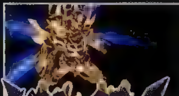
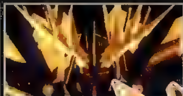
ユニコーンガンダム2号機であるバンシィに、本来予定されていた強化改修を施した仕様。重力下試験をはじめとする各種調整で得られたデータなどを元に、シールドにアームド・アーマーDEを、背部にアームド・アーマーXCを増設することで、機動力をはじめとする総合性能の向上が図られた。主兵装はビーム・マグナムだが、銃身下部にリボルビング・ランチャーが取り付けられた。本兵装はカートリッジ式で、瞬光式徹甲榴弾やビーム・ジュッテなどを搭載した多機能兵装である。また、シールドにアームド・アーマーDEを、背部にはアームド・アーマーXCを装備。特にアームド・アーマーDEはメガ・キャノンとブースターで構成された複合兵装である。

FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
RX-0[N] UNICORN GUNDAM 02 BANSHEE NORN(UNICORN MODE)

全高：19.7m
本体重量：27.3t
全備重量：48.8t
ジェネレーター出力：4520kW
スラスター総推力：145360kg
センサー有効半径：22600m

装甲材質：ガンダリウム合金
武装：ビーム・サーベル×4／ビーム・マグナム／リボルビング・ランチャー／ビーム・ジュッテ／ダップ・ミサイル／MGaP／60mmバルカン砲／シールド×2／アームド・アーマーDE／メガ・キャノン／アームド・アーマーXC

BANSHEE NORN [DESTROY MODE]

アームド・アーマーXCの装備により、サイコフレームの搭載量が増加。リディ少尉でもデストロイモードの発動が可能となった。




バンシィ・ノルン(デストロイモード)

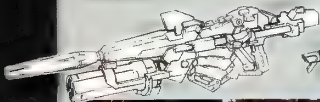
パイロットと機体の親和性の強化も、バンシィ・ノルンへの改修目的のひとつであった。それを達成するための装備が、背部に増設されたアームド・アーマーXCである。本装備とブレードアンテナの機能拡張によって感応波の送受信能力が拡大、これにより非ニュータイプパイロットであっても機体の性能を引き出せた。これはリディ少尉がデストロイモードを発動させ、ユニコーンガンダムと互角の戦闘を繰り広げたことからも明らかである。また、バンシィ・ノルンのこうした仕様は、地球連邦軍が『UC計画』で掲げたニュータイプ神話の崩壊の一端を担うものと言える。

FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
UNICORN GUNDAM 02 BANSHEE NORN(UNICORN MODE)

全高:21.7m
本体重量:27.3t
全備重量:48.8t
ジェネレーター出力:計測不能
スラスター総推力:計測不能
センサー有効半径:計測不能
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:アームド・アーマーDE／アームド・アーマーXC／ビーム・サーベル／ビーム・マグナム／リボルビング・ランチャー／ビーム・ジュッテ／ポップ・ミサイル／MGaAP／60mmバルカン砲／メガ・キャノン／シールド

■ Beam Magnum & Revolving Launcher

RX-0シリーズ共通のビーム・マグナムに加え、バンシィ・ノルンでは銃身下部にリボルビング・ランチャーを備える。この兵装は4つの砲口のそれぞれに異なる武装を内蔵しており、高い運用柔軟性を誇る。







▲MGaAP弾



▲ポップ・ミサイル

▲ビーム・ジュッテ



▲ビーム・ジュッテ展開状態





回転式カートリッジ状の兵装で、ウェポンセレクターで使用する兵器を選択する。

■ Armed Armor DE

シールドに装着する増加兵装で、ブースターとメガ・キャノンで構成される。ブースターは上部に4ヵ所、下部に2ヵ所を備える。メガ・キャノンは先端部に発射口が位置する。

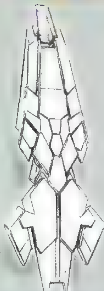


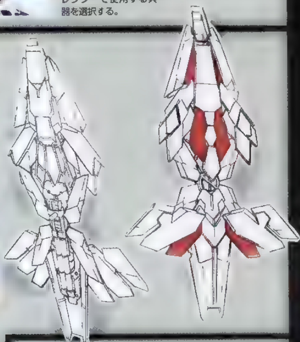
メガ・キャノンは連射が可能。背部に装着した状態でも使用できる。



ブースターとして使用する際は背部に取り付ける。これにより高機動MSに匹敵する機動性を発揮する。



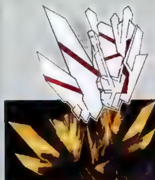




■ Armed Armor XC

バックパックに設置されたアームド・アーマー。ジェネレーターの出力強化に加え、デストロイモード発動時にブレードアンテナと連動して展開する。感応波の送受信能力が大幅に強化される。





サイコフレームの増設のほか、ジェネレーターの出力強化ユニットを兼ねる。

■クシャトリヤ・リペアード戦でダメージを受けた状態

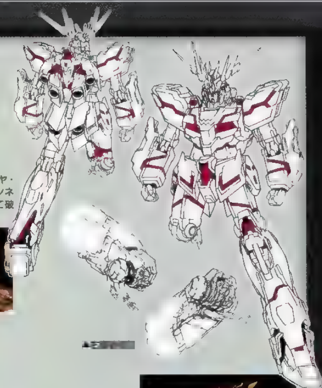
ネェル・アーガマ追撃戦におけるクシャトリヤ・リペアード、そして<インダストリアル７>でのネオ・ジオングとの戦闘で、バンシィ・ノルンは各部にダメージを被っている。しかし、修復されずに戦闘を継続している。

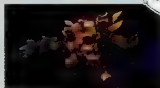


右脚はクシャトリヤ・リペアードのフェンネルミサイルを受けて破壊された。



頭部はバルカン砲が失われた。ネオ・ジオングのサイコシャードによるものである。





頭部は両側頭部のバルカン砲を失っている。センサー性能に影響はなかったようだ。



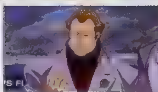






リディ・マーセナス
RIDDHE MARCENAS

バンシィ・ノルンのパイロットは、マリーダ・クルスに代わってリディ・マーセナス少尉が務めた。ニュータイプ能力は持たないが、バナージへの激しい憎悪からデストロイモードを発動させる。しかし、正気を取り戻した彼は、バナージと共にコロニー・レーザーから〈メガラニカ〉を守った。







アルベルト・ビスト
ALBERTO VISI

リディをバンシィ・ノルンのパイロットとしたAE社の幹部。当初はネェル・アーガマに乗り込んでいたが、後に下船。その後、捕虜となり再調整されたマリーダの「マスター」となる。マリーダに対して複雑な想いを抱いており、バンシィのパイロットとなった彼女の身を案じた。

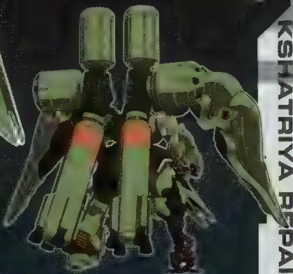


バインダーとブースターで、高い機動性は保たれていた。残った2枚のバインダーのメガ粒子砲は使用可能な状態であった。



頭部の装甲も、連邦軍製MSのものを用いて修復されている。





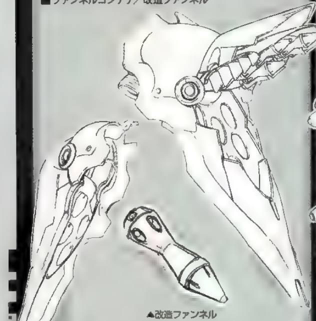
KSHATRIYA REPAIRED

クシャトリヤ・ベッセルングに改修を施した機体。改修はネェル・アーガマのクルーが行った。喪失した2枚のバインダーの代わりに2基の大型プロペラント・ブースター（クラーケ・ズールも同様のブースターを装備する）を装着することで、機動性を確保している。また、主兵装であったファンネルは、先端にシュツルム・ファウストの弾頭を搭載したものに改装されている。これに伴い、バインダーも改造ファンネルの格納に適したものとなっている。改修用のパーツは連邦軍製MSのものが使用されており、決してバランスが取れた機体とは言えないが、機動性や攻撃力は原型機と同等かそれ以上であり、バンシィ・ノルンとの戦闘でそれを証明している。

NEO ZEON MOBILE SUIT CUSTOMIZED FOR [illegible]
NZ-666 / KSHATRIYA REPAIRED

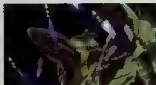
全高：22.3m
本体重量：27.9t／全備重量：[illegible]
ジェネレーター出力：9924kW
スラスター総推力：196680kg
センサー有効半径：17800m
装甲材質：ガンダリウム合金[illegible]合金セラミック複合材
武装：改造ファンネル／メガ粒子砲／ビーム・ガトリングガン／ビーム・ガン／マシン・キャノン／3連装シュツルム・ファウスト／ビーム・サーベル／ハイパー・ビーム・[illegible]／Iフィールド・ジェネレーター[illegible]

■ファンネルコンテナ／改造ファンネル



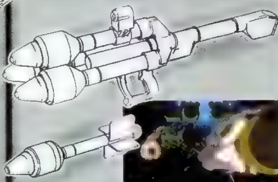
▲改造ファンネル

バインダーの内部のファンネルコンテナは使用されず、改造ファンネル用の専用のラックが設けられた。改造ファンネルはバインダー１枚につき６基、計12基を搭載する。



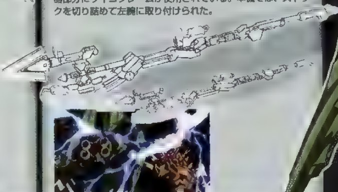
■ Triple Sturm Faust

３つの弾頭を備えたシュツルム・ファウスト。ストックや照準器を備えており、通常のものより射撃精度が向上している。

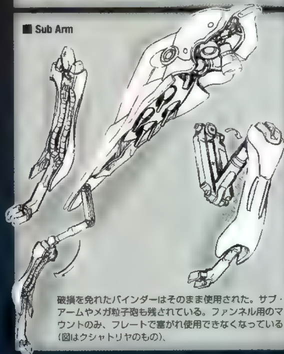


■ Hyper Beam Javelin

ユニコーンガンダム用の格闘兵装のプロトタイプ。ビーム発振器部分にサイコフレームが使用されている。本機では、ストックを切り詰めて左腕に取り付けられた。



■ Sub Arm



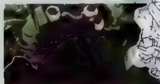
破損を免れたバインダーはそのまま使用された。サブ・アームやメガ粒子砲も残されている。ファンネル用のマウントのみ、プレートで塞がれ使用できなくなっている（図はクシャトリヤのもの）。

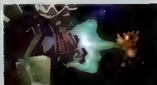
■ Leg

右脚の膝から下はフレームだけが残され、内部にはビーム・ガトリングガンが搭載された。グリップを備えており、射撃時はそれを掴んで使用する。



脚部のサイズに合わせるため、ビーム・ガトリングガンは銃尾がカットされている。センサー類は残された。

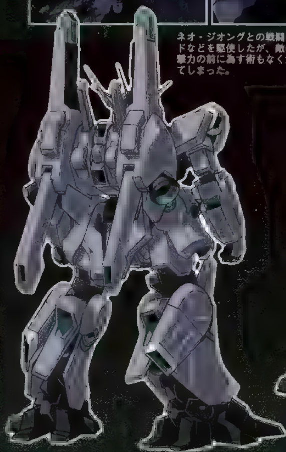




射撃時には脚部を目標に向けなければならないため、使い勝手がいいとは言い難かった




ネオ・ジオングとの戦闘では有線ハンドなどを駆使したが、敵の圧倒的な攻撃力の前に為す術もなく大破させられてしまった。




SILVER BULLET

E.F.S.F. QUASI PSYCOMMU MOBILE SUIT TESTTYPE
ARX-014 / SILVER BULLET

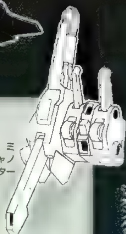
全高:22.2m
本体重量:33.5t 全備重量:70.5t
ジェネレーター出力:5250kW
スラスター総推力:87300kg
センサー有効半径:13500m

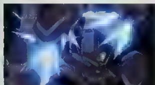
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲／ビーム・ライフル／インコム／有線式ハンド／ビーム・キャノン／ビーム・ランチャー／ビーム・サーベル／シールド

第一次ネオ・ジオン戦争に投入されたネオ・ジオンの量産MS、AMX-104ドーベン・ウルフを地球連邦軍が接収、改修した機体。準サイコミュ・システムの研究を目的としていた。頭部は原型機から変更されており、ガンダム・タイプのほか、ジム・タイプもあった。改修された機体の一部はビスト財団へと引き渡され、RX-0ユニコーンガンダムの模擬戦に使用されたほか〈メガラニカ〉内でのNZ-999ネオ・ジオングと交戦している。

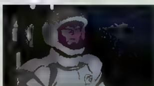
■ Back Pack

バックパックには可動式のバインダーやインコム、ミサイルを装備。バインダーの先端にはビーム・キャノンを備え、火力を補った。また、バインダーはスラスターを備え、主推進器としても機能した。





ネオ・ジオングとの戦闘では、有線式ハンドやインコムなどを駆使したが、その戦力差は歴然としていた。



この戦闘では元地球連邦軍パイロットで、サイアムの護衛でもあったガヤル・チャンがパイロットを務めた。

JEGAN(ECOAS (TYPE / CONROY USE)

ジェガン(エコーズ仕様・コンロイ機)



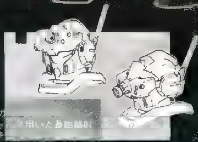

ネェル・アーガマからの砲撃を行った後に、艦の直援に就いた。また、艦上でAMX-101E シュツルム・ガルスと格闘戦を演じた。




E.F.S.F. SPECIAL OPERATIONS MOBILE SUIT
RGM-89De / JEGAN(ECOAS TYPE/CONROY USE)

全高:13.0m
本体重量:23.0t　全備重量:49.7t
ジェネレーター出力:1870kw
スラスター総推力:62000kg
センサー有効半径:24800m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
[illegible]

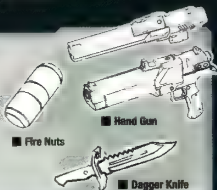


メガ[illegible]チャ[illegible]を用いた長距離射[illegible]撃を[illegible]ニットを廃した仕様。狙撃時にはカメラが前方に展開する。

RGM-89ジェガンD型のバリエーション。エコーズでの使用にあたり、センサー類の追加や胸部装甲の増設が行われている。その中でも本機は、エコーズ920部隊のコンロイ・ハーゲンセン少尉用の機体で、一般的なエコーズ仕様機とは頭部バイザー・ユニットの仕様や一部武装が異なっている。本機はネェル・アーガマの艦上に設置されたメガ・バズーカ・ランチャーの運用を行った他、艦の防衛などを行っている。

Weapons

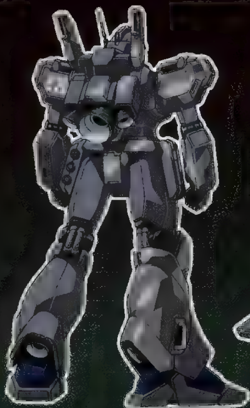
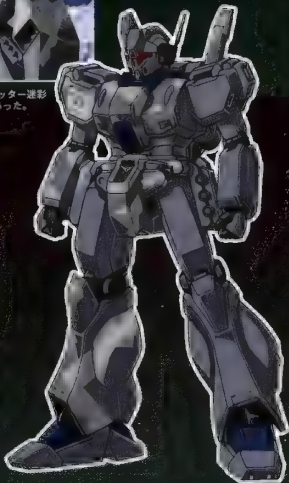
ハンド・ガンやダガー・ナイフ、ファイア・ナッツといった近接専用の武器を装備する。ファイア・ナッツはグレネードの一種で、コンロイ機のみが装備した。



ジェガン(スプリッド迷彩仕様)




シャイアン基地の防衛用として多数が配備されていた。スプリッター迷彩は対象のシルエットを判別しにくくするため、MSにも有効であった。

JEGAN

E.F.S.F. MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
RGM-89D / JEGAN

全高:19.0m
本体重量:21.3t 全備重量:47.3t
ジェネレーター出力:1870kW
スラスター総推力:62000kg
センサー有効半径:16800m

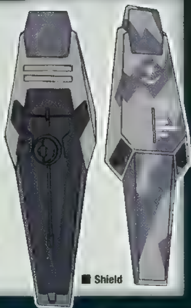
装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・ライフル/バルカン・ポッド・システム/ハンド・グレネード/ビーム・サーベル/シールド

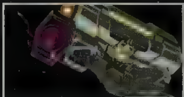
RGM-89D ジェガンD型のカラーバリエーション。地上での運用にあたってグレーを主体とした塗装が施され、白のラインが入れられている。これは「スプリッター迷彩」と呼ばれるもので、元は航空機や艦艇に多く見られたが、その有効性が認められMSにも採用されたと考えられる。本機は北米シャイアン基地に配備されていた機体が知られる。またメインセンサーが赤い点も特徴と言える。

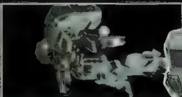
Weapons

シールドは迷彩こそ施されているが他のジェガンと同じものを装備。ビーム・ライフルはRMS-108マラサイなど、かつてティターンズのMSが使用していたものを使用している。


■ Beam Rifle


■ Shield





ネェル・アーガマにも配備されており、「ラプラスの箱」を巡る争乱の最終局面において、「袖付き」艦隊の位置を母艦に伝えている。



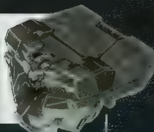


E.F.S.F. MOBILE SUIT RECONNAISSANCE TYPE
RGM-89DEW / EWAC JEGAN

全高：19.0m
本体重量：24.4t
全備重量：45.5t
ジェネレーター出力：1870kW
スラスター総推力：62000kg
センサー有効半径：38400m

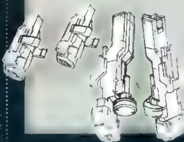
装甲材質：チタン合金セラミック複合材
武装：ビーム・ライフル／ハンド・グレネード／ビーム・サーベル

ジェガンのバリエーションのひとつで、索敵・観測用の機器を装備した偵察用MS。頭部に大型センサー・ユニットを装備したほか、胸部にはカメラ・ユニットやセンサー・ユニットを搭載する。これらの機器で収集したデータを味方部隊に送るためのレーザー通信装置も備えるなど、部隊にはなくてはならない存在であった。ネェル・アーガマにも配備されており、敵艦隊への砲撃指示などの任務にあたった。



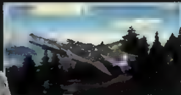
ジェ
れた
ニッ
前腕
ニッ
ラ・
な索
た。なお、レーザー通信機器は、センサー・ユニットに併設されていた。

■ Camera & Sensor UNIT

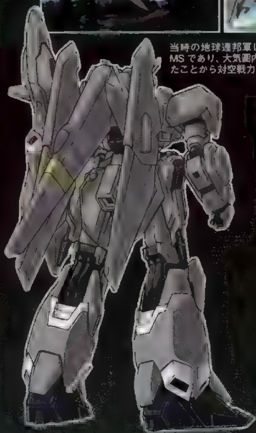
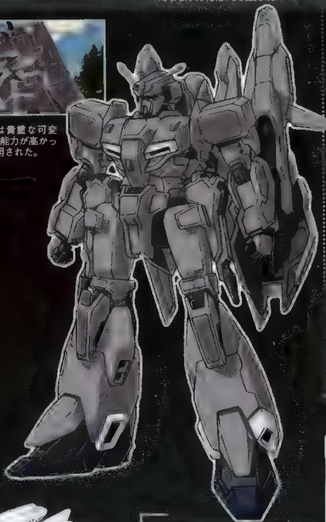




単艦運用が基本となるネェル・アーガマにとって、偵察や電子戦を担うMSの存在は極めて有用であった。




当時の地球連邦軍においては貴重な可変MSであり、大気圏内での運用能力が高かったことから対空戦力として運用された。

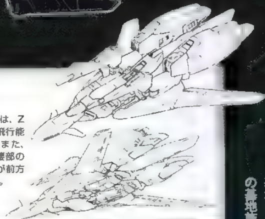
E.F.F. MASS-PRODUCED TRANSFORMABLE MOBILE SUIT
MSZ-006A1 / Z plus

全高:19.86m
本体重量:32.7t
全備重量:68.4t
ジェネレーター出力:20[illegible]
スラスター総推力:——
センサー有効半径:——

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲/ビーム・ライフル/ビーム・キャノン/ビーム・サーベル/シールド

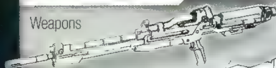
MSZ-006ZガンダムのWR形態の巡航能力に着目したエゥーゴの支援組織カラバが開発、運用した量産型可変MS。Zプラスは、このA型のほか、多数のバリエーション——複座型のB型、宇宙用のC型など——が存在することで知られる。中でもこのA1型は特に生産性が優れていたと言われる。性能的には一線級ではなかったが、U.C.0096時点も北米のシャイアン基地をはじめ、ほかの地球連邦地上軍の基地施設にも配備されていた。

■ WR Mode



大気圏内においては、Zガンダムを超える飛行能力を有していた。また、WR形態時には、腰部のビーム・キャノンが前方に向けて展開される。

Weapons

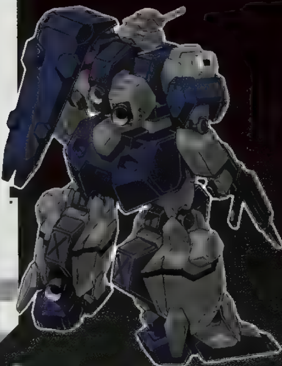

■ Beam Rifle


■ Shield

主兵装であるビーム・ライフルは、リゼルと同じものに変更されている。シールドはWR形態での機種を構成する。センサー類などが搭載されているため、防御用としては運用できない。




ロンド・ベル隊のジェスタと交戦したが、奇襲を受けたこともあり反撃することなく、中破させられている。




GUSTAV KARL

E.F.S.F. MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
FD-03 / GUSTAV KARL

全高:22.0m
本体重量:29.0t
全備重量:[illegible]
ジェネレーター出力:3425kW
スラスター総推力:79500kg
センサー有効半径:21300m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:バルカン砲／ビーム・ライフル／グレネード・ランチャー／ビーム・サーベル／[illegible]

RGMシリーズの後継機として開発された量産型汎用MS。『UC計画』に組み込まれていたRGM-96Xジェスタとは別ラインで開発が進められていた。ビーム・ライフルなどの兵装類は地球連邦軍共通のものを装備。北米のシャイアン基地（カフカスの森）において可動試験を名目とした先行運用が行われていた。



左側 … バル … うし … 邦 … ない本機特有のものだった。右側頭部にはアンテナを装備する。

■ Shield



肩部にアームで接続されるという方式は、ジェスタと同じである。当時としては珍しい兵装類を備えない装甲板式の防御兵装であった。



Zプラスと共にカフカスの森に配備されていた。U.C.0105年頃に運用されていた機体とはカラーリングが異なっている。

グスタフ・カール



MSN-06S シナンジュはハルユニットを制御する中核として機能する。有線式ファンネル・ビットやIフィールドに加え、サイコシャードなども備える。





『袖付き』が開発した拠点攻略用MAで、『ラプラスの箱』を巡る争乱の最終局面において投入された。シナンジュを中核ユニットとし、機体は外殻（ハル）ユニットに内蔵され、その巨体を制御するためのユニットとして機能する。全高100mを超える巨大機動兵器だが、スカート内に備えたスラスターと全身34ヵ所に設けられた姿勢制御用バーニアによって、大型機でありながら高い機動性と運動性を持つ。また、ハルユニットは兵装コンテナでもあり、機体各所に大口径メガ粒子砲やIフィールドジェネレーターを備える。また、サイコミュ兵器として、有線式大型ファンネル・ビットやサイコシャードを装備。旧来のNT専用機を遥かに凌駕する性能を有する。

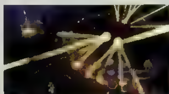
NEO ZEON FULL FRONTAL'S CUSTOMIZE MOBILE ARMOUR FOR NEWTYPE

NZ-999 / NEO ZEONG

全高:116.0m
頭頂高:80.0m
全幅:58.0m
本体重量:153.8t
[illegible]
ジェネレーター出力:35660kW～計測不能
スラスター総推力:28827500kg～計測不能
センサー有効半径:23600m～計測不能

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:有線式大型ファンネル・ビット／肩部大型メガ粒子砲／腹部Iフィールドジェネレーター／大口径ハイメガ粒子砲／サイコシャード発生器／バズーカ／60mmバルカン砲／ビーム・サーベル／シールド

■有線式大型ファンネル・ビット展開ギミック



有線式大型ファンネル・ビットや肩部、腹部のメガ粒子砲、さらにはIフィールドジェネレーターにより、極めて高度は攻防力を発揮する。



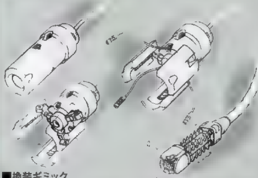
<メガラニカ>の戦闘では、エコーズ仕様のジェガンをジャックし、同士討ちを行わせている。





■有線式大型ファンネル・ビット

腕部の先端に５基１セットで装備されている。有線式で先端部にはワームロッドを内蔵しており、接触した敵MSを乗っ取る機能も有する。全てを展開した後は、新しいものに換装される。



■換装ギミック



装備されていた５基を使い切った後には、前腕部に内蔵されていたものが展開され、換装される。





フル・フロンタル
FULL FRONTAL

〈メガラニカ〉内で再びバナージたちの前に姿を現したフロンタルは、『箱』の譲渡を求める。しかし、それが叶わなかったため、ネオ・ジオングでユニコーンガンダムと対峙。そして、サイコシャードを介したバナージとの共感の中で、彼の想いを受け止めたフロンタルは、「器」としての役目を終えたのだった。

■ Psycho Shard

肩部と腰部に備えられたサイコミュ兵器。ここから展開される光の結晶がサイコシャードとされる。この光の結晶とネオ・ジオングのサイコフレームの共振によって、サイコ・フィールドを発生させる。

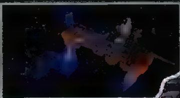








使用者の「想い」を実現する機能を持つと考えられる。敵MSの武装の破壊やユニコーンガンダムを伴う「時空の旅」などを成した。

MS形態では対MS戦闘を、MA形態では対艦攻撃を主とする戦闘爆撃機的な運用を想定していた。




GA ZOWMN [THE SLEEVES]

NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMX-008 / GA ZOWMN(THE SLEEVES)

全高:18.0m
本体重量:31.9t
全備重量:58.2t
ジェネレーター出力:1840kW
スラスター総推力:92280kg
センサー有効半径:11200m

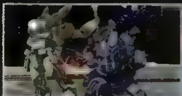
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ハイパー・ナックルバスター/ビーム・ガン/ミサイル・ランチャー/ビーム・サーベル

ネオ・ジオンが第一次ネオ・ジオン戦争において投入した可変MS。ガザ・シリーズの流れを汲む機体だが、フレーム構造を一新するという改良によって基本性能の大幅な向上を果たした。兵装類はジェネレーター直結式ではなく、エネルギー・パック式に改められたほか、ミサイルも装備するなど、攻撃力も強化されている。〈袖付き〉も数機を保有しており、〈インダストリアル7〉宙域での戦闘に投入された。

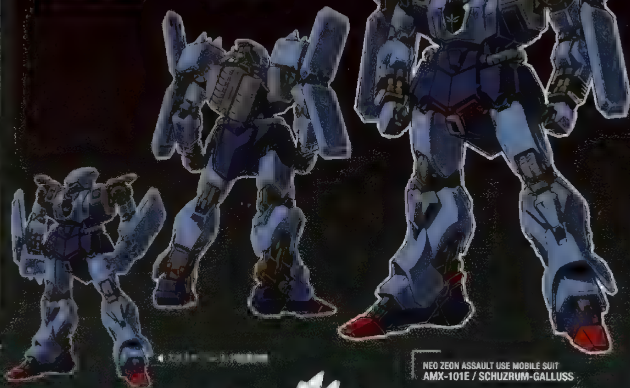
■ MA Mode

MA形態では、全武装が正面を向く。火力の集中によって高い火力を発揮する。






ズサのブースターを用いてネェル・アーガマに強襲を仕掛け、ジェガン(コンロイ機)と格闘戦を繰り広げた。



NEO ZEON ASSAULT USE MOBILE SUIT
AMX-101E / SCHUZRUM-GALLUSS

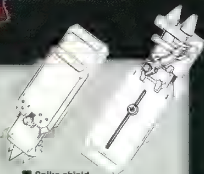
全高:19.5m
[illegible]
[illegible]
ジェネレーター出力:[illegible]
スラスター推力:——
センサー有効半径:11200m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:スパイク・シールド/[illegible]カー/チェーン・マイン

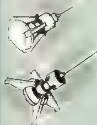
ネオ・ジオンが開発したAMX-101ガルスJの改修機で、対MS格闘戦をはじめとする強襲能力を特化させている。そのため、徹底した軽量化が施され、その機体重量はベース機の50%以下となった。この改修は機体の可動域を拡大させ、MSでありながら人間に近い動きを可能とした。射撃兵装などは持たず、ギラ・ドーガとザクIIのシールドを組み合わせたスパイク・シールドやチェーン・マインを主兵装とする。

Weapons

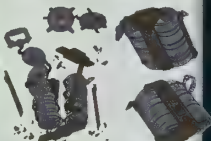
格闘戦を主とする機体だが、ビーム・サーベルなどは持たず、スパイク・シールドやマグネット・アンカーなどを特殊な兵装を備える。



■ Spike shield



■ Magnet Anchor



■ Chain Mine

シュツルム・ガルスとの連携によって、ネェル・アーガマに迫った。

ZSSA [THE SLEEVES]

NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMX-102 / ZSSA(THE SLEEVES)

全高：15.0m
本体重量：23.7t
全備重量：74.5t
ジェネレーター出力：1820kW
スラスター総推力：120400kg
センサー有効半径：10800m

装甲材質：ガンダリウム合金
武装：拡散ビーム砲／ミサイル・ポッド／ビーム・マシンガン／30mm[illegible]／ビーム・サーベル／シールド

第一次ネオ・ジオン戦争期にネオ・ジオンが開発したMSで、機体各所に装備したミサイルを用いた火力支援を主な運用法とする。ブースター・ポッドやミサイル・ポッドを装備することで、一撃離脱による対艦攻撃なども可能となった。こうしたコンセプトは『袖付き』使用機でも同じであったが、ビーム・マシンガンやショット・ガンを装備する機体も見られた。また、機体色がグリーン系に変更されている。

■ Booster Pod

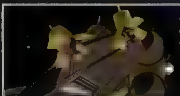
ズサの背部に接続するオプション装備で、ミサイル・ポッドも備える。機動力と攻撃力を同時に向上させた。有人での運用も可能。

Weapons

ミサイル・ポッドの他に、ビーム・マシンガンやショット・ガンといった他機種の武装も使用することで、高い対MS戦能力を発揮した。

■ Beam Machine Gun

■ Shot Gun





<インダストリアル7>宙域での戦闘に[illegible]にとっては貴重なNT専用機であった。

JAGD DOGA (THE SLEEVES)

ヤクト・ドーガ

NEO ZEON MOBILE SUIT CUSTOMIZED FOR NEWTYPE
MSN-03 / JAGD DOGA(THE SLEEVES)

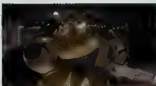
全高:21.0m
本体重量:28.4t
全備重量:60.2t
ジェネレーター出力:3340kW
スラスター総推力:76000kg
センサー有効半径:20500m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・マシンガン／ファンネル／ミサイル／ヒート・ナイフ[illegible]／シールド

シャア・アズナブルが率いたネオ・ジオンのニュータイプ専用MSを、「袖付き」が改修した機体。欠損していた右腕はベース機であるギラ・ドーガからの流用によって修復された。ファンネルも装備するが『シャアの反乱』時の戦闘で失ったため2基のみとなっている。また、機体色も原型機の赤系からイエロー系に変更された。

Weapons

ビーム・マシンガンとファンネルを主兵装とする。ただし、ファンネルは搭載数が減少したため、元のようなオールレンジ攻撃を行うことは困難であった。

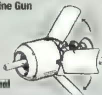




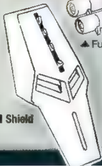
■ Beam Machine Gun



▲ Funnel



■ Funnel



■ Shield




重装甲ながら機動力も高く、高い汎用性を持つ機体であった。




NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMX-011 / ZAKU III(THE SLEEVES)

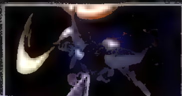
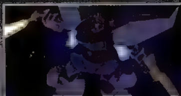
全高:23.1m
本体重量:46.8t
全備重量:70.9t
ジェネレーター出力:2150kW
スラスター総推力:172600kg
センサー有効半径:9700m

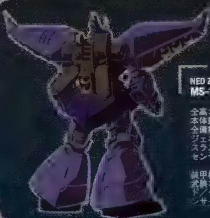
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・マシンガン／腰部ビーム・キャノン／ビーム・サーベル／サブ・マニピュレーター

第一次ネオ・ジオン戦争期にネオ・ジオンが開発したMSで、ジオン公国軍のザク系MSの後継となる機体。「袖付き」で運用された機体には、フロントアーマーにサブ・マニピュレーターを備えていた。



ネオ・ジオン、「袖付き」ともに、新兵の訓練用として使用されていたが、MS戦力の不足から戦場に投入されている。

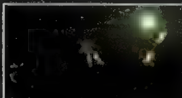



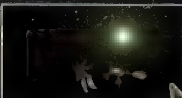
NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
MS-14J / REGELGU(THE SLEEVES)

全高:21.0m
本体重量:43.7t
全備重量:82.6t
ジェネレーター出力:1890kW
スラスター総推力:150800kg
センサー有効半径:8700m

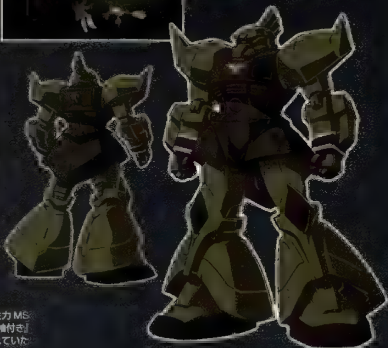
装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・マシンガン／ミサイル・ポッド／グレネード・ランチャー／ビーム・ランサー

ゲルググを改修・発展させた機体で、ネオ・ジオンが開発した。両肩の装甲が大型化しており、内部には大型のスラスターを備える。これにより旧式機ながら高い機動性を発揮した。





ギラ・ドーガ用のビーム・マシンガンを装備していたが、性能差は歴然であった。

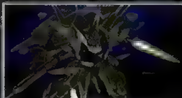


NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
MS-14A / GELGOOG(THE SLEEVES)

全高:[illegible]
本体重量:42.1t
全備重量:73.3t
ジェネレーター出力:1440kW
スラスター総推力:61500kg
センサー有効半径:6300m

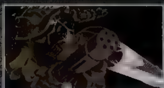
装甲材質:超硬スチール合金
武装:ビーム・マシンガン/ビーム・ナギナタ/ビーム・サーベル/シールド

一年戦争期にジオン公国軍が開発した主力MSで、同軍で初めてビーム兵器を装備した。『袖付き』でも運用されており、近代化改修も施されていたようだ。

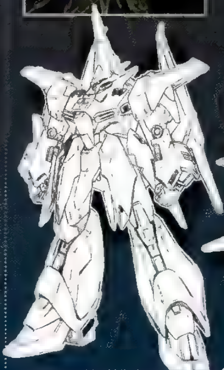


NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
MS-12 / GIGAN(THE SLEEVES)

ジェネレーター出力:730kW
装甲材質:超硬スチール合金
武装:180mm無反動砲/ガトリング・ガン



ジオン公国軍の「ペズン計画」で開発された装輪式の機動兵器。『袖付き』では車輪がスラスターに換装された。また、180mm無反動砲のほか、右腕はガトリング・ガンとなっている。





◀バウ・アタッカー

◀バウ・ナッター

NEO ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
AMX-107 / BAWOO(THE SLEEVES)

全高:22.05m
本体重量:38.2t
全備重量:70.9t
ジェネレーター出力:2410kW
スラスター総推力:75040kg
センサー有効半径:12200m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲/ビーム・マシンガン/マシン・キャノン/ミサイル/ビーム・サーベル/シールド

MSZ-006 Zガンダムなどを参考にアクシズが開発した合体可変MSで、第一次ネオ・ジオン戦争期に士官用に若干数が量産された。『袖付き』でも運用されており、他のMS同様、グリーン系に塗られていた。

デルタガンダム



DELTA GUNDAM

TRASFORMABLE MOBILE SUIT PROTOTYPE
DELTA GUNDAM

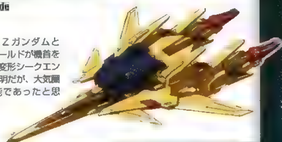
全高：——
本体重量：——
全備重量：——
ジェネレーター出力：——
スラスター総推力：——
センサー有効半径：——

装甲材質：——
武装：60mmバルカン砲／ビーム・ライフル／ビーム・サーベル／ビーム・ガン／シールド

本機は、大気圏内外を問わない全領域への到達が可能な可変機として開発が進められた。背部のフレキシブルバインダーや耐ビーム・コーティング特性を持つ黄金色のエマルジョン塗装は、新世代のMSの登場を知らしめるに充分であった。しかし、当時の技術的限界——変形時におけるフレームの強度問題——により、本機が完成することはなかった。だが、そのデータはMSN-00100百式、そしてMSN-001A1デルタプラスに受け継がれることとなった。

■ WR Mode

MSZ-006 Zガンダムと同様に、シールドが機首を構成する。変形シークエンスなどは不明だが、大気圏突入も可能であったと思われる。



Weapons

■ Beam Rifle

■ Shield

主兵装のビーム・ライフルは、可変 MS 用に開発されたロングタイプで射程や威力に優れている。また WR 形態時に機首となるシールドはセンサーなどが搭載された複合機器としての機能も有する。

GUNDAM DELTA KAI



デルタ
よりガ
違い形
のアンテナも装備する。

TRASFORMABLE MOBILE SUIT PROTOTYPE
GUNDAM DELTA KAI

全高:19.6m
本体重量:28.0t　全備重量:68.6t
ジェネレーター出力:3520kW
スラスター総推力:101500kg
センサー有効半径:16200m
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲／ロング・メガ・バスター／ビーム・キャノン／炸裂ボルト／メガ・マシン・キャノン／ハイ・メガ・キャノン／プロト・フィン・ファンネル／ビーム・サーベル／シールド

WR Mode

デルタプラスよりも複雑な構造とカナード翼が特徴。機体の両側に装備されるプロト・フィン・ファンネルはビーム散弾を発射する。



Weapons

■ Long Mega Busster

■ Mega Machine Cannon

ロング・メガ・バスターは、通常のビーム・ライフル以上の威力を示す。デルタプラスの標準兵装でもある。シールドは防御兵装というよりも、WR形態の機種、そしてウェポン・プラットホームとしての側面が強い。

MSとWRの両形態における武装の機能変化と、その改良点を見出すための試作可変MSが、このMSN-001Xガンダムデルタカイである。MSN-001A1デルタガンダムをベースとする。その開発コンセプトが示す通り本機には、ロング・メガ・バスターやハイ・メガ・キャノンをはじめとする多数の武装が用意された。そして、それを淀みなく使用するために新型サイコミュ装置「n_i_t_r_o(ナイトロ)」を搭載する。

ガンダムデルタカイ

リゼルC型(ディフェンサーaユニット)

ReZEL [DEFENSER a-UNIT]

E.F.S.F. MASS-PRODUCED TRANSFORMABLE MOBILE SUIT
RGZ-95C / ReZEL [DEFFENSER a-UNIT]

全高:20.5m
本体重量:28.3／全備重量:65.1t
[illegible]
スラスター総推力:91600kg
センサー有効半径:14920m
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲／ビーム・ライフル[illegible]
[illegible]
ン(シールド)／シールド

リゼルに用意されたバックパックユニットのバリエーションのひとつ。このa・ユニットは、ディフェンサーユニットにマイクロ・ミサイルを装備したタイプで、近・中距離帯に弾幕を展開するなど、面制圧を目的としている。また、通常のビーム・サーベルの50%増の出力を誇るハイパー・ビーム・サーベルを装備するなど、砲撃と格闘の双方に対応していた。なお、本タイプは、b・ユニット装備機との連携も考慮されていた。

WR Mode

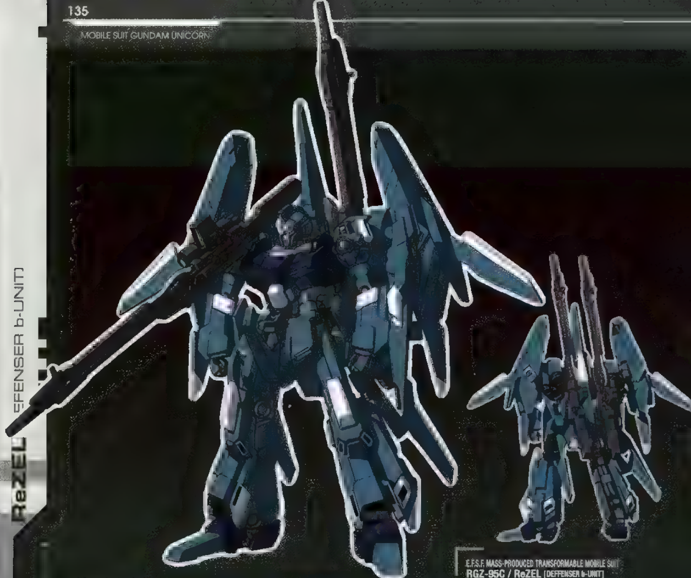
マイクロ・ミサイルを格納したコンテナが前面に展開する。ビーム・ライフルやシールドの接続は通常のバックパックユニットと同じである。

Weapons

バックパックに装備されたマイクロ・ミサイルが主兵装となる。また、背部のハイパー・ビーム・サーベルはMSZ-010 ZZガンダムと同様の装備だが、リゼル用のそれは出力の安定供給を優先したため、ビーム・キャノンとしての機能は排除されている。

ReZEL (DEFENSER b-UNIT)

リゼルC型(ディフェンサーbユニット)



E.F.S.F. MASS-PRODUCED TRANSFORMABLE MOBILE SUIT
RGZ-95C / ReZEL [DEFFENSER b-UNIT]

全高:20.5m
本体重量:29.2t／全備重量:68.3t
ジェネレーター出力:2320kW
スラスター総推力:91600kg
センサー有効半径:14920m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲／メガ・ビーム・ランチャー／ビーム・キャノン／グレネード・ランチャー／ビーム・サーベル／ビーム・キャノン(シールド)／シールド

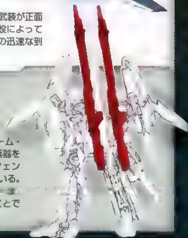
開発当初よりリゼルには、あらゆる局面での運用に対応するために、複数のバックパックユニットが開発されていた。その中でもこのb・ユニット装備機は中・長距離帯での戦闘に特化した仕様と言える。ユニット内にはジェネレーターとのダイレクト・ドライブが増設され、ビーム・キャノンをはじめとした兵装の稼動率の強化が図られている。また、メガ・ビーム・ランチャーを連装化したことで、大出力ビームの連続射撃も可能となった。

■ WR Mode



本形態もa-ユニットと同じく全武装が正面を向く。また、スラスターの増設によって機動力も向上しており、戦域への迅速な到達と離脱が可能となった。

Weapons



メガ・ビーム・ランチャーやビーム・キャノンといった複数のビーム兵器を装備する。これらは全てディフェンサーユニットに取り付けられている。また、メガ・ビーム・ランチャーは[illegible]
それぞれのセンサーが連動することでより精度の高い射撃が可能。

シルヴァ・バレト

SILVER BULLET



E.F.S.F. QUASI PSYCOMMU MOBILE SUIT TEST TYPE
ARX-014 / SILVER BULLET

全高：22.2m
本体重量：33.5t／全備重量：70.5t
ジェネレーター出力：5250kW
スラスター総推力：87300kg
センサー有効半径：13500m

装甲材質：ガンダリウム合金
武装：60mmバルカン砲／ビーム・キャノン／有線ハンド／ビーム・サーベル／[illegible]ミサイル／[illegible]ミサイル／シールド（2連ミサイル・ランチャー、ビーム・ランチャー）／ビーム・サーベル

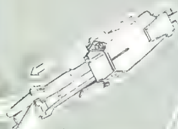
地球連邦軍の依頼でAE（アナハイム・エレクトロニクス）社がドーベン・ウルフを改修した機体（改修はグラナダ工場が担当）。ベース機に装備されていたジェネレーター直結式火器がオミットされ、それに伴って装甲材も一新されている。この結果、高い機動性を獲得し、テスト用MSでありながら充分に実戦に耐え得る性能を示した。なお、開発計画における模擬戦において大破したと言われるが詳細は不明である。

Weapons

インコムや有線式ハンド・ビームなど、原型機の装備も残されている。また、シールドはジェガン用のものにビーム・ランチャー（メガ・ランチャーをショートバレル化）やミサイルを搭載した多機能兵装となっている。



■ Beam Rifle



ビーム・ランチャー射撃時は砲身が伸長し、長距離射撃も可能となる。



■ Shield

SILVER BULLET (FUNNEL TEST)

シルヴァ・バレト(ファンネル試験型)



ARX-014P / SILVER BULLET

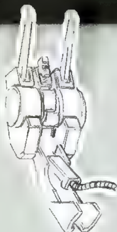
全高:22.2m
本体重量:33.5t／全備重量:70.[illegible]
ジェネレーター出力:5250kW
スラスター総推力:87300kg
センサー有効半径:13500m

装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲／ビーム・ライフル／有線式大型ファンネル／有線式ハンド／ビーム・ランチャー／ビーム・サーベル／シールド

ドーベン・ウルフの改修機であるARX-014シルヴァ・バレトに、連邦軍製のファンネルを搭載した試作機。開発は原型機と同じくAEが担当した。ドーベン・ウルフ自体に有線式遠隔攻撃端＝インコムが搭載されていたため、こうした改修が行われたと推測される。準サイコミュのテスト機として運用され、後発のサイコミュ搭載機に開発に大きく貢献したと言われる。

■ Back Pack

バックパックは、主推進器とウェポン・プラットホームを兼ねる。有線式大型ファンネルが搭載された以外は、原型機と同じであったと思われる。ビーム・ランチャーは使用時には前方に展開する。





■ Funnel

バックパックに1基のみ装備する。ジェネレーターを内蔵していることから、通常のファンネルよりも高出力だったと思われる。

EWACジェガン

EWAC JEGAN





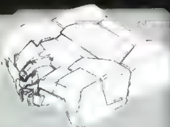
E.F.S.F. MOBILE SUIT RECONNAISSANCE TYPE
RGM-89DEW / EWAC JEGAN

全高:[illegible]m
本体重量:[illegible]t
全備重量:45.5t
ジェネレーター出力1870kW
スラスター総推力62000kg
センサー有効半径38400m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・サーベル/ビーム・ライフル/ハンド・グレネード

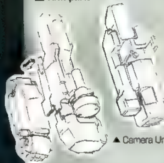
ジェガンD型のバリエーションのひとつで、偵察用MSに分類される。前線での観測や索敵を主な任務とするため、必要最小限の武装しか有していない。巨大なボックス状ユニットを備えた頭部と左前腕部にセンサー・ユニットを、右前腕部にはカメラ・ユニットを装備し、通常のMSの2倍以上のセンサー有効半径を持つ。

■ Head parts



左右と後ろに大きく張り出したボックス状のユニットとなっている。各種センサーをはじめ通信装置なども搭載されていると考えられる。

■ Arm parts

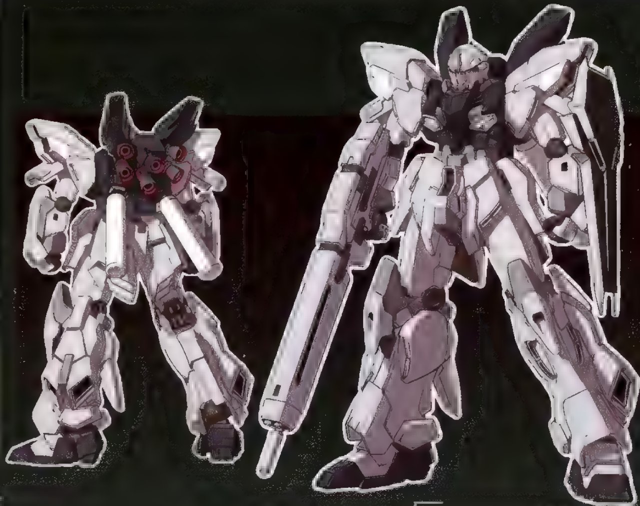




左前腕部のセンサー・ユニットと右前腕部のカメラ・ユニットは、本機の主装備と言える。観測データを母艦などに送り、砲撃支援を行うこともあった。

SINANJU STEIN

シナンジュ・スタイン



PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
MSN-06S / SINANJU STEIN

全高:22.6m
本体重量:23.1t
全備重量:54.2t
ジェネレーター出力:3240kW
スラスター総推力:128600kg
センサー有効半径:23600m

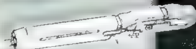
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲／ハイ・ビーム・ライフル／ビーム・キャノン／ミサイル／ビーム・サーベル／シールド

「UC計画」においてサイコフレームの強度や追従性のテスト機として開発された試作MSで、開発コードは「スタイン01」。限界性能を計測するためにパイロットの搭乗は想定されていなかったが、実際は「ある者」用として開発されていた。なお、本機は「袖付き」に強奪され、MSN-06Sシナンジュへと改修されている。「スタイン」はドイツ語で「原石」を意味し、本機がシナンジュの原石でしかないという開発者達の皮肉によって付けられた。

Weapons

主兵装のハイ・ビーム・ライフルは、FA-93HWS νガンダム（ヘビーウェポン装備型）と似た形状が特徴。シールドも同じで、裏にビーム・キャノンとミサイルを備える。





■ High Beam Rifle



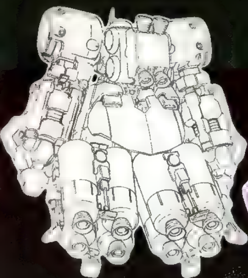
■ Beam Saber



■ Shield

クラーケ・ズール

KRAKE ZULU



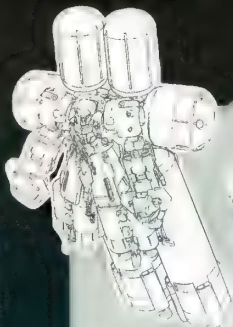


NEO ZEON QUASI PSYCOMMU MOBILE SUIT
YAMS-130 / KRAKE ZULU

全高:21.1m
本体重量:36.[illegible]t
全備重量:64.0t
ジェネレーター出力:[illegible]
スラスター総推力:——
センサー有効半径:18200m

装甲材質:チタン合金セラミック[illegible]
武装:メガ・ビーム[illegible]
ビーム・ホーク

MSN-01サイコミュ高機動試験用ザクのコンセプトを引き継いだ機体で、ネオ・ジオン残党軍『袖付き』が技術試験用に開発した試作MS。肩部に追加された大型の腕部は有線式でメガ粒子砲を内蔵。また、下半身は大推力スラスターユニットに換装。オプションとして、背部に大型プロペラント・ブースターを装備可能で、長距離航行も可能となっていた。アンジェロ・ザウバーがテストパイロットを務めた。





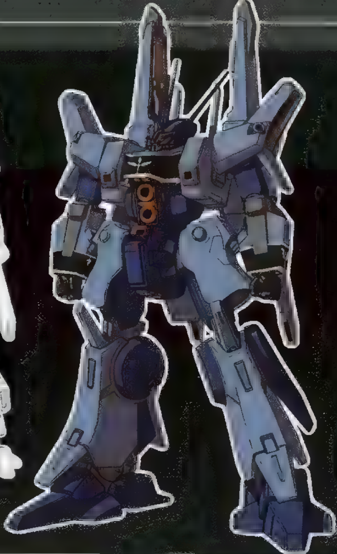
■大型プロペラント・ブースター

[illegible]に装備するオプションの大型ブースター。MS本体よりも大サイズで、極めて高い航行能力と機動力を機体に付与した。シュツルム・ブースターに[illegible]える。

DÖVEN WOLF (THE SLEEVES)

ドーベン・ウルフ（袖付き）





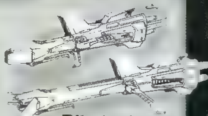
NEO ZEON QUASI PSYCOMMU MOBILE SUIT
AMX-014 / DOVEN WOLF(THE SLEEVES)

全高:22.0m
本体重量:36.8t　全備重量:74.5t
ジェネレーター出力:5250kW
スラスター総推力:87300kg
センサー有効半径:12000m
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:30mmバルカン砲／ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／インコム／ビーム・ハンド／メガ・ランチャー／胸部メガ粒子砲／ビーム・キャノン／ロケット・ランチャー／対艦ミサイル／ミサイル

ハマーン・カーン率いるネオ・ジオンが開発した重MSで、第四世代MSに分類される。U.C.0088にロールアウトした本機はネオ・ジオンの精鋭部隊に優先的に配備され、第一次ネオ・ジオン戦争後期の戦闘に投入された。U.C.0096にも残存機が運用され続けており、『袖付き』ではカラーリングの変更やエングレービングなどが施され、拠点である〈パラオ〉の防衛用MSとして配備されていた。

Weapons

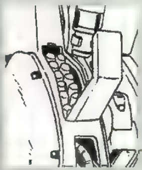
メガ・ランチャーをはじめ、胸部メガ粒子砲、対艦ミサイルなど、多彩な武装が特徴。インコムやハンド・ビームは準サイコミュ兵器で、コンピューターのサポートにより一般兵でも使用が可能であった。



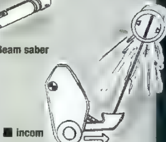
■ Mega Launcher



■ Beam saber



■ Antiship Missile



■ incom

バックパック中央部分に２基を装備。コントロール・ワイヤーによって制御され、方向転換はリレー・インコムによって行う。



E.F.S.F. MASS-PRODUCED MOBILE SUIT
RGM-89D / JEGAN

全高:19.0m
本体重量:21.3t
全備重量:47.3t
ジェネレーター出力:1870kW
スラスター総推力:62000kg
センサー有効半径:16800m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・ライフル/バルカン・ポッド・システム/ハンド・グレネード/ビーム・サーベル/シールド

地球連邦軍の主力MS、RGM-89 ジェガンのマイナーチェンジ版である、ジェガンD型の先行配備機。D型との違いはカラーリングのみで、性能は同じである。U.C.0094、輸送任務の護衛機として2機のクラップ級に先行配備された記録が残っている。



NEO ZEON MOBILE SUIT COMMANDER TYPE
AMS-119C / GEARA DOGA (FULL FRONTAL USE)

全高:20.0m
本体重量:23.0t
全備重量:50.8t
ジェネレーター出力:2160kW
スラスター総推力:70200kg
センサー有効半径:16400m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・マシンガン/グレネード・ランチャー/シュツルム・ファウスト/ビーム・ソードアックス/シールド

U.C.0093に勃発した「シャアの反乱」におけるネオ・ジオンの主力機 AMS-119 ギラ・ドーガの性能向上型。スラスター推力の出力向上、機体追従性能の強化、手首部分への「袖」の増設が図られている。その機動性はパイロット――フル・フロンタルの操縦技術もあって捕捉すら困難であり、それと対峙した者に「シャアの再来」を想起させた。



NEO ZEON MOBILE SUIT COMMANDER TYPE
AMS-119C / GEARA DOGA (ANGELO SAUPER USE)

全高:20.0m
本体重量:28.6t
全備重量:62.1t
ジェネレーター出力:2160kW
スラスター総推力:75200kg
センサー有効半径:16400m

装甲材質:チタン合金セラミック複合材
武装:ビーム・マシンガン/ランゲ・ブルーノ砲/ビーム・ソード・アックス

アンジェロ・ザウバー専用のギラ・ドーガで、彼のパーソナルカラーである「紫」のカラーリングが特徴。長時間の運用および長射程攻撃に重点が置かれた重装仕様機であり、大型プロペラント・タンクとランゲ・ブルーノ砲を装備する。フル・フロンタルの随伴機として、後方支援なども行った。

REBAWOO



NEO ZEON MOBILE SUIT CUSTOMIZED FOR NEWTYPE
AMX-107R / REBAWOO

全高:19.6m
本体重量:40.4t/全備重量:71.2t
ジェネレーター出力:3020kW
スラスター総推力:112240kg
センサー有効半径:20300m
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:ビーム・ライフル/ビーム・バルカン/マシン・キャノン/フレキシブル・ビーム・ガン/グレネード・ランチャー/拡散グレネード・ランチャー/ビーム・サーベル/ビーム・アックス/ビーム・ナギナタ/シールド

ハマーンのネオ・ジオンで開発した可変MS、AMX-107バウを「袖付き」が大幅な改修を施した機体。原型機の分離機能に加え、上半身（リバウ・アタッカー）のコックピット周辺と下半身（リバウ・ナッター）の機首部分にサイコフレームを採用。これにより、パイロットの感応波によってより高度な連携機動が可能となった。フル・フロンタルの専用機となることが予定されていたが、MSN-06Sシナンジュの入手後には、他のパイロットが搭乗し、実戦に投入されたことが確認されている。

Weapons

原型機と同様、多彩な武装が特徴。ビーム・ライフルは後のシナンジュ用のものと酷似している。また、シールドは形状が改められた他、裏が武装プラットホームとなっている点も特徴と言える。



■ Shield

リバウ

ユニコーンガンダム3号機フェネクス





UNICORN GUNDAM 03 (PHENEX)

FULL PSYCHO-FRAME PROTOTYPE MOBILE SUIT
RX-0 / UNICORN GUNDAM 03 PHENEX

全高:19.7m(21.7m)
本体重量:23.8t/全備重量:52.4t
ジェネレーター出力:3690kW(測定不能)
スラスター総推力:206770kg(測定不能)
センサー有効半径:23700m(測定不能)

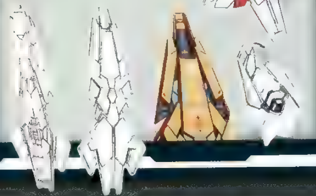
装甲材質:ガンダリウム合金
武装:60mmバルカン砲/ビーム・マグナム/メガ・キャノン/アームド・アーマーDE/ビーム・サーベル/シールド/ビーム・トンファー(デストロイモード時)

ユニコーンガンダム3号機〈フェネクス〉は、U.C.0095、試験用として先行納入されたフル・サイコフレームの素体をベースとして、ユニコーンガンダム1号機と2号機のデータを反映して建造された。最大の特徴は背部に装備した2基のアームド・アーマーDEで、NT-Dの発動時には、本体の装甲に加えてアームド・アーマーDEも同時に展開する。なお、デストロイモード時には、サイコフレームは青く発光する。

■ Armed Armor DE

最初期に開発されたサイコフレーム兵装「アームド・アーマー・シリーズ」のひとつ。展開式のスラスターとメガ・キャノンを内蔵することで、機動性と攻撃力を同時に向上させた。「ラプラスの箱」を巡る争乱後期には、バンシィ・ノルンも装備した。












MOBILE SUIT GUNDAM UC WORLD GUIDE
U.C. 0096



ジオニズム撲滅計画

対ジオニズム闘争に区切りをつけ、あるべき宇宙世紀を取り戻すという地球連邦政府・軍のプロジェクトが『UC計画』である。ジオン共和国が自治権を放棄するU.C.0100をもってジオニズムを一掃することで、地球連邦政府の統治体制を強化、安定化させる狙いがあった。『シャアの反乱』の翌年のU.C.0094にはプロジェクトが動き出しており、関連機材の開発も始まっていた。

この時期、地球連邦政府が対ジオニズム闘争に終止符を打つ動きを見せた背景には、ネオ・ジオンの弱体化がある。『シャアの反乱』で総帥シャア・アズナブルを失ったネオ・ジオンが軍隊の体裁をなくし、脅威度が著しく低下したことから、地球連邦政府は方針を転換。新たな世界秩序や経済システム構築の下敷きとなる『UC計画』に着手することとなった。

対ニュータイプ兵器の開発

『UC計画』が目指すジオニズムの一掃とは、ジオン勢力をはじめとするスペースノイドが抱く『ニュータイプ神話』を打ち砕くことでもあった。そのために考え出されたシナリオが、ジオン勢力のサイコミュ搭載兵器とそれに搭乗するニュータイプを、地球連邦軍が撃破するというものだった。ニュータイプを抹殺することで、ジオニズムを沈静化させようというのだ。

しかし、ニュータイプが駆るサイコミュ搭載兵器を撃破するのは非常に困難である。『シャアの反乱』に至る戦訓を鑑みれば、同等の組み合わせで対抗しなくては、勝利は覚束ない。

そこで地球連邦軍は『UC計画』の要となるサイコミュ搭載MSの開発を、AE(アナハイム・エレクトロニクス)社に依頼した。この機体こそが、《ユニコーンガンダム》と呼ばれることになるフル・サイコフレーム実装試作MS、RX-0である。

ここで問題となったのが、仮想敵のネオ・ジオンが弱体化していたことだった。そこで地球連邦軍政府・軍は、RX-0に先行して開発されたサイコフレーム試験機MSN-06S《シナンジュ・スタイン》をネオ・ジオン残党に提供する(ネオ・ジオン残党による強奪事件に偽装された)。

RX-0完成以前では最強と言っていい《シナンジュ》と、ジオン共和国の右派がネオ・ジオンに送り込んだ強化人間フル・フロンタル大佐。秘密裏に地球連邦政府が容認したこの組み合わせを、RX-0が撃破する筋書きが用意されたのだった。



RX-0
ユニコーンガンダム
「UC計画」において開発されたRX-0のうちの1機。争乱後期、バナージは本機を完全に制御し、性能以上の機能を引き出した。

RX-0系のMSは計3機が開発された。そのうちの2機は「箱」を巡る争乱に投入され、極めて高度な性能を発揮した。

ユニコーンガンダムとバンシィに搭載された「NT-D」。対ニュータイプ用兵器であるRX-0シリーズの中枢とも言えるシステムである。



「UC計画」におけるシナリオを進めるために、2機のサイコフレーム搭載機が用意された。



地球連邦軍再建計画

『UC計画』には地球連邦軍再建計画としての側面もあり、特に連邦宇宙軍の地球軌道艦隊の整備が進められた。RX-0計画が伏せられていたため、『UC計画』=地球連邦軍再建計画との認識が広まっていたが、ジオニズム運動の一掃とあるべき宇宙世紀を取り戻すという計画の性質は変わらない(『UC計画』には、RX-0計画と地球軌道艦隊の整備が含まれる)。

具体的なプランとしては、ドゴス・ギア級《ゼネラル・レビル》をはじめとする新艦艇の建造、各コロニーに分散配置された艦艇の糾合などにより、往年の主力艦隊たる地球軌道艦隊を再建することとなっていた。ジオニズムの根絶で地球圏が安定化した後も軌道艦隊は維持され、失業対策として経済システムの一環になる計画だった。

しかし、地球軌道艦隊の整備においても、ジオン勢力の退潮は問題だった。地球連邦市民が、ネオ・ジオン残党や旧ジオン公国軍残党を脅威と見なさなくなりつつあったのだ(宇宙軍の再編計画自体はU.C.0094の中期防衛整備計画で発表されたと言う)。

そこで地球連邦政府・軍は脅威を煽るため、ネオ・ジオン残党や旧ジオン公国軍残党を秘密裏に支援する。前述の《シナンジュ・スタイン》譲渡以外にも兵器を横流し、残党組織の活発化を促したのだった。

連邦政府・軍の意図はともかくフル・フロンタル大佐と《シナンジュ》(をコアユニットとする《ネオ・ジオング》)は結果的にRX-0に敗北し、ネオ・ジオン残党『袖付き』も壊滅した。ジオン共和国の自治権放棄の前後から、ジオニズムやサイド国家主義が廃れて、ニュータイプが死語になっていったことも確かである。しかし、連邦宇宙軍の再編が想定通りに進んだかは別問題だった。

先の話になるがU.C.0120年代の月やフロンティア・サイド、コスモ・バビロニア建国戦争後のコロニー群を見ても分かるように、連邦宇宙軍の月艦隊やコロニー駐留部隊は健在だった。つまり、地球軌道艦隊再建の成否は見解の分かれるところであり、『UC計画』が地球圏に与えた影響は定量化できない。

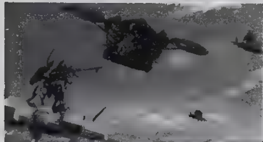
それでも連邦軍が失業対策として機能し続けたことは間違いなく、地球圏の経済システムの一角を担っていくこととなった。

地球軌道艦隊の再建は、「UC」計画の一側面であったが、失業対策など地球経済への影響も大きかった。



ゼネラル・レビル

ドゴス・ギア級の大型戦艦で、連邦軍再建計画の要として建造された。マーサの指示で、ネェル・アーガマ追撃の任に就く。



「袖付き」だけではなく、トリントン基地を襲撃したジオン残党軍が連邦軍製MSを装備していた理由も、再建計画を進行させるためのものと言える。



48機ものMSを搭載し、高い運用能力を持つゼネラル・レビルだったが、「袖付き」の襲撃を受け撤退を強いられた。

ビスト財団とアナハイム・エレクトロニクス社

ビスト財団 [illegible]

地球連邦政府の秘密を封じた『ラプラスの箱』を持つがゆえに連邦政府から無限の便宜を引き出し、繁栄を極めた組織が「ビスト財団」である。

美術品や骨董品などの世界遺産をコロニーに移送する財団法人を装っていたが、実際には事業や投資で設けた金を洗浄する集金窓口だった。地球連邦政府の官僚の天下り先としても機能しており、連邦政府とは共生関係にあったと言える。

地球圏最大のコングロマリット、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社とも深い関係にある。同社に財団関係者を送り込んでもおり、メラニー・ヒュー・カーバインAE会長の引退後には実質的な支配体制を布くに至った。



ビスト財団の徽章。ユニコーンを模したものとなっている。

ビスト家 [illegible]

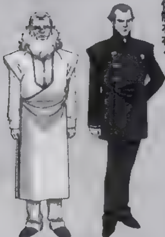
ビスト財団の創始者一族ビスト家は、旧フランス貴族の流れを汲む名門である。ただし財団を興したサイアム・ビストはビスト家に婿入りした男で、かつては「テロリスト」だった。

雇われの実行犯としてラプラス事件に関与したサイアムは、口封じのため殺されかけたが、偶然『箱』を入手して生還する。暗殺を避けるため素性を隠して地下に潜ったサイアムは闇社会で頭角を現した後、『箱』の力でAE社の発展に貢献した。

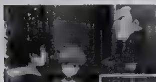
役員としてAE社に迎えられたサイアムは、専務の娘と結婚する。「サイアム・ビスト」が誕生した瞬間であり、この後、ビスト財団が発足したのだった。

サイアムの主導でビスト財団は発展し、U.C.0096には孫のカーディアス・ビストが宗主として辣腕を振るっていた。この時点でビスト家には200を下らない家族があったが、サイアムの家系が有力であり、カーディアスの妹マーサはAE社の会長一族に嫁ぎ、息子のアルベルトは幹部としてAE社に入り込んでいる。

U.C.0096の時点でもサイアムは冷凍睡眠技術を用いて存命であり、初代以来の傑物といわれたカーディアスと共にある計画を実行に移した。それこそが『箱』の譲渡であり、RX-0の1号機の確保と「ラプラス・プログラム」の導入を実施していった。



サイアム・ビスト（左）／カーディアス・ビスト（右）
ビスト財団の宗主であるサイアムは、財団の礎を作った。二代目宗主のカーディアスが下した決断は歴史に大きな一石を投じる。



「箱」の譲渡中止を求めるミネバの意見に一定の理解を示すが、自身の考えは変えなかった。



《メガラニカ》の最奥部で、「ラプラスの箱」と共に地球圏の情勢を静観していた。

バナージ・リンクス [illegible]

サイアムの血統には、もうひとりの人物が残されていた。カーディアスの息子で、アルベルトの異母弟にあたるバナージ・リンクスである。

幼少時にビスト家を離れたバナージは出自を知らないまま、AEの工業コロニー〈インダストリアル7〉で暮らしていた。

バナージが高専生だったU.C.0096、オードリー・バーンことミネバ・ラオ・ザビと出会ったうえ、再会した父カーディアスから『箱』の「鍵」《ユニコーンガンダム》を託されたことで、『箱』を巡る争乱に巻き込まれてしまう。

望まぬ形で紛争の中心に立つことになったバナージだが、《ネェル・アーガマ》のクルーをはじめとするロンド・ベル隊、『袖付き』や旧ジオン公国軍の将兵たちそしてミネバとの触れ合いの中で、『箱』の「呪い」と「祈り」を解き放つため戦いに臨むこととなった。



地球圏最大の巨大複合企業として君臨するAE社も、元は北米に本社を置く中規模家電メーカーに過ぎなかった。そのAE社が躍進する契機となったのが、ビスト家に婿入りする前のサイアムとの出会いである。

『箱』を持つサイアムの働き掛けで特許を取得したAE社は加速度的な成長を果たし、遂には月面都市グラナダに本社を構える巨大企業に発展した。

一年戦争後には旧ジオン公国系の軍事企業を合併・合併し、MS産業でも存在感を示していく。デラーズ紛争後、地球連邦軍との関係が冷え込んだ時期もあったが、連邦軍の兵器開発・製造の大部分を受注する寡占状態を実現した。この背景に『箱』を持つビスト財団の存在があったのは、言うまでもない（RX-0の開発がビスト財団の指揮下で行われたことからも、その関係性が窺える）。

カーバイン会長の引退後、会長一族に嫁いだマーサ・ビスト・カーバインが社内での影響力を強め、社の運営にまで口を挟む専横ぶりを見せた。マーサは地球連邦政府や参謀本部を含む連邦軍とも太いパイプを持ち、『箱』を巡る騒乱では曾祖父や兄と対立することとなる。



AEの社章。90年代前半までのものとはデザインが異なっている。



連邦軍の主力機の生産等を請け負っていたAE社は、軍や政府に大きな影響力を有していた。



アルベルト・ビスト（右）／マーサ・ビスト・カーバイン（左）

アルベルトは、ネェル・アーガマに乗船し、その動向をマーサに伝えていた。それを受けたマーサは、連邦軍をも巻き込んで策謀を巡らせた。



グリプス戦役以来、交戦状態にある二勢力に兵器を提供してきたAE社だが、ネオ・ジオンの弱体化を受けてビジネスモデルの維持、または変更を迫られた。その試金石となったのが、アルベルトが担った《シナンジュ・スタイン》の提供である。

『UC計画』ではRX-0の開発、地球連邦政府の黙認の下での『袖付き』への兵器供与などを担っており、連邦政府・軍と共同歩調を取るに至った。





MSN-06S
シナンジュ・スタイン

「UC計画」で開発された試作機。サイコフレームの実証機だったが、「袖付き」に強奪される。

インダストリアル7とメガラニカ

AE社はL1宙域に、工業コロニー〈インダストリアル7〉を私有している。U.C.0096の時点では完成しておらず、コロニービルダー〈メガラニカ〉と連結された状態だった。

この〈メガラニカ〉こそが、サイアム・ビストが眠る「氷室」が位置し、カーディアス・ビストが居を構えるビスト財団の根拠地である。さらに重要なことは、サイアムの「氷室」に『箱』＝真の宇宙世紀憲章が鎮座していたことで、ラプラスプログラムが示す最終目的地でもあった。

このことから『箱』を巡る争乱の最終決戦地となり、『箱』の流出阻止を目論む地球連邦軍のコロニーレーザー攻撃に晒された。だが、バナージの《ユニコーンガンダム》とリディ・マーセナスの《バンシィ》の活躍でコロニーレーザーの直撃を免れ、〈メガラニカ〉は巨大宇宙船として離脱していった。

ラプラス事件

地球連邦は、宇宙移民の強制的推進のために誕生した世界統一国家組織であり、西暦末期にはすでに機能していた。宇宙移民の開始をもって「ユニバーサルセンチュリー＝宇宙世紀」へ移行し、衛星軌道上の首相官邸〈ラプラス〉において改暦セレモニーが行われている。

しかし、式典中の〈ラプラス〉が爆破され、地球連邦初代首相リカルド・マーセナス以下、列席者たちが全滅する事件が発生してしまう。これが「ラプラス事件」である。

テロを実行した反地球連邦組織は速やかに検挙されたうえ、組織を支援する分離主義国家も地球連邦軍によって壊滅。新政権に移行した地球連邦政府は「リメンバー・ラプラス」の標語の下、反連邦運動を徹底的に取り締まり、U.C.0022には「地球上の紛争のすべての消滅」が宣言されるに至った。

事件の背後には、リベラルすぎるマーセナス政権の転覆を狙う連邦議会右派の暗躍があったが、ラプラス事件が地球圏統一と宇宙移民推進を加速したことも間違いなかった。



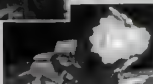
[illegible]
現在のものと形状が大きく異なる。



リカルド・マーセナス
地球連邦初代首相、改暦セレモニーの爆破テロによって命を落とした。マーセナス家は以降も連邦議員を輩出していく。



宇宙世紀への改暦セレモニーは地球圏全域に放映されていた。



しかし、爆破テロによって多くの人命が失われ、さらに以降の歴史も改変されていく。

宇宙世紀憲章

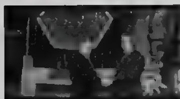
マーセナス政権を葬り去り、新政権を打ち立てた連邦議会右派は、別の隠蔽工作も行った。それが改暦セレモニーで発表されるはずだった、宇宙世紀憲章の改竄である。

地球連邦の根本法規たる宇宙世紀憲章には、理念を謳った抽象的条項が多い一方で、地球連邦政府に対するコロニーの従属的立場が明記されている。しかし、一般に知られた宇宙世紀憲章は、連邦議会右派主導の新政権が最終条項を削除したもので、最終条項の存在と内容は長らく知られていなかった。

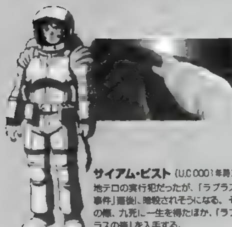
その最終条項とは「将来、宇宙に適応した新人類の発生が認められた場合、その者たちを優先的に政府運営に参画させる」というものだった。最終条項を含む宇宙世紀憲章が刻まれた石碑は、改暦セレモニーで発表される予定だったが、ラプラス事件で失われている。

しかし、この石碑を偶然入手した者がいた。後のサイアム・ビストである。

サイアムは、真の宇宙世紀憲章の石碑を盾に地球連邦政府と裏取引きし、莫大な富を築いていく。いつしか石碑は「ラプラスの箱」と呼ばれ、ビスト財団の繁栄を担保し、連邦政府との共生関係を成立させる重要物件となっていた。



真の宇宙世紀憲章には、その条文を認める意味も込めてリカルド・マーセナスをはじめする連邦政府高官らのサインが彫り込まれた。



サイアム・ビスト (U.C.0001年時)
地テロの実行犯だったが、「ラプラス事件」直後に暗殺されそうになる。その際、九死に一生を得たほか、「ラプラスの箱」を入手する。

「ラプラス箱」の重要化

当時の政治的スキャンダルの証拠に過ぎなかった『箱』だが、ジオン・ズム・ダイクンによるニュータイプ論の提唱と、それに続く事態が意味合いを大きく変えてしまう。

特に、ニュータイプ論を含むジオニズムを根本思想とするジオン公国の誕生、人類の半数を死に至らしめた一年戦争、一年戦争で「実証」されたニュータイプの存在が『箱』の開示を不可能にした。削除された最終条項がニュータイプと結び付けられやすい性格を持つ以上、その公開かジオン勢力の活発化を招き、一年戦争を再来させてしまう可能性があったためである。

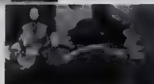
以後、『箱』はビスト財団と地球連邦政府の共生関係を一層強化し、その実態を知る者たちは徹底的に隠匿したのだった。

しかしその一方で『箱』は、地球連邦発足当初の理念を捻じ曲げ、「あるべき未来」を先送りしてもいた。最初から真の宇宙世紀憲章が公表されていれば、地球・宇宙間の格差や対立が軽減された可能性も否定できない。

事態を憂慮したサイアム・ビストとその孫カーディアス・ビストが『箱』の譲渡に動き、これを察知した地球連邦政府が『箱』の奪取を目指した背景には、こうした事情があった。



〈メガラニカ〉に置かれた真の宇宙世紀憲章。たったひとつの条文が宇宙世紀の歴史を左右していた。



「袖付き」と譲渡について交渉するサイアム。彼は「箱」に鍵を設けていた。

マーセナス家

地球連邦政府初代首相リカルド・マーセナスを輩出したマーセナス家は「ラプラス事件」後も、政界に大きな影響力を示した。ただし、リカルドが示した理想はいつしか失われ、一年戦争の再来を防ぐため『箱』の封印維持を優先するようになっていった（リカルドの死の真相を知りながら、それを逆用して連邦政府内に勢力を築いたようである）。

U.C.0096時の連邦政府中央議会議員にして、「影の内閣」と揶揄された移民問題評議会の議長ローナン・マーセナスも『箱』の開示を望まなかった。『箱』を巡る争乱が発生すると、ロンド・ベル隊司令ブライト・ノア大佐に『箱』の確保を依頼したほか、同隊の隊員だった息子リディ・マーセナスに『箱』の正体を告げている（他にも、ローナンの娘婿で公設秘書のパトリック・マーセナスがいるという）。

『箱』の所在判明後、『袖付き』による『箱』の確保を恐れたローナンは、マーサ・ビスト・カーバインや連邦軍参謀本部と連携。〈グリプス2〉のコロニーレーザーで、〈メガラニカ〉ごと『箱』を消滅させようとしたが、〈バンシィ〉のパイロットとして〈メガラニカ〉戦に介入したリディらの活躍で阻止されることとなった。

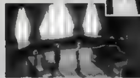


ローナン・マーセナス(右)
地球連邦政府の議員で、リディの父。「箱」の確保を狙うが、最終的にはその存在を消し去ろうとした。

リディ・マーセナス(左)
マーセナス家の嫡子。家に束縛されることを嫌い、連邦軍に身を置いていた。地球に降りた際、「箱」の存在を知らされる。



「箱」を巡る争乱の最終局面において、連邦軍やマーサ・ビスト・カーバインと結託し、コロニーレーザーを用いた。



父ローナンからマーセナス家と「箱」の関係を告げられる。その際に受けたショックが彼の行動に大きな影響を与えた。

ロンド・ベル

独立機動艦隊

第一次ネオ・ジオン戦争後、ネオ・ジオンをはじめとする反連邦組織の捜索・摘発を任務とする地球連邦軍特務隊として誕生したのが、独立機動艦隊「ロンド・ベル」である。かつてのティターンズほどではないが独自の作戦指揮権を与えられており、軍管区を越えた行動や連邦軍基地を含む各種施設の捜索すら可能だった。

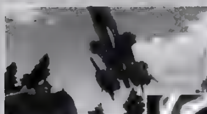
その独立性と任務、一年戦争の英雄ブライト・ノア大佐やアムロ・レイ大尉を擁したことから、エリート部隊と思われがちだが実態は異なる。

艦隊司令兼旗艦艦長のブライト大佐は権力欲と無縁だったうえ、必要と判断したことは連邦政府や参謀本部の意向に反しても実行したことから、政府・軍上層部からは煙たがられていた。任務も地球連邦軍の各方面軍が嫌う汚れ仕事を押し付けられていたと考えてよく、スペースノイドから反感を持たれることも多かった。

それでもロンド・ベル隊の活躍には目覚しいものがあり、『シャアの反乱』ではアムロ大尉をはじめとする多大な犠牲を払いながら、地球寒冷化作戦の阻止に貢献している。



ロンド・ベルの徽章。「シャアの反乱」時のものとはわずかにデザインが異なる。



ラー・カイラムは『ラプラスの箱』を巡る紛争では、独自の立場で活動した。



紛争の中心にあったネェル・アーガマは地球連邦軍から追われる立場となった。

「ラプラスの箱」を巡る争乱期のロンド・ベル

U.C.0096時にもロンド・ベル隊は維持されており、ブライト大佐も艦隊司令を続投していた。

艦艇はミノフスキー・クラフトが増設された旗艦《ラー・カイラム》以下、主力艦のクラップ級、単艦運用が多い《ネェル・アーガマ》などで一般部隊より優遇されていたと言える。MSも強力な機体が目立ち、ジェガンのマイナーチェンジ仕様の《ジェガンD型》を中心に、特務仕様の《スタークジェガン》、可変機の《リゼル》、『UC計画』の一環として開発された《ジェスタ》などを装備した。

『ラプラスの箱』を巡る争乱に巻き込まれた際は、事態に深く関与した《ネェル・アーガマ》が地球連邦軍に追われる立場となった。しかし、ブライト大佐の支援やバナージ・リンクスの《ユニコーンガンダム》の活躍もあって危機を脱し、『箱』の開示に大きな影響を与えたのだった。



ブライト・ノア(左)
オットー・ミタス(右)
ブライトは艦隊司令を務め、部隊独自の権限を行使し、連邦軍の暴走を止めようとした。オットーは《ネェル・アーガマ》を率い、「箱」を巡る争乱の最前線に立った。



ラー・カイラム
「シャアの反乱」時からのロンド・ベルの旗艦。大気圏突入能力を備える。

ネェル・アーガマ
第一次ネオ・ジオン戦争時に建造されたが、近代化改修を行い運用され続けていた。リゼルなどを配備。

人狩り部隊

連邦宇宙軍特殊作戦群「エコーズ」は、ネオ・ジオン軍残党の摘発や掃討を主任務とする対テロ特殊部隊である。軍務から警察権に亘る活動が特権的に認められ、公安調査の権限も限定的に与えられた。

『シャアの反乱』直後に発足した新設部隊で、任務はロンド・ベルと重複する部分もある。ただしMS戦以外にも、地域を問わない情報収集・市街戦・拉致・暗殺などを得意とし、一般に想像される「特殊部隊」に近い存在だった。多用途性やフットワークの軽さはロンド・ベル隊以上のものがあり、部隊名のECOAS（Earth COlony ASteroid=地球、コロニー、小惑星の略）の部隊名からも『作戦・場所を問わず』の信条が理解できる。

しかし、連邦軍一般部隊からの評判は悪く、侮蔑や畏怖の対象にすらなっていた。任務の性質上、秘密主義を取らざるを得ないことも一因だが、手段を問わない情報収集や拉致・暗殺が嫌悪されたのだ。

中でも〈スウィートウォーター〉でのテロ集団暗殺任務で、33人の子供を結果的に死なせたことは大きく「人狩り部隊」の異名で呼ばれる要因となった。



エコーズの徽章。シンプルな形状で、制服の左袖に付けられていた。


ミネバを人質としてフロンタルと交渉をするダグザ。あらゆる手段を用い、任務に柔軟に対応した。

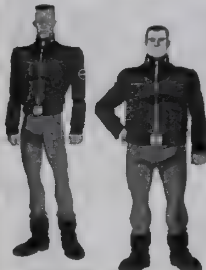

「箱」を巡る争乱の初期では、〈メガラニカ〉への襲撃や「袖付き」との交渉に人質を使うなど、様々な手段を講じた。

920部隊

エコーズは総数不明の部隊で構成されており、基本的には一部隊で任務を遂行する。その代表が、ダグザ・マックール中佐が司令を務めた920部隊で、『箱』を巡る紛争では《ネェル・アーガマ》に同乗し、任務にあたった。

この中で920部隊は、〈インダストリアル7〉およびコロニービルダー〈メガラニカ〉における『箱』奪取作戦、鉱物資源衛星〈パラオ〉でのバナージ救出作戦などに従事した。〈パラオ〉戦以降は他のエコーズ所属部隊と共同。一連の任務では白兵戦や破壊工作のほかにも、部隊専用機を用いたMS戦も展開した。

〈ラプラス〉戦でマックール中佐が戦死したものの、副司令のコンロイ・ハーゲンセン少佐が指揮を引き継ぎ、最終決戦となった二度目の〈メガラニカ〉戦まで《ネェル・アーガマ》と共闘している。


ダグザ・マックール（左）
コンロイ・ハーゲンセン（右）
エコーズ920部隊の司令と副指令。ダグザは首相官邸〈ラプラス〉で戦死したが、部隊はネェル・アーガマに乗艦し続け、コンロイ指揮の下で戦った。


〈インダストリアル7〉宙域での戦闘では、MSを運用し、ネェル・アーガマの防御を担った。

ネオジオン残党軍『袖付き』

ネオ・ジオン残党軍

『シャアの反乱』後、残党化したネオ・ジオンの最大勢力が『袖付き』である（『袖付き』という呼称は地球連邦軍のもので、ネオ・ジオン残党のMSの手首などに施されたジオンの紋章が、袖飾りに見えたことから付けられた）。ハマーン時代は当然のことシャア時代と比較しても戦力規模は小さく、スペースノイドからの支持も限定的だった。

ザビ家の遺児ミネバ・ラオ・ザビを戴いてはいたが、実権は〝シャアの再来〟と呼ばれるフル・フロンタル大佐が握っており、サイド共栄圏構想実現のため『箱』の奪取を目指した。



「袖付き」の徽章。MSのエングレービングもこのデザインを踏襲したものとなっている。

シナンジュ強奪事件

総帥シャア・アズナブルの未帰還で求心力を失ったネオ・ジオンは、散発的なテロと略奪を繰り返すだけの烏合の衆と化していた。この事態を受けたジオン共和国の右派（国防大臣モナハン・バハロとされる）は、シャアと瓜二つの外見と声を持つ強化人間〝大佐〟を送り込み、組織の再編を促した。

この強化人間こそ『袖付き』の首魁となるフル・フロンタル大佐だった。

フロンタル大佐によって再編されたネオ・ジオン残党は、鉱物資源衛星〈パラオ〉を拠点に活動を活発化させていく。中でもフロンタル大佐の存在とネオ・ジオンの復活を印象付けた事件が、U.C.0094.06.15のシナンジュ強奪事件だった。

この事件は、輸送中の試作MS〈シナンジュ・スタイン〉がネオ・ジオン残党に奪われたうえ、輸送任務に就いていた地球連邦軍艦隊がフロンタル大佐の〈シナンジュ・スタイン〉に壊滅させられたものだった。

その内実は『UC計画』における「敵」を欲した連邦軍が、ネオ・ジオン残党にサイコミュ搭載MSを供与した陰謀劇で、フロンタル大佐の存在も連邦政府・軍に黙認されていた。

本来、シナンジュ強奪事件は無血で完了するはずだった。これを覆したのがフロンタル大佐で、『袖付き』の脅威が喧伝されることとなった。



強奪された〈シナンジュ・スタイン〉は「袖付き」の手で改修され、〈シナンジュ〉としてフロンタルの乗機となった。

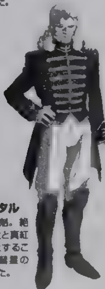
ミネバ・ラオ・ザビ

グリプス戦役後、シャア・アズナブルと共に姿を消し、第1次ネオ・ジオン戦争と「シャアの反乱」でも所在不明となっていたミネバ・ラオ・ザビは『袖付き』の象徴として〈パラオ〉に居住していた。

しかしフロンタル大佐を信用していなかったミネバは『箱』の譲渡計画を知ると、それを阻止するため〈インダストリアル7〉へと密航する。

そこでバナージと出合ったミネバは、その後もカーディアス・ビスト、ローナン・マーセナス、マーサ・ビスト・カーバインら各勢力の重要人物と対峙しながら地球圏を旅した末、フロンタル大佐が語るサイド共栄圏構想を否定。

〈メガラニカ〉においてサイアム・ビストから『箱』の真相を告げられたミネバは、フロンタル大佐の方針に反して『箱』の正体を世界に公開し、その意義を地球圏の全人類に語ったのだった。



フル・フロンタル
「袖付き」の首魁。絶大なカリスマ性と真紅のMSを乗機とすることから、「赤い彗星の再来」と呼ばれた。

「ラプラスの箱」を巡る争乱

ビスト財団から『箱』〈の『鍵』である《ユニコーンガンダム》〉譲渡交渉を持ち掛けられた『袖付き』は、〈インダストリアル7〉に向かった。しかし、地球連邦軍の介入で交渉は失敗したうえ、『箱』の在り処を示す《ユニコーンガンダム》のラプラスプログラムがバナージ・リンクスでしか起動できないことが判明する。

これを受けた『袖付き』は、バナージと《ユニコーンガンダム》を泳がせたうえ、地球連邦軍に狙われた《ネェル・アーガマ》との共闘を模索した。共闘こそ不成立に終わったものの、『箱』の所在を確認した『袖付き』は〈メガラニカ〉に赴き、《ネェル・アーガマ》との激闘を繰り広げている。

しかし〈メガラニカ〉戦でフロンタル大佐が戦死したうえ、ミネバが『箱』の真実を公にしたことで『袖付き』の目論見は崩れ、組織も崩壊に向かった。



〈インダストリアル 7〉以降、《ユニコーンガンダム》の動向を探るために、ネェル・アーガマを追撃した。



〈メガラニカ〉における戦いで、指導者である大佐が戦死したほか、コロニーレーザーで艦隊を失い、組織は瓦解。

旧ジオン公国軍残党

『袖付き』は他のジオン残党組織とも連絡を取っていた。その代表が、ニューギニア近郊に拠点を構えていたカークス隊（ヨンム・カークス指揮）である。

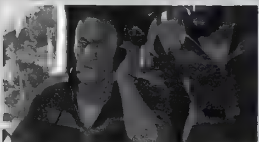
『袖付き』はカークス隊にサイコフレームを提供し、第1次ネオ・ジオン戦争時代の水陸両用MA《シャンブロ》の完成に寄与したほか、ダカールおよびトリントン戦に合わせて水陸両用MS《ゼー・ズール》とパイロットを派遣しもした（カークス隊によるダカール襲撃は、『袖付き』の偽装船《ガランシェール》のアフリカ不時着をカモフラージュする意味があった）。

カークス隊主導で行われたトリントン戦には、地球上の他のジオン残党も参加、連邦軍相手に善戦したが、戦闘後半に反撃を許し《シャンブロ》を含む参加機体の多くが失われた。





カークス隊の主力の一角を担ったシャンブロは、「袖付き」の技術支援もあって完成に漕ぎ着けた。



トリントン基地襲撃には、他のジオン残党には協力を要請。第三次降下作戦で使用された暗号の符丁を用いて連絡を取った。

AE社の寡占状態と新型MS

U.C.0090年代中期のMSをめぐる環境は、「シャアの反乱」期と大差がない。高コスト化を招く第三・第四世代MSの淘汰が進んでシンプルな第二世代型が主流となり、ほぼすべてのMSがAE社製という環境である。AE社が地球連邦軍とネオ・ジオンの双方に兵器を提供する形式も継続された。

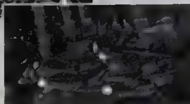
その一方でMSの変化の兆候も見られた。第三世代MS=可変MSとしては低コストな《リゼル》の配備が進んだほか、より大型の新主力MS《グスタフ・カール》の試験運用開始、特殊部隊用とはいえ12m級の頭頂高しかないサナリィ製小型可変MS《ロト》の完成など、U.C.0100年代への布石となる機体が誕生している。

その一方で、主力機系列とは異なるウルトラハイエンドのニュータイプ用MSの開発も行われた。《ユニコーンガンダム》や《シナンジュ》などの『UC計画』系サイコフレーム搭載機が該当する。



サイコフレーム搭載機は、資材の開発などが表向きは中止されていたため、極秘に建造されており、開発スタッフも全貌は知らなかった。





新型機と旧型機による部隊編制は、ハイロー―ミックス構想を成していた。

地球連邦軍のMS

地球連邦軍では、ジェガン系MS中心の配備状況が拡大した。主力MSは《ジェガンD型》や《ジェガンA2型》といったジェガンのマイナーアップデート型で、特務仕様／対艦攻撃用の《スタークジェガン》や偵察用《EWACジェガン》に至ってはジェガンD型のオプション装備バリエーションである。新型可変MS《リゼル》や《アンクシャ》も、生産・整備性向上のためジェガンとの部品の共通化を図っていた。

しかし、旧型機からジェガン系MSへの更新は中途にあり、二線級の部隊や地上部隊では、第1次ネオ・ジオン戦争以前のMSも現役だった。ダカール守備隊の《ジムIII》、トリントン基地の《ジムII》は旧型機の継続配備の顕著な例である（代替機がない支援用MSは、旧式機でも配備の合理性があった）。

反連邦組織の脅威度が低下した時代では、MSの更新にも制約が付きまとったのだ。

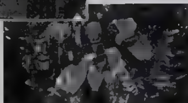


RGM-89D
ジェガンD

U.C.0096における地球連邦軍の主力で、本機をベースにいくつかのバリエーションが開発、運用されていた。



ジムIIやジムIIIなどの旧式[redacted]されていた。

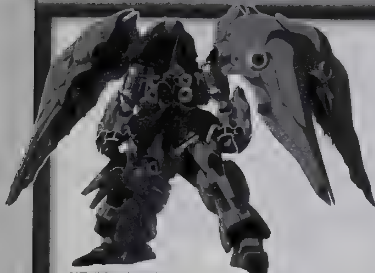


カフカスの森には、新主力機であるグスタフ・カールが先行配備中であった。

「袖付き」のMS

『袖付き』は、AE社から第二世代型の新主力MS《ギラ・ズール》を提供され戦力を拡充している。だがギラ・ズール》の絶対数は少なく、大半は旧型機だった。『シャアの反乱』期の主力MS《ギラ・ドーガ》はいい方で、ハマーン時代の《ドライセン》や《ガザD》、果てはグリプス戦役期の《ガザC》やテラーズ紛争期の《ドラッツェ》まで運用された。

『袖付き』独自の新型機としてはサイコフレーム搭載のニュータイプ専用機《クシャトリヤ》があるが資材調達の問題から追加生産はおろか修復すら難しい状況にあった。基本的に『袖付き』単独でのMS開発は困難で、新型機とはいっても《ローゼン・ズール》や《シュツルム・ガルス》といった既存のMSの改造型が目立っている。



NZ-666 クシャトリヤ
「袖付き」が独自には開発した機体。使用している資材や機構の問題から増産や修復もできなかった。



UC0080年代中期からU.C.0090年代前半までの機体が多く見られた。また、既存機の改修型も運用していた。

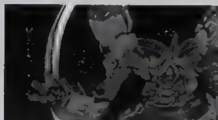
サイコフレーム

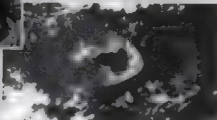
RX-93《νガンダム》やMSN-04《サザビー》に搭載されたサイコミュ系素材「サイコフレーム」は、MSの性能を大幅に向上させた。だが、未知の部分が大き過ぎることから、地球連邦軍での公的な開発は中止されている。サイコフレームが形成する「サイコ・フィールド」に人間の意志を実現する能力があり、それが実証された小惑星基地〈アクシズ〉の地球落下阻止＝アクシズ・ショックが影響したと言われる。

開発中止の例外が『UC計画』であり、サイコフレーム試験機《シナンジュ・スタイン》や、全ムーバブル・フレームがサイコフレームの《ユニコーンガンダム》が完成。特に《ユニコーンガンダム》の性能は別次元のもので、サイコ・フィールドによりコロニー・レーザーすら阻止した。

サイコフレーム系の特殊装備としては《ユニコーンガンダム》用のアームド・アーマー・シリーズ、サイコ・フィールドに近い現象を意図的に引き起こす《ネオ・ジオング》のサイコシャードがある。

サイコフレームの機能は完全には解明されていなかったが、様々な特殊機器が開発・運用された。





アクシズ・ショックが関係者に与えた影響は大きく、開発中止の一因となった。

バナージ・リンクスの旅路

6 ネェル・アーガマ

《箱》に関わりすぎたことから地球連邦軍の攻撃を受けた《ネェル・アーガマ》だが、『袖付き』の支援で脱出。バナージは《ネェル・アーガマ》に合流した。『袖付き』から共闘を持ち掛けられた《ネェル・アーガマ》とバナージはこれを拒否し、ラプラス・プログラムが示した最終座標<メガラニカ>に向かった。

5 ガルダ

バナージは《ユニコーンガンダム》と共に《ラー・カイラム》から《ガルダ》へ移送されることに。移送中、《ガランシェール》による襲撃で混乱が生じると反撃に転じ、《ガルダ》に拘束されていたミネバを救出。その後、大気圏上層に降下中の《ネェル・アーガマ》のテザーと《ガランシェール》を繋ぎ、宇宙に帰還した。

6

5

3 首相官邸<ラプラス>

バナージと《ユニコーンガンダム》の関連を知った『袖付き』は、バナージを泳がせることに。《ネェル・アーガマ》とエコーズによる<パラオ>襲撃の混乱の中、バナージは脱出。直後、ラプラス・プログラムが示した旧首相官邸<ラプラス>で『袖付き』と交戦するも、《ガランシェール》と共に地球に落下した。別ルートでミネバも地球へ赴いた。

Australia

4 トリントン

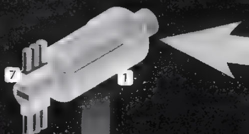
アフリカに降下したバナージは《ガランシェール》と行動を共にし、地球のジオン残党カークス隊と出会う。ラプラスプログラムが示した次の座標、豪州トリントンに向かい、暴走するジオン残党と対峙した後、マーサ・ビスト・カーバインの指揮下に置かれたビスト財団に拘束され、ロンド・ベル隊旗艦《ラー・カイラム》に移送された。

父カーディアス・ビストから『箱』の「鍵」たる《ユニコーンガンダム》を託されたバナージ・リンクスは、ラプラス・プログラムに導かれて地球圏各地を転戦した。それは宇宙世紀の歴史と未来を見つめ直す旅でもあった。

7

メガラニカ

「袖付き」と交戦しつつ〈メガラニカ〉に入ったバナージとミネバ、「箱」の正体が真の宇宙世紀憲章の石碑であることを知る。フロンタル大佐を退けた後、地球連邦軍が放ったコロニーレーザーを阻止したバナージは「真のニュータイプ」となるが、「箱」の正体を公開したミネバの下に帰還したのだった。



1

<インダストリアル７>と<メガラニカ>

＜インダストリアル７＞のアナハイム工専に通うバナージは、オードリー・バーンことミネバ・ラオ・ザビと出会い＜メガラニカ＞に同行。「袖付き」とロンド・ベル隊が交戦し、エコーズが侵入する混戦の中、顔すら覚えていなかった父から《ユニコーンガンダム》を託されて宇宙に脱すると「袖付き」機《クシャトリヤ》と交戦後、《ネェル・アーガマ》に回収された。



2

パラオ

《ユニコーンガンダム》と「箱」の位置を示すラプラス・プログラムに、バナージが必須であることが判明。フル・フロンタル大佐の前に危機に陥った《ネェル・アーガマ》を救うべく、バナージは《ユニコーンガンダム》で出撃するも鹵獲され、「袖付き」の拠点＜パラオ＞に連行された。

Africa



ご記入いただいたお客様の個人情報は、当社のグループ各社の商品やサービスのご案内などに利用させていただく場合がございます。また個人情報を識別できない形で統計処理をした上で、当社グループ各社の商品企画やサービスの向上に役立てるほか、第三者に提供することがあります。

[アンケートご協力のお願い]

本書をお読みになってどんな感想を持ちましたか？　アンケートにご協力ください。以下のURL、または上のQRコード（携帯電話カメラ用）で、小社アンケートページにアクセスできます。

https://sel.asciimw.jp/dengeki/cgi-bin/hobbybooks/



電撃データコレクション

機動戦士ガンダムUC

2014年12月13日初版発行

編集	電撃ホビーマガジン編集部	
企画・構成	有限会社メガロマニア	
原稿	杉山和成、坂口徳仁、石井誠、岡島正晃	
発行者	塚田正晃	
発行	株式会社 KADOKAWA	〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
プロデュース	アスキー・メディアワークス	〒102-8584 東京都千代田区富士見1-8-19 TEL:03-5216-8392（編集部 平日 月～金 11:00～18:00） TEL:03-3238-1854(営業)
カバーデザイン	フライトラボ	
本文デザイン	フライトラボ	
印刷・製本	共同印刷株式会社	
協力	株式会社サンライズ 株式会社バンダイホビー事業部	

©創通・サンライズ

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)並びに無断複製物の譲渡および配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁本はお取り替えいたします。購入された書店名を明記して、アスキー・メディアワークス お問い合わせ窓口あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。但し、古書店で本書を購入されている場合はお取り替えできません。
定価はカバーに表示してあります。なお、本書および付属物に関して、記述・収録内容を超えるご質問には、お答えできませんので、ご了承ください。

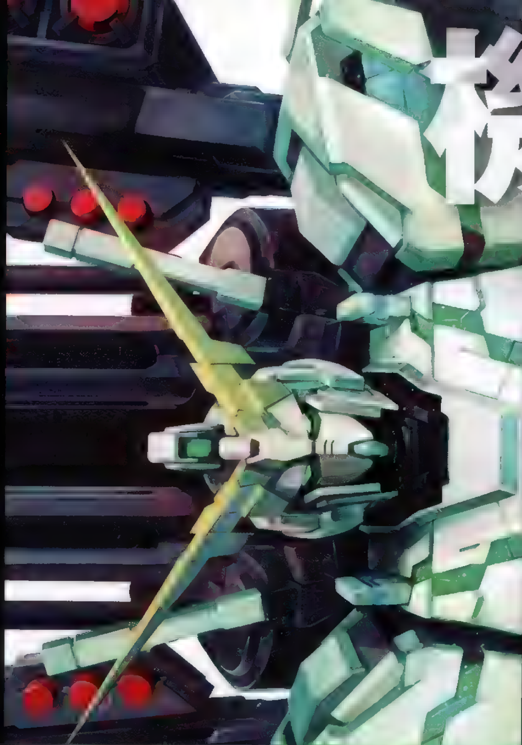
Printed in Japan

ISBN978-4-04-869155-0　C0076

©2014 KADOKAWA CORPORATION　ホームページ http://www.kadokawa.co.jp/

電撃データコレクション

機動戦士ガンダム UC [ユニコーン]



『機動戦士ガンダムUC』の全てを
網羅した完全設定資料集!!

『ラプラスの箱』の鍵たる
「可能性の獣(ユニコーン)」その戦いの軌跡

宇宙世紀0096年、「ラプラスの箱」が
「箱」の鍵、ユニコーン

機動戦士ガンダムUC
[ユニコーン]

電撃データコレクション



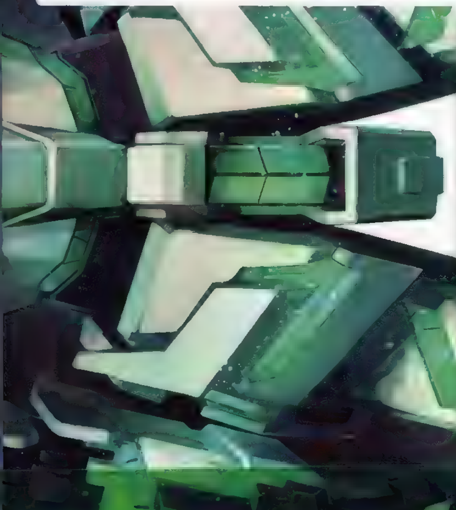


ISBN978-4-04-869155-0
C0076 ¥1000E

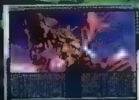

ASCII
MEDIA
WORKS

KADOKAWA
発行　株式会社KADOKAWA

定価: 本体 1,000 円
※消費税が別に加算されます



MOBILE SUIT GUNDAM UNICORN
DATA COLLECTION







登場したMSをはじめとするメカニックに加え、キャラクターや設定などを完全収録!!



MOBILE SUIT GUNDAM UNICORN

DATA COLLECTION


電撃データコレクション
機動戦士ガンダムUC
[ユニコーン]



機動戦士ガンダムUC

電撃データコレクション

アスキー・メディアワークス





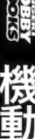
ISBN978-4-04-869155-0
C0076 ¥1000E



KADOKAWA
発行 株式会社KADOKAWA

定価: 本体 1,000 円
※消費税が別に加算されます

MOBILE SUIT GUNDAM UNICORN
DATA COLLECTION



機動戦士ガンダムUC

電撃データコレクション

アスキー・メディアワークス